

# 小田原市男女共同参画市民意識調査 報告書

令和7年3月

小 田 原 市



# 目次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	1
II	調査結果.....	2
1	男女共同参画に関する基本的意識について.....	2
2	女性の活躍推進に関する意識について.....	29
3	性の多様性について.....	35
4	DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する意識について.....	41
5	ハラスメントに関する意識について.....	59
6	困難な問題を抱える女性への支援について.....	74
7	男女共同参画社会に関する行政への要望について.....	75
8	あなたご自身のことについて.....	80
III	自由回答.....	83
(1)	男女共同参画（社会）に関する意識について.....	83
(2)	出産・育児に関する意識について.....	83
(3)	女性の活躍推進に関する意識について.....	83
(4)	性の多様性について.....	84
(5)	DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する意識について.....	84
(6)	ハラスメントに関する意識について.....	85
(7)	男女共同参画社会に関する行政への要望.....	85
(8)	男女共同参画社会に関する教育の推進.....	85
(9)	アンケートについて.....	86
(10)	その他.....	86
IV	調査票.....	87



# I 調査の概要

## 1 調査の目的

令和7年度から8年度に予定している「(仮称)第4次おだわら男女共同参画プラン」の策定に向けて、男女共同参画の施策形成のための基礎資料とするための意識等を調査することを目的に実施した。

## 2 調査対象

小田原市内にお住まいの18歳以上(令和6年10月1日現在)の男女3,000人を無作為抽出

## 3 調査期間

令和7年1月8日～令和7年1月20日

## 4 調査方法

郵送による配布・回収

## 5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
市民	3,000通	960通	32.0%

## 6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数(N)を基数とした百分率(%)で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計(全体)の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。

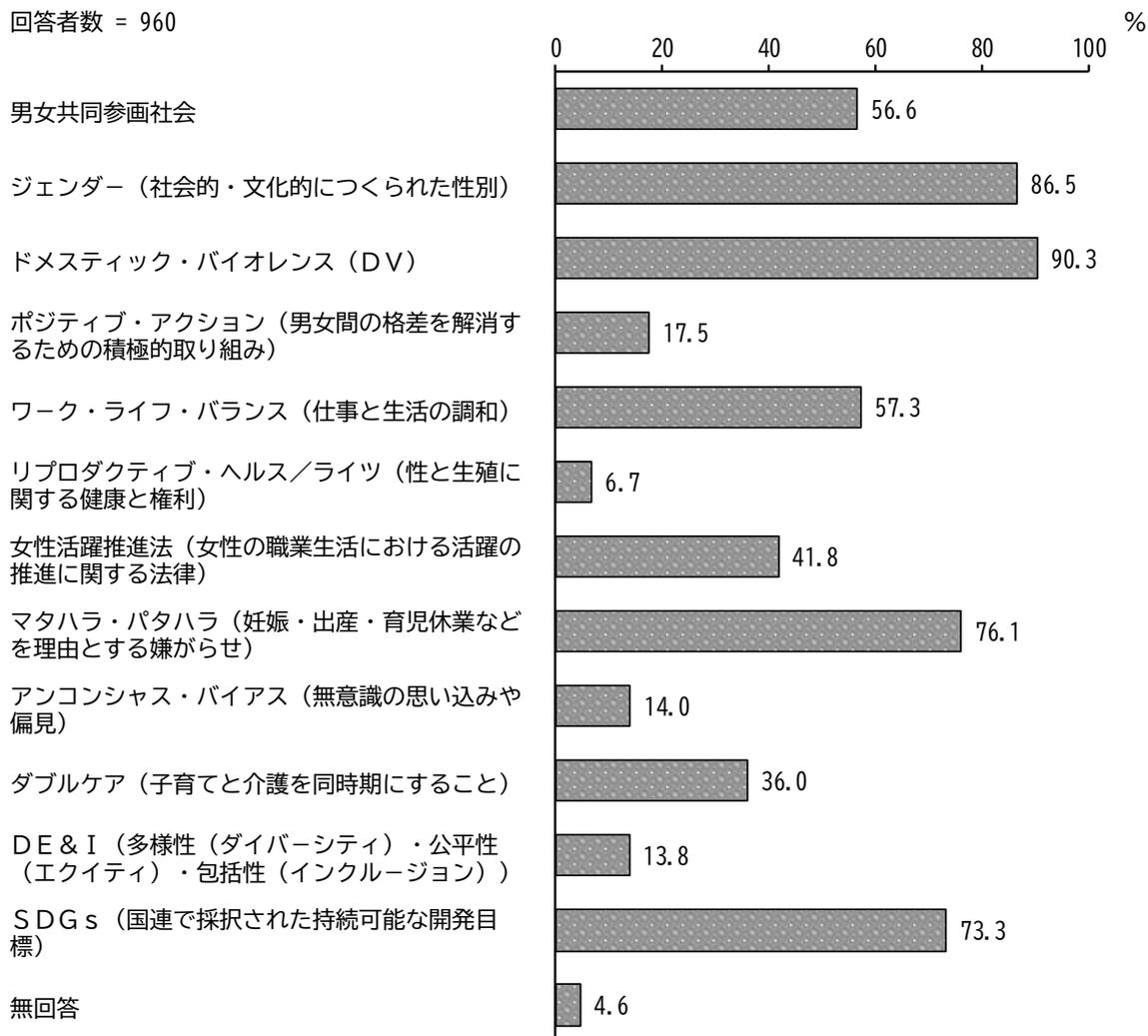
## II 調査結果

### 1 男女共同参画に関する基本的意識について

問1 男女共同参画に関する次の言葉のなかで、あなたが知っている、または聞いたことがある言葉すべてに○をつけてください。

「ドメスティック・バイオレンス（DV）」の割合が90.3%と最も高く、次いで「ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）」の割合が86.5%、「マタハラ・パタハラ（妊娠・出産・育児休業などを理由とする嫌がらせ）」の割合が76.1%となっています。

回答者数 = 960



【性別、性・年齢別】

性別でみると、「男女共同参画社会」は男性（62.1%）が女性（52.2%）より9.9ポイント高くなっている。一方、「ダブルケア（子育てと介護を同時期にすること）」は女性（41.2%）が男性（28.1%）より13.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「DE & I（多様性（ダイバーシティ）・公平性（エクイティ）・包括性（インクルージョン）」は男性40代（40.4%）で高くなっている。

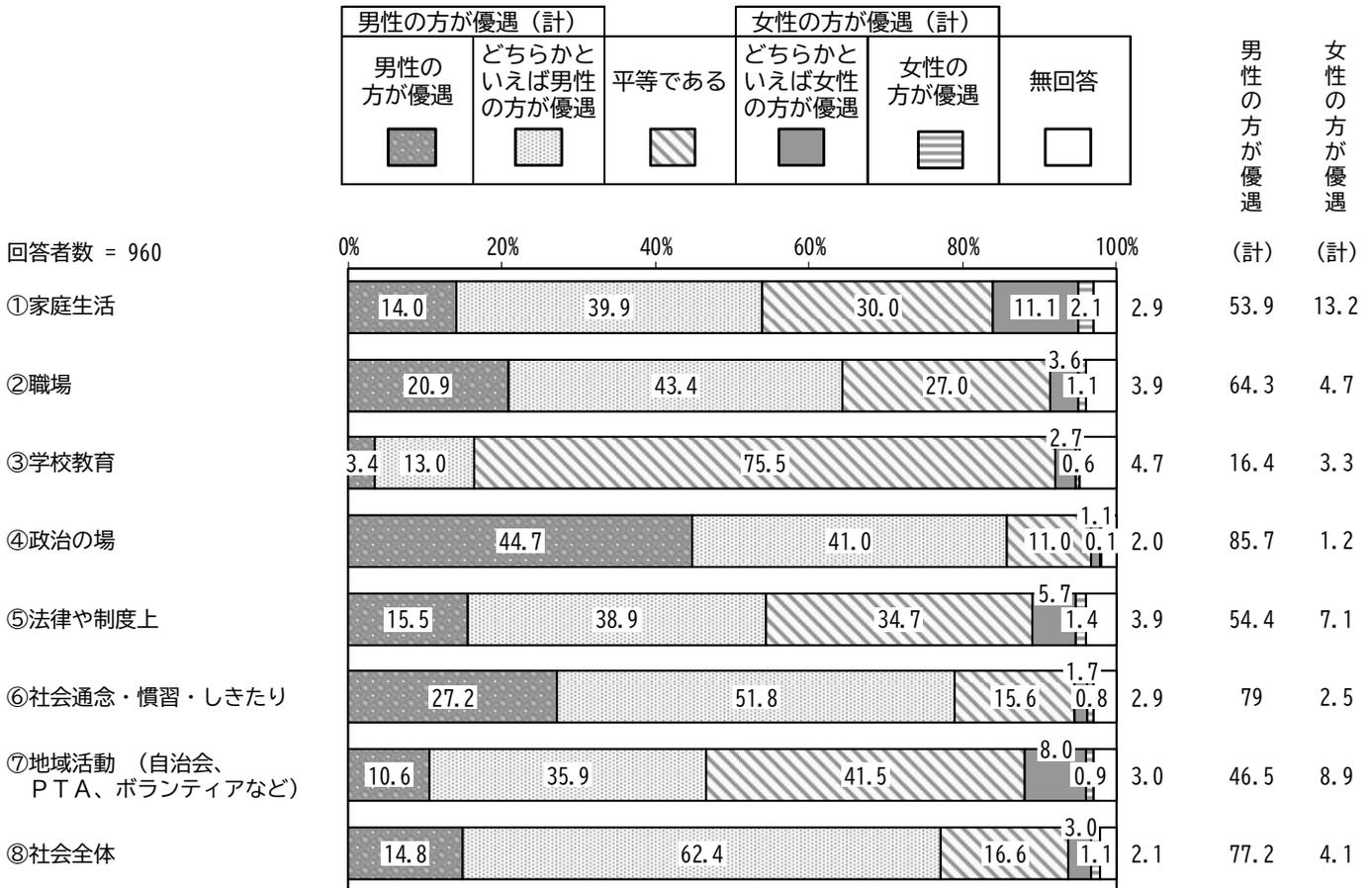
単位：%

区分	回答者数（件）	男女共同参画社会	ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）	ドメスティック・バイオレンス（DV）	ポジティブ・アクション（男女間の格差を解消するための積極的取り組み）	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）
全体	960	56.6	86.5	90.3	17.5	57.3	6.7
男性	398	62.1	86.4	89.7	14.3	62.8	6.8
女性	544	52.2	86.9	91.2	19.1	53.5	6.6
男性 10代	4	50.0	100.0	100.0	25.0	100.0	25.0
20代	20	70.0	95.0	90.0	10.0	80.0	5.0
30代	28	71.4	85.7	85.7	3.6	78.6	—
40代	47	66.0	91.5	95.7	12.8	76.6	10.6
50代	78	55.1	93.6	92.3	7.7	74.4	2.6
60代	81	65.4	90.1	93.8	14.8	66.7	13.6
70歳以上	140	60.0	77.1	84.3	20.7	42.9	5.0
女性 10代	7	71.4	100.0	100.0	14.3	100.0	28.6
20代	24	58.3	87.5	91.7	8.3	83.3	12.5
30代	48	50.0	89.6	93.8	10.4	66.7	6.3
40代	77	41.6	93.5	92.2	9.1	66.2	11.7
50代	108	49.1	94.4	98.1	14.8	56.5	5.6
60代	90	61.1	91.1	94.4	16.7	43.3	7.8
70歳以上	188	53.2	77.1	84.0	30.3	42.0	3.2

区分	女性の活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）	マタハラ・パタハラ（妊娠・出産・育児休業などを理由とする嫌がらせ）	アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込みや偏見）	ダブルケア（子育てと介護を同時期にすること）	DE & I（多様性（ダイバーシティ）・公平性（エクイティ）・包括性（インクルージョン））	SDGs（国連で採択された持続可能な開発目標）	無回答
全体	41.8	76.1	14.0	36.0	13.8	73.3	4.6
男性	43.5	74.4	16.1	28.1	16.6	75.4	4.5
女性	40.1	77.8	12.5	41.2	11.8	72.4	4.4
男性 10代	75.0	50.0	25.0	50.0	25.0	100.0	—
20代	35.0	70.0	5.0	20.0	10.0	75.0	5.0
30代	42.9	78.6	25.0	14.3	17.9	85.7	10.7
40代	53.2	83.0	29.8	27.7	40.4	93.6	4.3
50代	51.3	83.3	23.1	23.1	17.9	85.9	2.6
60代	43.2	75.3	22.2	27.2	16.0	80.2	3.7
70歳以上	36.4	66.4	3.6	35.0	8.6	57.9	5.0
女性 10代	28.6	71.4	28.6	—	—	100.0	—
20代	50.0	83.3	37.5	33.3	8.3	91.7	4.2
30代	43.8	87.5	20.8	27.1	12.5	89.6	2.1
40代	37.7	75.3	18.2	27.3	18.2	89.6	5.2
50代	48.1	82.4	15.7	42.6	19.4	85.2	0.9
60代	43.3	87.8	8.9	45.6	10.0	74.4	3.3
70歳以上	33.0	68.6	4.3	49.5	6.4	49.5	7.4

問2 次の①から⑧の各分野において、男女の地位はどのようになっていると思いますか。あてはまる番号それぞれ1つずつ○をつけてください。

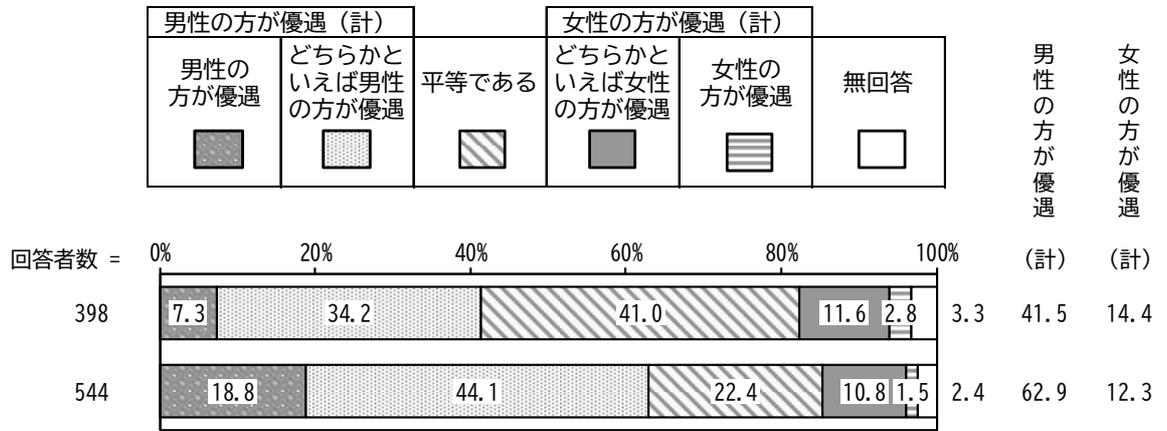
『④政治の場』で「男性の方が優遇」の割合が、『⑧社会全体』で「どちらかといえば男性の方が優遇」の割合が高くなっています。また、『③学校教育』で「平等である」の割合が高くなっています。



①家庭生活

【性別】

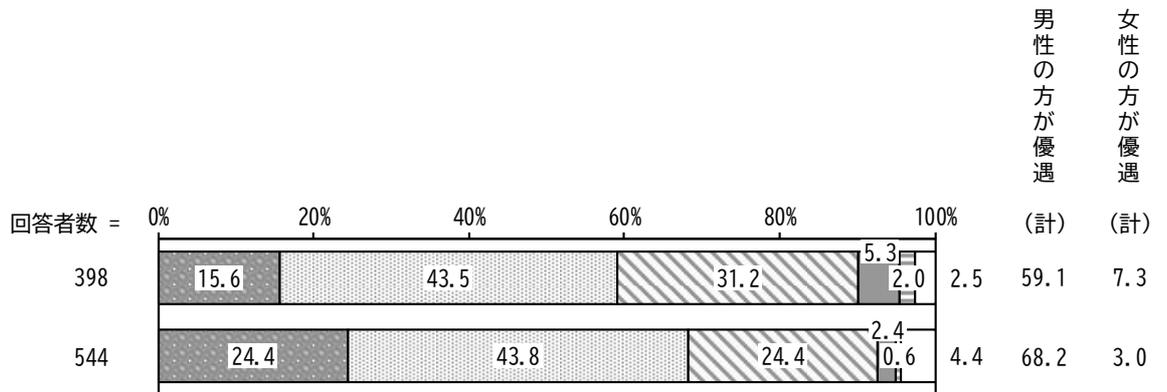
性別で見ると、男性の方が優遇（計）は、女性（62.9%）が男性（41.5%）より21.4ポイント高くなっている。一方で平等であるは男性（41.0%）が女性（22.4%）より18.6ポイント高くなっている。



②職場

【性別】

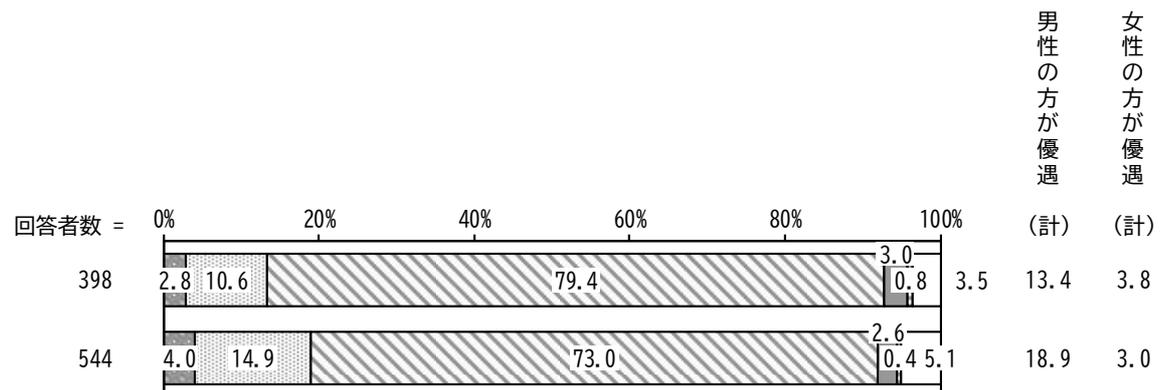
性別で見ると、男性の方が優遇（計）は、女性（68.2%）が男性（59.1%）より9.1ポイント高くなっている。一方で平等であるは男性（31.2%）が女性（24.4%）より6.8ポイント高くなっている。



③学校教育

【性別】

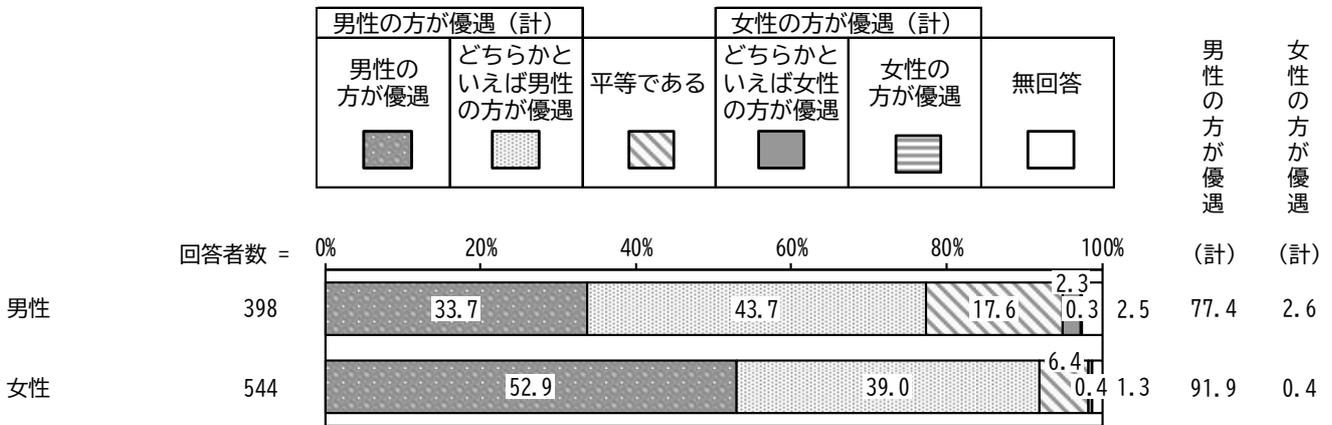
性別で見ると、男性の方が優遇（計）は、女性（18.9%）が男性（13.4%）より5.5ポイント高くなっている。一方で平等であるは男性（79.4%）が女性（73.0%）より6.4ポイント高くなっている。



④政治の場

【性別】

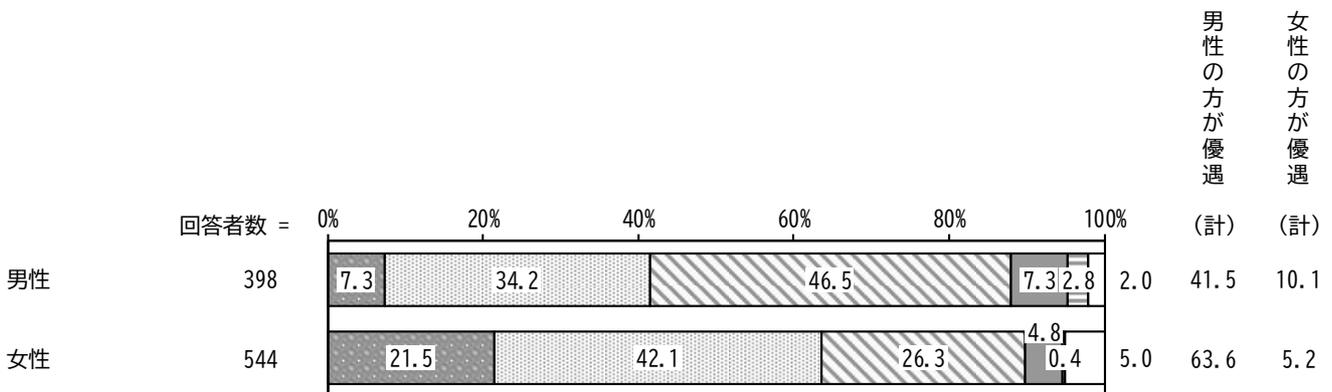
性別で見ると、男性の方が優遇（計）は、女性（91.9%）が男性（77.4%）より14.5ポイント高くなっている。一方で平等であるは男性（17.6%）が女性（6.4%）より11.2ポイント高くなっている。



⑤法律や制度上

【性別】

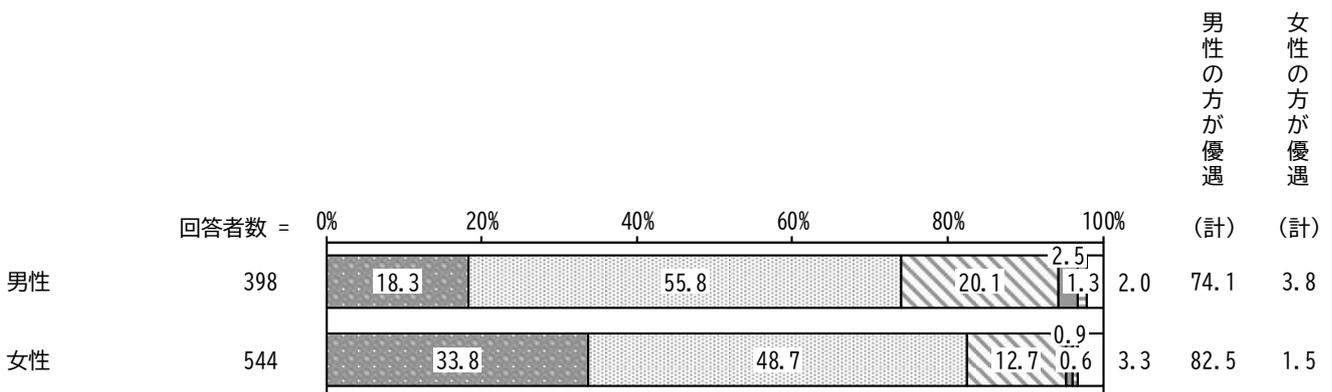
性別で見ると、男性の方が優遇（計）は、女性（63.6%）が男性（41.5%）より22.1ポイント高くなっている。一方で平等であるは男性（46.5%）が女性（26.3%）より20.2ポイント高くなっている。



⑥社会通念・慣習・しきたり

【性別】

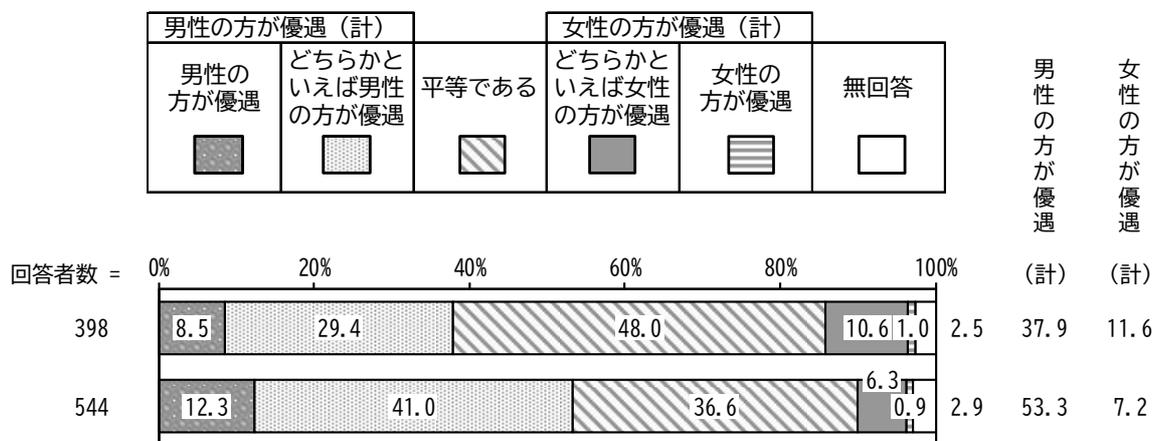
性別で見ると、男性の方が優遇（計）は、女性（82.5%）が男性（74.1%）より8.4ポイント高くなっている。一方で平等であるは男性（20.1%）が女性（12.7%）より11.2ポイント高くなっている。



⑦地域活動（自治会、PTA、ボランティアなど）

【性別】

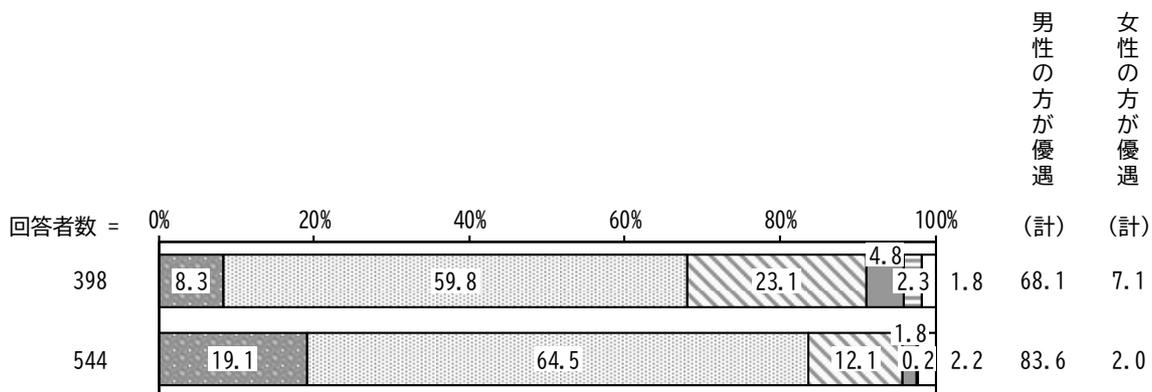
性別で見ると、男性の方が優遇（計）は、女性（53.3%）が男性（37.9%）より15.4ポイント高くなっている。一方で平等であるは男性（48.0%）が女性（36.6%）より11.4ポイント高くなっている。



⑧社会全体

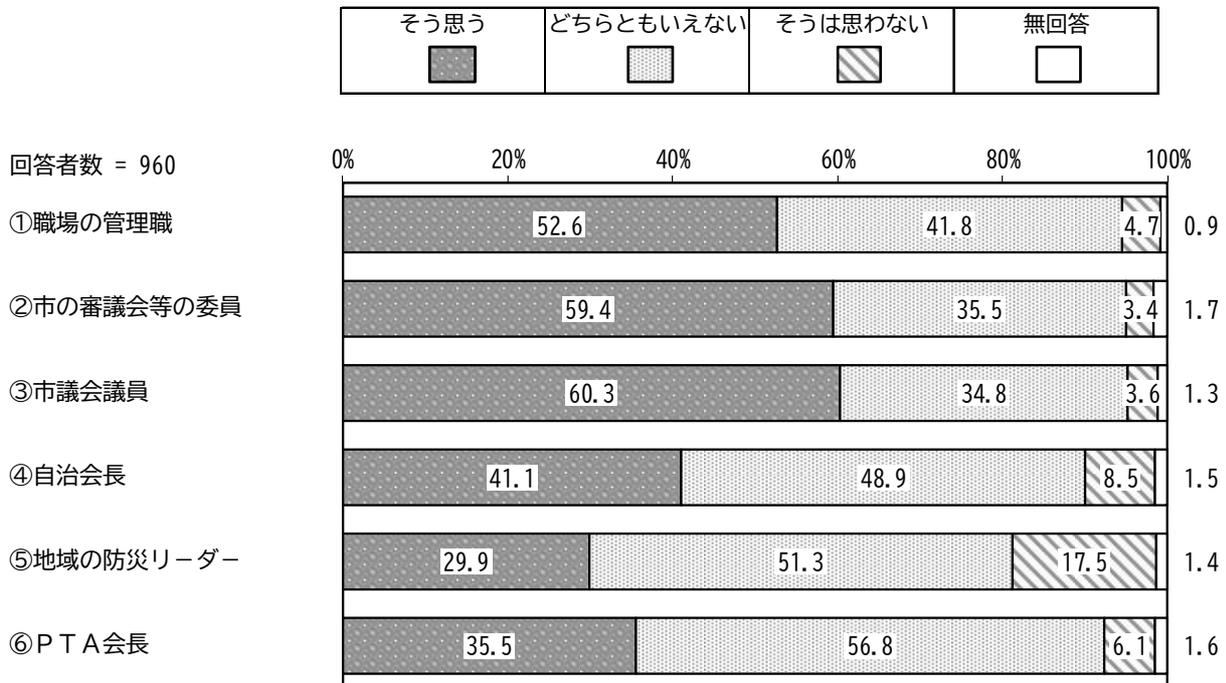
【性別】

性別で見ると、男性の方が優遇（計）は、女性（83.6%）が男性（68.1%）より15.5ポイント高くなっている。一方で平等であるは男性（23.1%）が女性（12.1%）より11ポイント高くなっている。



問3 あなたは、次にあげるような役職に「女性がもっと増える方がよい」と思いますか。あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

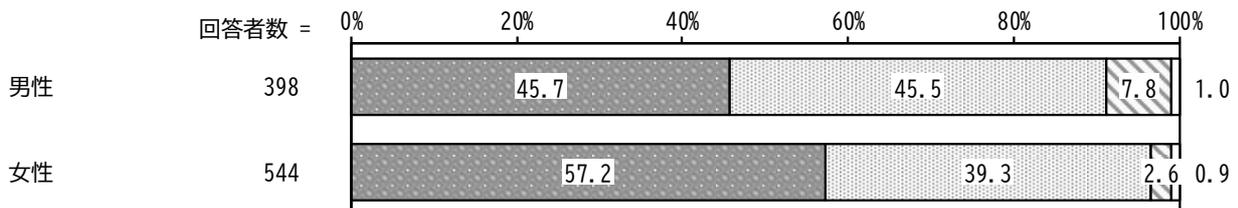
『⑥PTA会長』で「どちらともいえない」の割合が、『⑤地域の防災リーダー』で「そうは思わない」の割合が高くなっています。



### ①職場の管理職

#### 【性別】

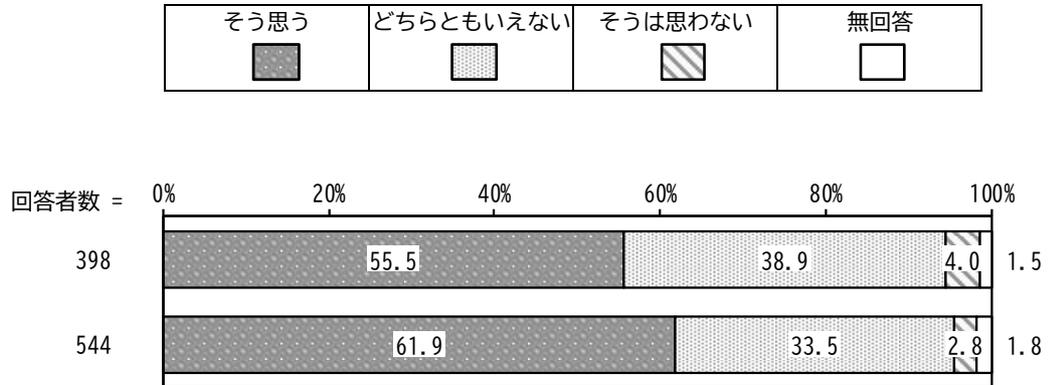
性別で見ると、そう思うは、女性（57.2%）が男性（45.7%）より 11.5 ポイント高くなっている。一方でどちらともいえないは男性（45.5%）が女性（39.3%）より 6.2 ポイント高くなっている。



②市の審議会等の委員

【性別】

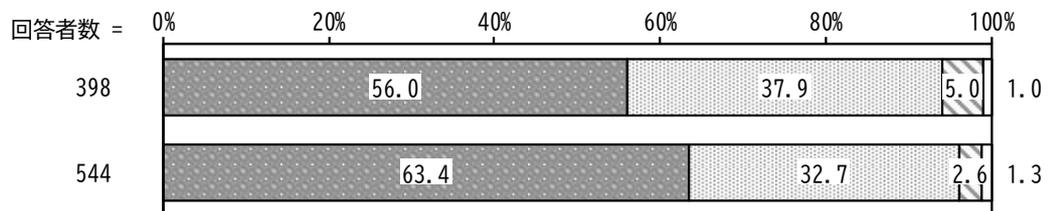
性別で見ると、そう思うは、女性（61.9%）が男性（55.5%）より6.4ポイント高くなっている。一方でどちらともいえないは男性（38.9%）が女性（33.5%）より5.4ポイント高くなっている。



③市議会議員

【性別】

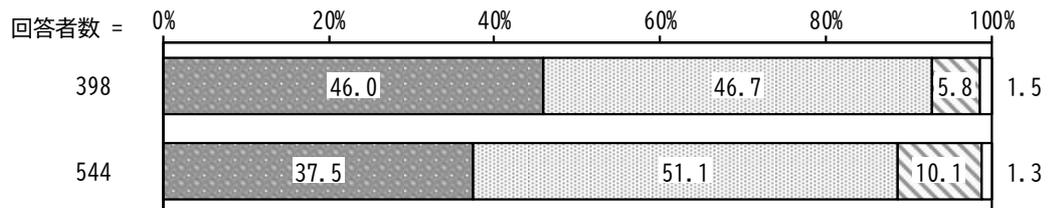
性別で見ると、そう思うは、女性（63.4%）が男性（56.0%）より7.4ポイント高くなっている。一方でどちらともいえないは男性（37.9%）が女性（32.7%）より5.2ポイント高くなっている。



④自治会長

【性別】

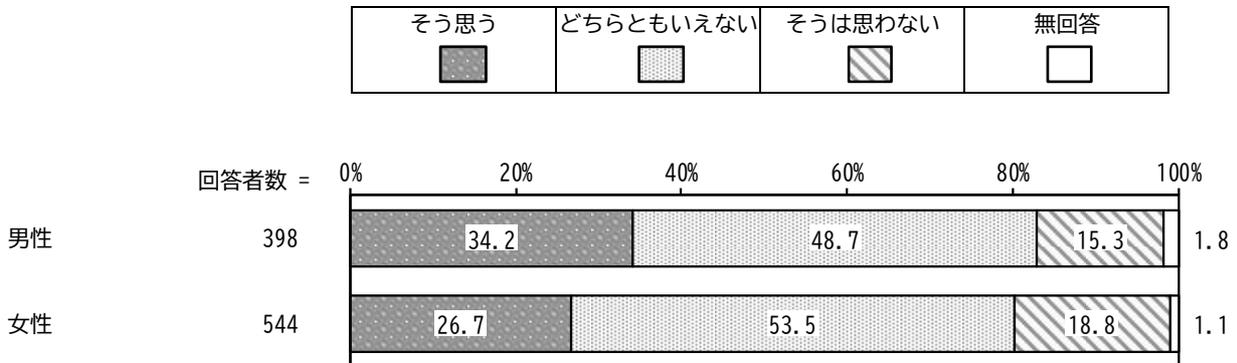
性別で見ると、そう思うは、男性（46.0%）が女性（37.5%）より8.5ポイント高くなっている。一方でどちらともいえないは女性（51.1%）が男性（46.7%）より4.4ポイント高くなっている。



⑤地域の防災リーダー

【性別】

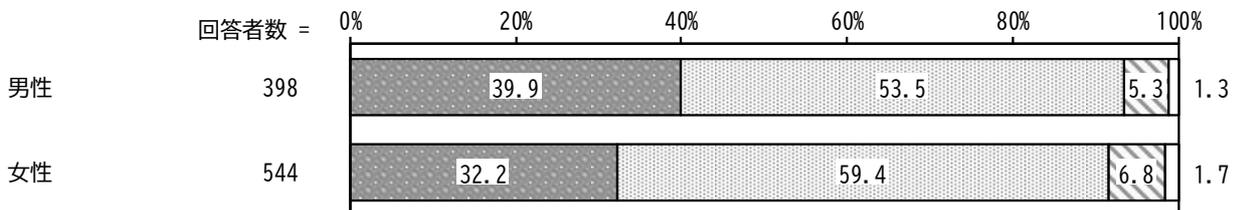
性別で見ると、そう思うは、男性（34.2%）が女性（26.7%）より7.5ポイント高くなっている。一方でどちらともいえないは女性（53.5%）が男性（48.7%）より4.8ポイント高くなっている。



⑥PTA会長

【性別】

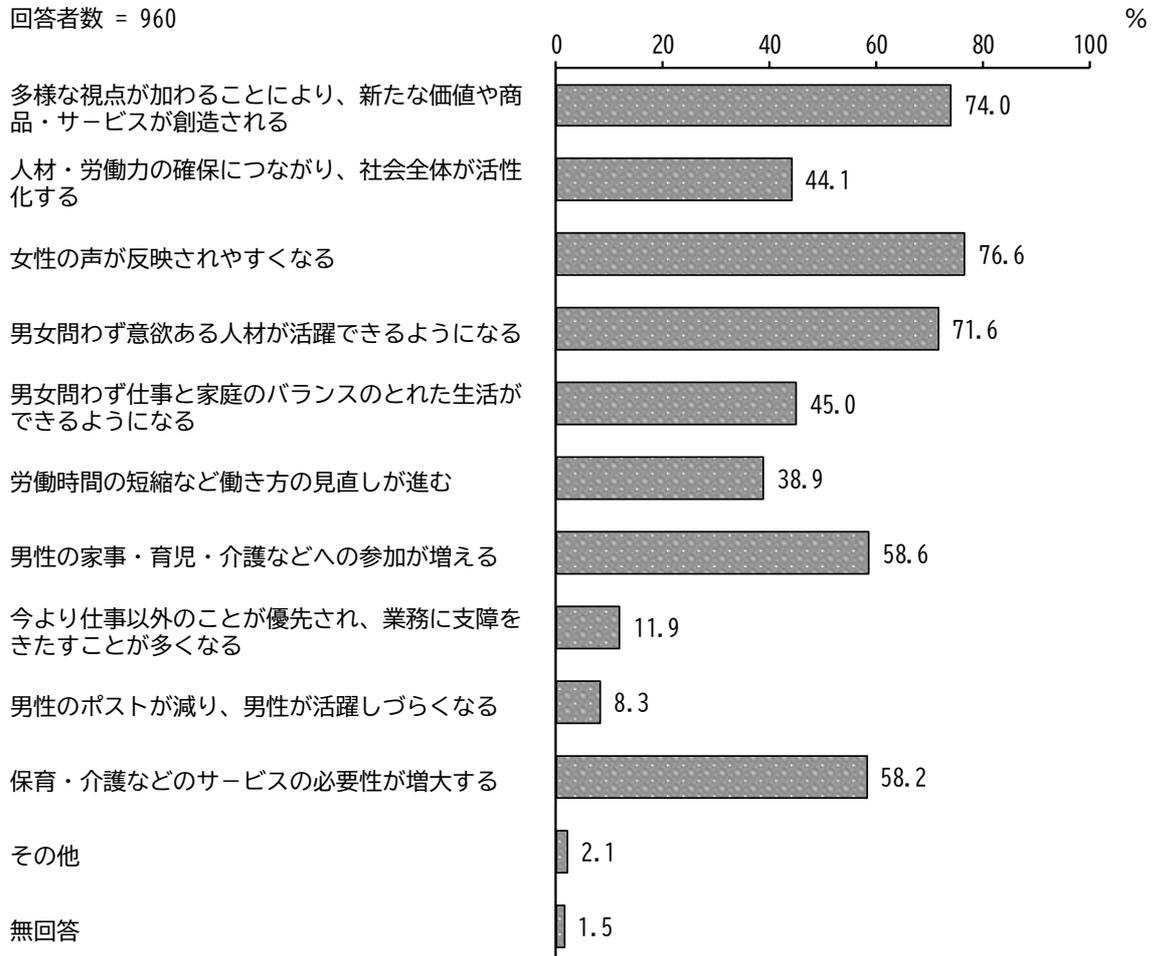
性別で見ると、そう思うは、男性（39.9%）が女性（32.2%）より7.7ポイント高くなっている。一方でどちらともいえないは女性（59.4%）が男性（53.5%）より5.9ポイント高くなっている。



問4 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

「女性の声が反映されやすくなる」の割合が76.6%と最も高く、次いで「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」の割合が74.0%、「男女問わず意欲ある人材が活躍できるようになる」の割合が71.6%となっています。

回答者数 = 960



【性別、性・年齢別】

性別で見ると、「人材・労働力の確保につながり、社会全体が活性化する」は男性(48.2)が女性(40.6)より7.6ポイント高くなっている。一方、「労働時間の短縮など働き方の見直しが進む」は女性(44.3%)が男性(30.9%)より13.4ポイント、「保育・介護などのサービスの必要性が増大する」は女性(62.9%)が男性(51.5%)より11.4ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別で見ると、「男女問わず意欲ある人材が活躍できるようになる」は女性20代(91.7%)で高くなっている。「男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる」は男性30代(21.4%)、40代(23.4%)で高くなっている。

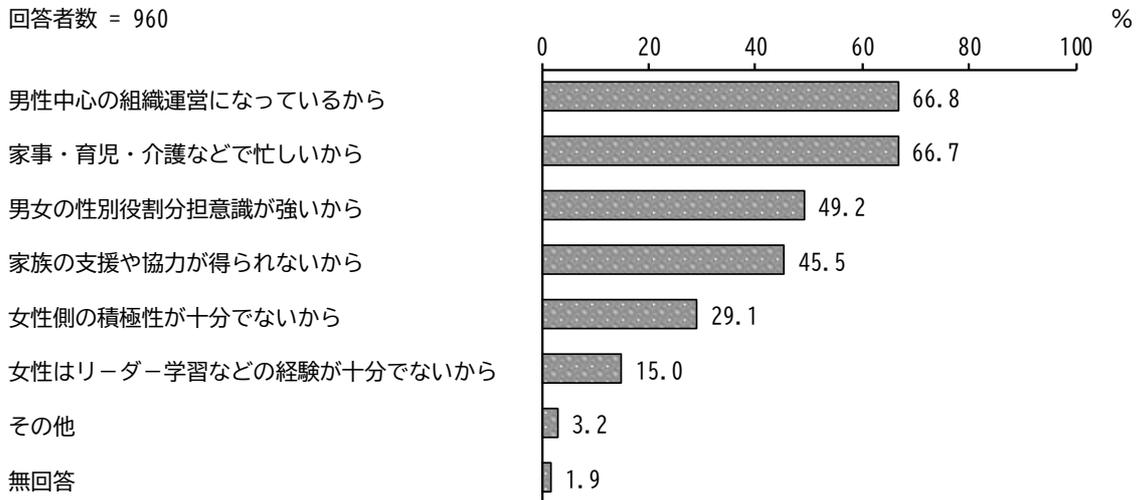
単位：%

区分	回答者数(件)	多様な視点 が加わること により、新た な価値や商品・ サービスが創 造される	人材・労働力 の確保につな がり、社会 全体が活性化 する	女性の声 が反映され やすくなる	男女 問わず意 欲ある人 材が活躍 できる ようにな る	男女 問わず 仕事と 家庭の バランス のと れた生 活がで きるよ うにな る	労働 時間 の短縮 など働 き方の 見直し が進む	男性 の家事 ・育児 ・介護 などへ の参加 が増え る	今より 仕事以 外のこ とが優 先され 、業 務に支 障をき たすこ とが多 くなる	男性 のポスト が減り 、男性 が活躍 しづ らくな る	保育・ 介護な どのサ ービス の必要 性が 増大す る	その他	無回答
全体	960	74.0	44.1	76.6	71.6	45.0	38.9	58.6	11.9	8.3	58.2	2.1	1.5
男性	398	71.1	48.2	74.4	68.8	40.2	30.9	56.8	14.3	9.8	51.5	2.3	1.8
女性	544	75.9	40.6	77.9	73.3	48.2	44.3	60.1	9.9	7.2	62.9	2.0	1.1
男性 10代	4	50.0	50.0	75.0	75.0	50.0	25.0	25.0	25.0	50.0	50.0	25.0	—
20代	20	60.0	35.0	85.0	50.0	40.0	20.0	60.0	10.0	5.0	45.0	—	5.0
30代	28	53.6	32.1	78.6	57.1	28.6	39.3	35.7	14.3	21.4	42.9	7.1	3.6
40代	47	78.7	51.1	72.3	76.6	42.6	36.2	63.8	21.3	23.4	46.8	4.3	—
50代	78	71.8	41.0	65.4	62.8	30.8	20.5	44.9	15.4	10.3	41.0	1.3	2.6
60代	81	71.6	50.6	77.8	72.8	46.9	32.1	60.5	12.3	3.7	54.3	2.5	1.2
70歳以上	140	73.6	55.0	75.7	72.1	42.9	34.3	63.6	12.9	5.7	60.0	0.7	1.4
女性 10代	7	57.1	57.1	100.0	71.4	85.7	42.9	85.7	14.3	—	57.1	14.3	—
20代	24	79.2	45.8	79.2	91.7	70.8	58.3	70.8	8.3	—	58.3	4.2	4.2
30代	48	68.8	33.3	83.3	66.7	58.3	54.2	50.0	8.3	4.2	60.4	—	—
40代	77	74.0	41.6	71.4	68.8	50.6	50.6	50.6	6.5	5.2	61.0	3.9	—
50代	108	75.0	38.0	75.0	69.4	46.3	33.3	62.0	13.0	5.6	63.9	1.9	—
60代	90	83.3	38.9	78.9	77.8	43.3	34.4	58.9	8.9	5.6	68.9	1.1	—
70歳以上	188	76.1	43.1	79.3	74.5	43.6	48.4	63.3	10.1	11.2	61.2	1.6	2.7

問5 職場や地域活動等の場において、女性の管理職や役員は男性に比べて少ないのが現状です。このような政策決定の場に女性の参画が少ない理由について、あなたはどのように思いますか。あてまはる番号すべてに○をつけてください。

「男性中心の組織運営になっているから」の割合が 66.8%と最も高く、次いで「家事・育児・介護などで忙しいから」の割合が 66.7%、「男女の性別役割分担意識が強いから」の割合が 49.2%となっています。

回答者数 = 960



【性別、性・年齢別】

性別で見ると、「家事・育児・介護などで忙しいから」は女性（73.7%）が男性（57.3%）より16.4ポイント、「男女の性別役割分担意識が強いから」は女性（51.1%）が男性（46.0%）より5.1ポイント、「家族の支援や協力が得られないから」は女性が（53.9%）が男性（33.7%）より20.2ポイント、それぞれ高くなっている。

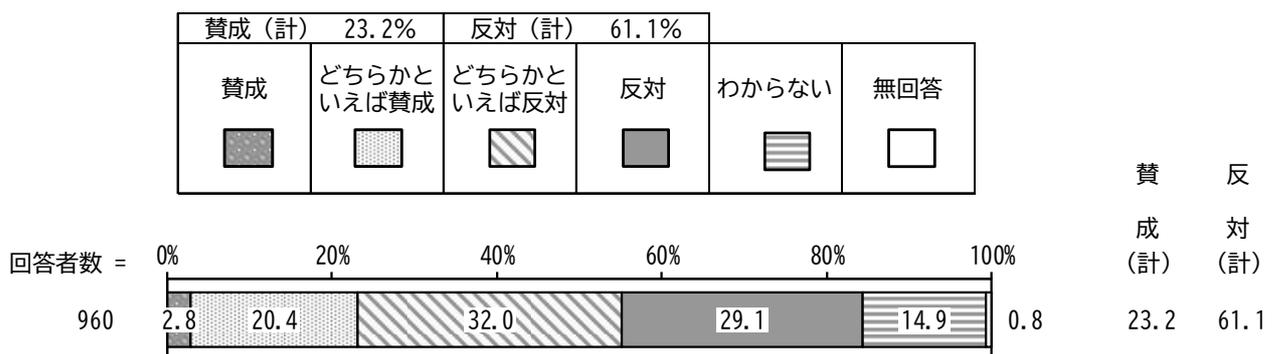
性・年齢別で見ると、「性側の積極性が十分でないから」は男性30代（42.9%）で高くなっている。「女性はリーダー学習などの経験が十分でないから」は女性70歳以上（27.1%）で高くなっている。

単位：%

区分	回答者数（件）	男性中心の組織運営になっているから	家事・育児・介護などで忙しいから	男女の性別役割分担意識が強いから	家族の支援や協力が得られないから	女性側の積極性が十分でないから	女性はリーダー学習などの経験が十分でないから	その他	無回答
全体	960	66.8	66.7	49.2	45.5	29.1	15.0	3.2	1.9
男性	398	65.3	57.3	46.0	33.7	27.9	12.6	4.3	2.3
女性	544	67.5	73.7	51.1	53.9	30.0	16.9	2.4	1.5
男性 10代	4	50.0	50.0	—	25.0	75.0	25.0	—	—
20代	20	55.0	55.0	35.0	30.0	15.0	10.0	—	—
30代	28	39.3	67.9	35.7	35.7	42.9	10.7	10.7	—
40代	47	61.7	53.2	53.2	27.7	21.3	6.4	14.9	4.3
50代	78	61.5	38.5	43.6	30.8	35.9	10.3	3.8	3.8
60代	81	71.6	56.8	46.9	43.2	19.8	11.1	3.7	—
70歳以上	140	72.1	67.9	49.3	32.1	27.9	17.1	0.7	2.9
女性 10代	7	85.7	57.1	85.7	28.6	42.9	14.3	—	—
20代	24	70.8	62.5	66.7	45.8	12.5	4.2	4.2	4.2
30代	48	62.5	72.9	45.8	56.3	16.7	6.3	6.3	—
40代	77	63.6	75.3	58.4	57.1	24.7	5.2	1.3	—
50代	108	65.7	71.3	42.6	60.2	25.9	14.8	3.7	—
60代	90	80.0	77.8	48.9	55.6	37.8	15.6	1.1	—
70歳以上	188	64.9	75.0	52.1	49.5	35.6	27.1	1.6	3.7

問6 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的性別役割分担意識についてどのように思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

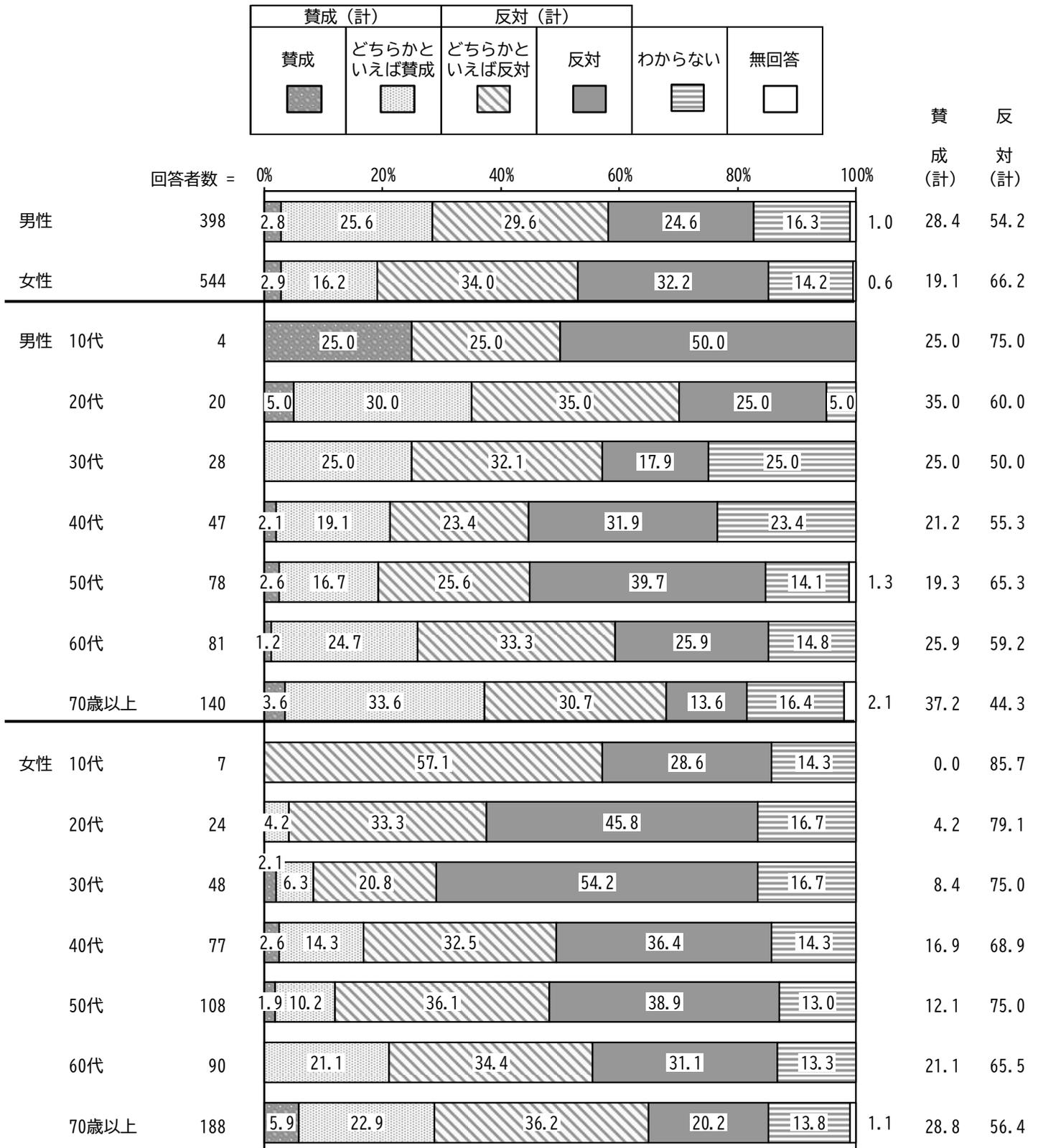
「どちらかといえば反対」の割合が32.0%と最も高く、次いで「反対」の割合が29.1%、「どちらかといえば賛成」の割合が20.4%となっています。



【性別、性・年齢別】

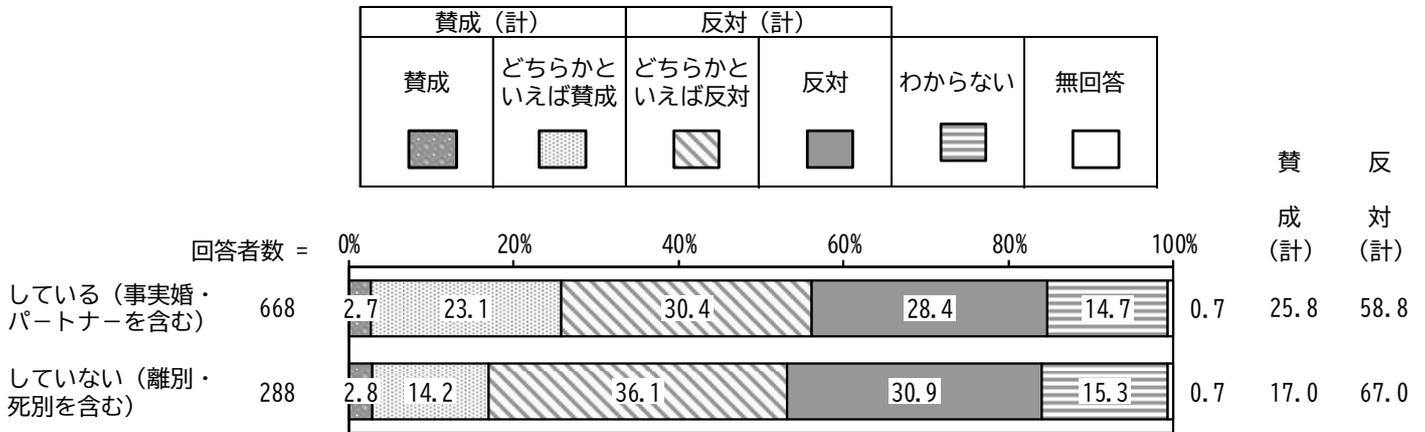
性別で見ると、『賛成（計）』は男性（28.4%）が女性（19.1%）より9.3ポイント高くなっている。一方、『反対（計）』は女性（66.2%）が男性（54.2%）より12.0ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、『賛成（計）』は男性20代（35.0%）と70歳以上（37.2%）で高くなっている。一方、『反対（計）』は女性20代（79.1%）と30代（75.0%）と50代（75.0%）で高くなっている。



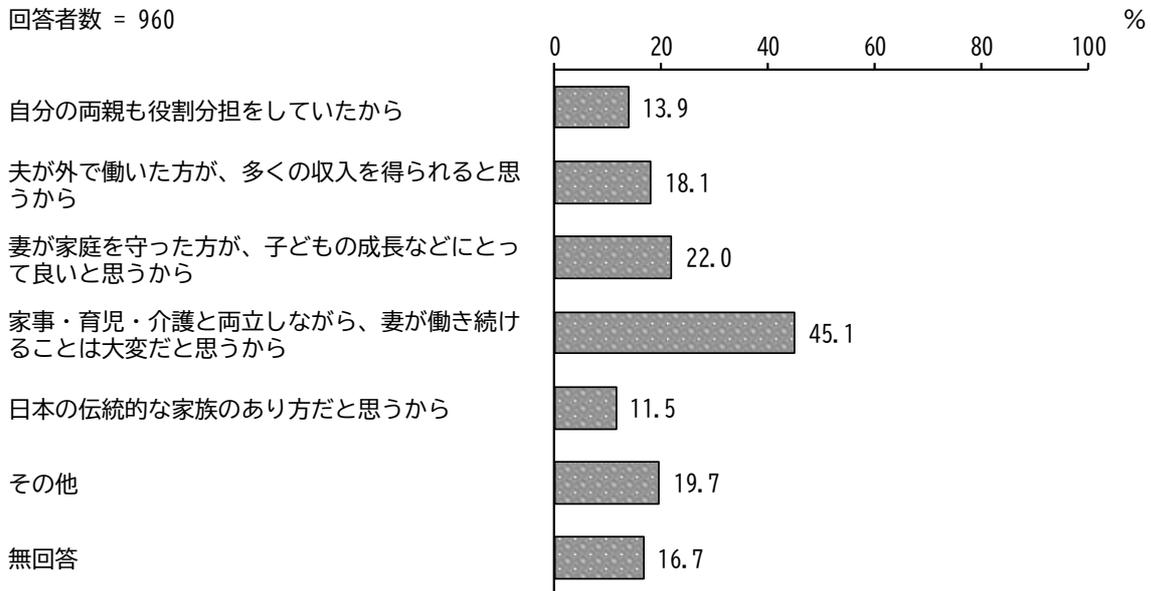
【婚姻状況別】

婚姻状況別でみると、『賛成（計）』は結婚している人（25.8%）が結婚していない人（17.0%）より8.8ポイント高くなっている。一方、『反対（計）』は結婚していない人（67.0%）が結婚している人（58.8%）より8.2ポイント高くなっている。



問7 問6でそのように思った理由について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」の割合が45.1%と最も高く、次いで「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が22.0%、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」の割合が18.1%となっています。



【性別、性・年齢別】

性別でみると、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」は男性(26.1%)が女性(18.4%)より7.7ポイント高くなっている。一方、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」は女性が(49.1%)が男性(38.9%)より10.2ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「自分の両親も役割分担をしていたから」は女性20代(37.5%)で高くなっている。「日本の伝統的な家族のあり方だと思うから」は男性70歳以上(21.4%)で高くなっている。

単位：%

区分	回答者数(件)	自分の両親も役割分担をしていたから	夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	日本の伝統的な家族のあり方だと思うから	その他	無回答
全体	960	13.9	18.1	22.0	45.1	11.5	19.7	16.7
男性	398	13.6	17.1	26.1	38.9	13.6	20.4	17.3
女性	544	14.2	18.6	18.4	49.1	9.6	19.7	16.2
男性 10代	4	—	—	50.0	25.0	—	50.0	—
20代	20	30.0	30.0	20.0	45.0	10.0	25.0	5.0
30代	28	21.4	10.7	10.7	42.9	10.7	39.3	7.1
40代	47	17.0	12.8	21.3	40.4	6.4	29.8	10.6
50代	78	10.3	9.0	19.2	19.2	6.4	30.8	23.1
60代	81	11.1	14.8	32.1	39.5	13.6	19.8	11.1
70歳以上	140	12.1	24.3	31.4	47.9	21.4	6.4	24.3
女性 10代	7	42.9	28.6	—	57.1	—	14.3	—
20代	24	37.5	4.2	—	33.3	4.2	29.2	16.7
30代	48	18.8	10.4	6.3	29.2	2.1	31.3	18.8
40代	77	9.1	19.5	16.9	51.9	9.1	28.6	14.3
50代	108	8.3	13.0	13.0	46.3	10.2	26.9	16.7
60代	90	14.4	23.3	17.8	51.1	7.8	17.8	16.7
70歳以上	188	13.8	22.3	28.2	54.8	13.3	9.0	16.5

【婚姻状況別】

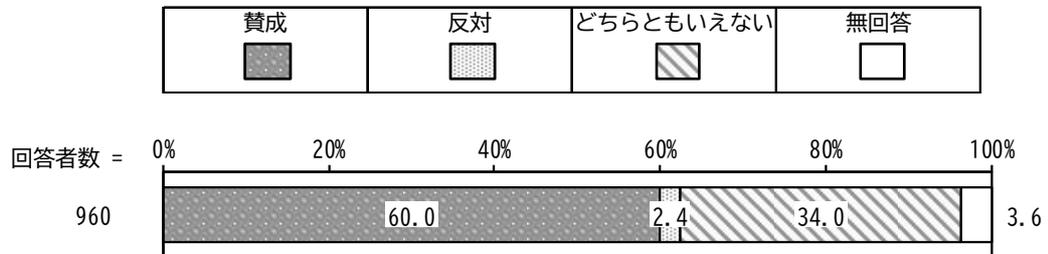
婚姻状況別でみると、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」は結婚している人(24.3%)が結婚していない人(16.0%)より8.3ポイント、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」は結婚している人(47.0%)が結婚していない人(41.0%)より6.0ポイント、それぞれ高くなっている。

単位：%

区分	回答者数(件)	自分の両親も役割分担をしていたから	夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	日本の伝統的な家族のあり方だと思うから	その他	無回答
全体	960	13.9	18.1	22.0	45.1	11.5	19.7	16.7
している(事実婚・パートナーを含む)	668	11.7	19.0	24.3	47.0	11.5	19.3	16.6
していない(離別・死別を含む)	288	18.8	16.0	16.0	41.0	11.5	20.8	16.7

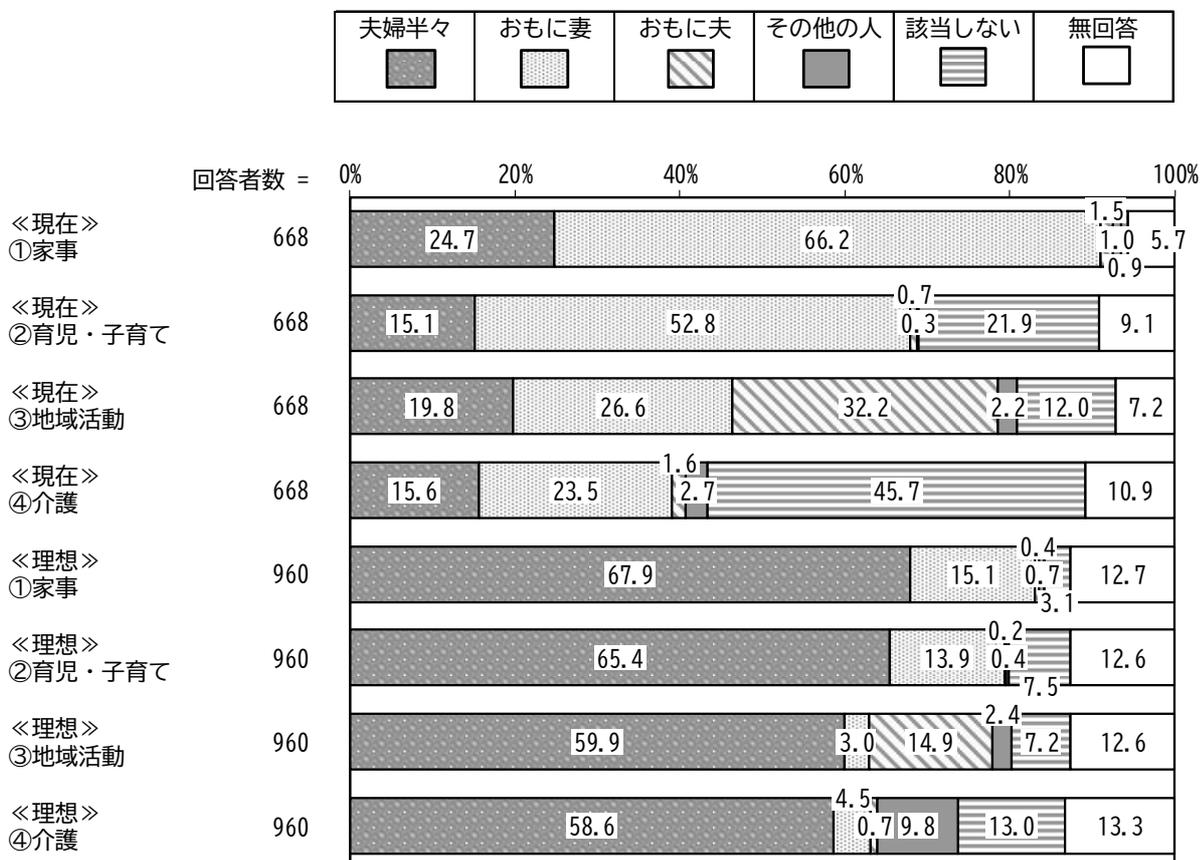
問8 自分の性や身体のことを自分で選択し、守ることができる権利を「SRHR（リプロダクティブ・ヘルツ/ライツ（性と生殖に関する健康）」といいます。子どもを産む、産まない、産むとすれば、いつ何人産むかは女性の意思を尊重すべきであるという考えについてどのように思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

「賛成」の割合が60.0%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が34.0%、「反対」の割合が2.4%となっています。



問9 家庭の仕事の分担について、あてはまる番号に○をつけてください。  
 「現在」の欄は配偶者（事実婚を含む）のいる方のみお答えください。  
 「理想」の欄はすべての方がお答えください。

『<<現在>>①家事』で「おもに妻」の割合が、『<<現在>>③地域活動』で「おもに夫」の割合が高くなっています。また、『<<理想>>④介護』で「夫婦半々」の割合が、『<<現在>>④介護』で「該当しない」の割合が高くなっています。



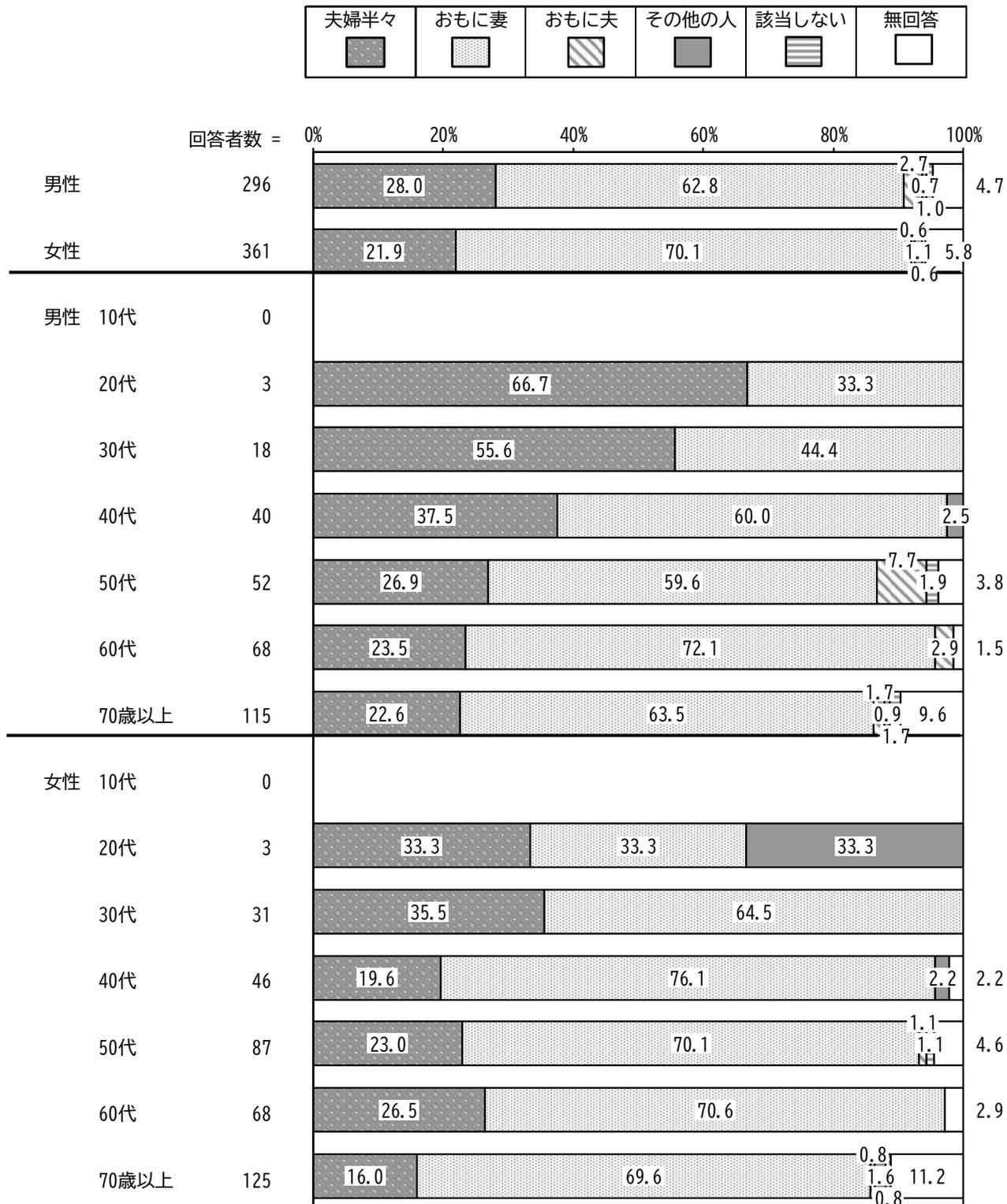
①家事

《現在》

【性別、性・年齢別】

性別で見ると、「夫婦半々」は男性（28.0%）が女性（21.9%）より 6.1 ポイント高くなっている。一方、「おもに妻」は女性（70.1%）が男性（62.8%）より 7.3 ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「夫婦半々」は男性 30代（55.6%）で高くなっている。「おもに妻」は女性 40代（76.1%）で高くなっている。



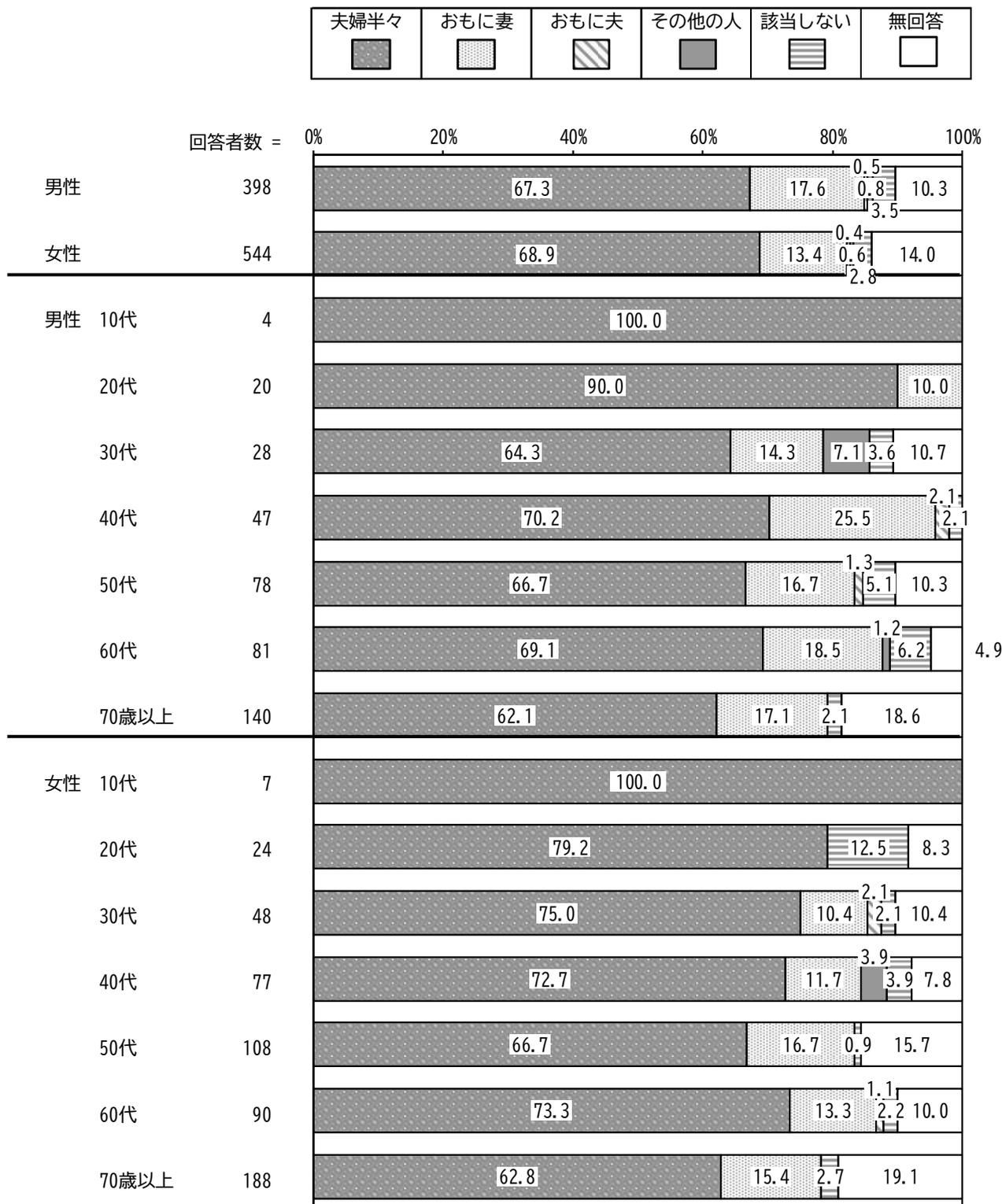
①家事

《理想》

【性別、性・年齢別】

性別で見ると、「夫婦半々」は女性（68.9%）が男性（67.3%）より 1.6 ポイント高くなっている。一方、「おもに妻」は男性（17.6%）が女性（13.4%）より 4.2 ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「夫婦半々」は男性 20代（90.0%）で高くなっている。「おもに妻」は男性 40代（25.5%）で高くなっている。

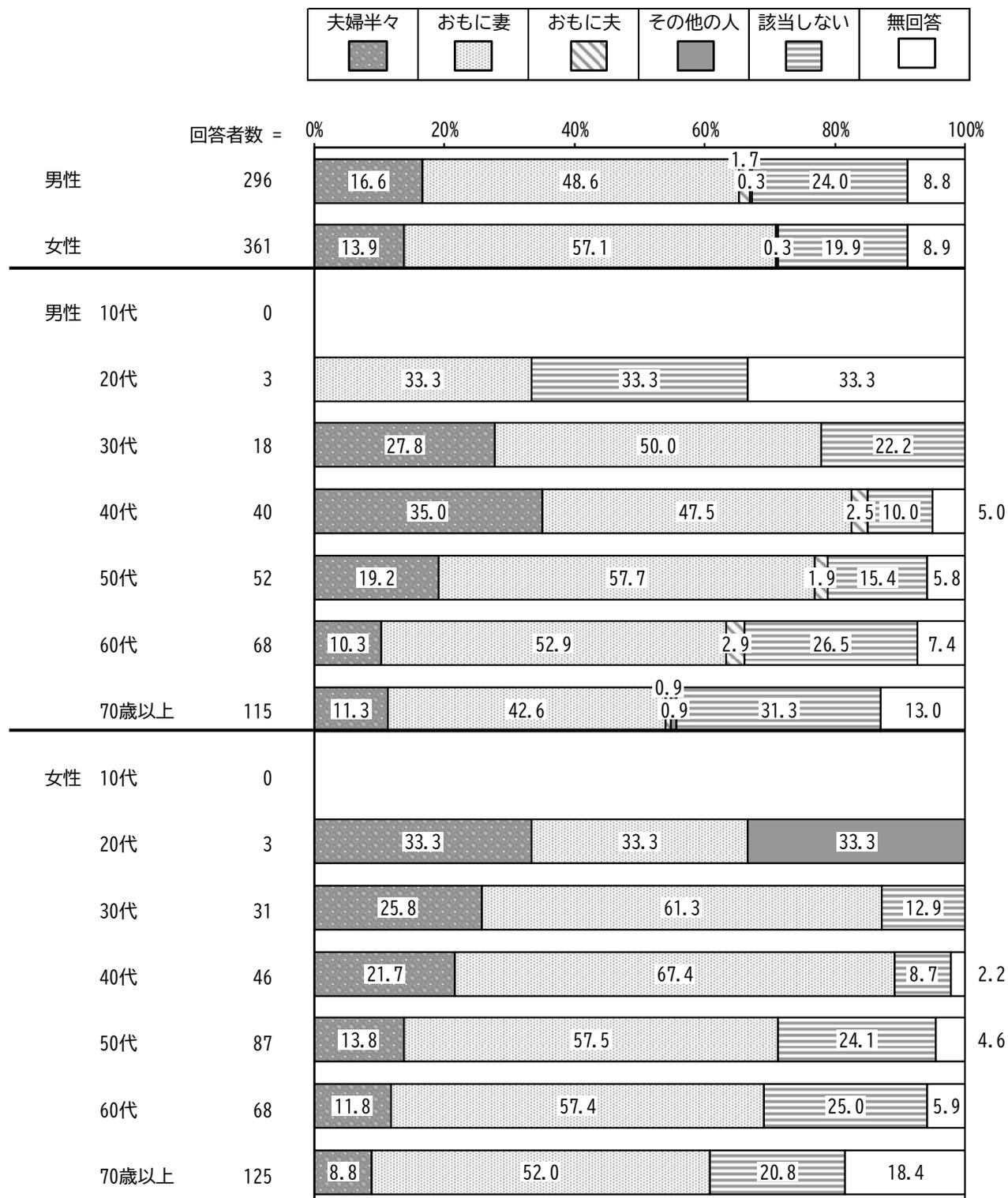


## ②育児・子育て

《現在》

【性別、性・年齢別】

性別で見ると、「おもに妻」は女性（57.1%）が男性（48.6%）より 8.5 ポイント高くなっている。  
 性・年齢別で見ると、「おもに妻」は女性 40 代（67.4%）で高くなっている。



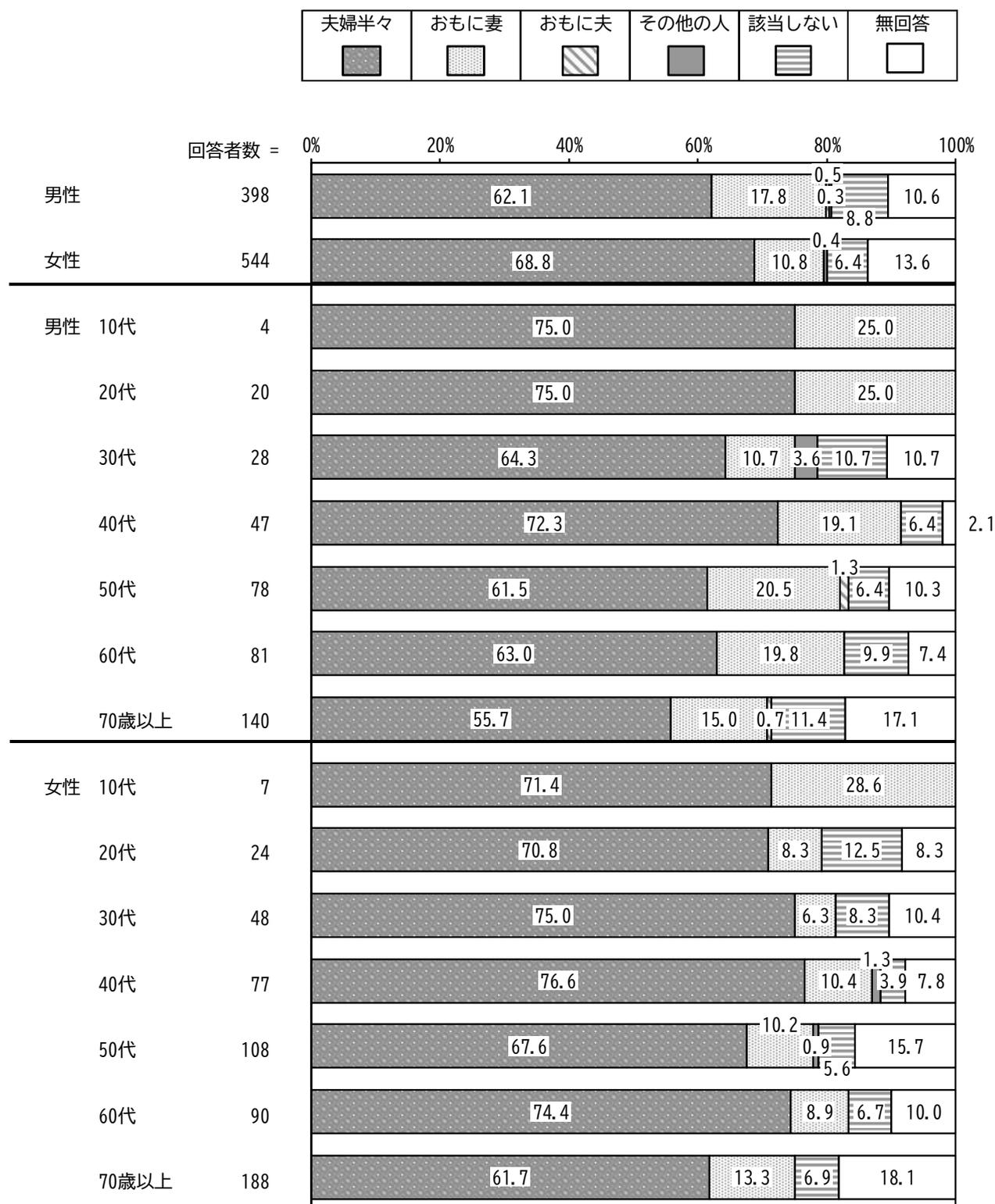
## ②育児・子育て

### 《理想》

#### 【性別、性・年齢別】

性別で見ると、「夫婦半々」は女性（68.8%）が男性（62.1%）より 6.7 ポイント高くなっている。一方、「おもに妻」は男性（17.8%）が女性（10.8%）より 7.0 ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「夫婦半々」は女性 40代（76.6%）で高くなっている。「おもに妻」は男性 20代（25.0%）で高くなっている。



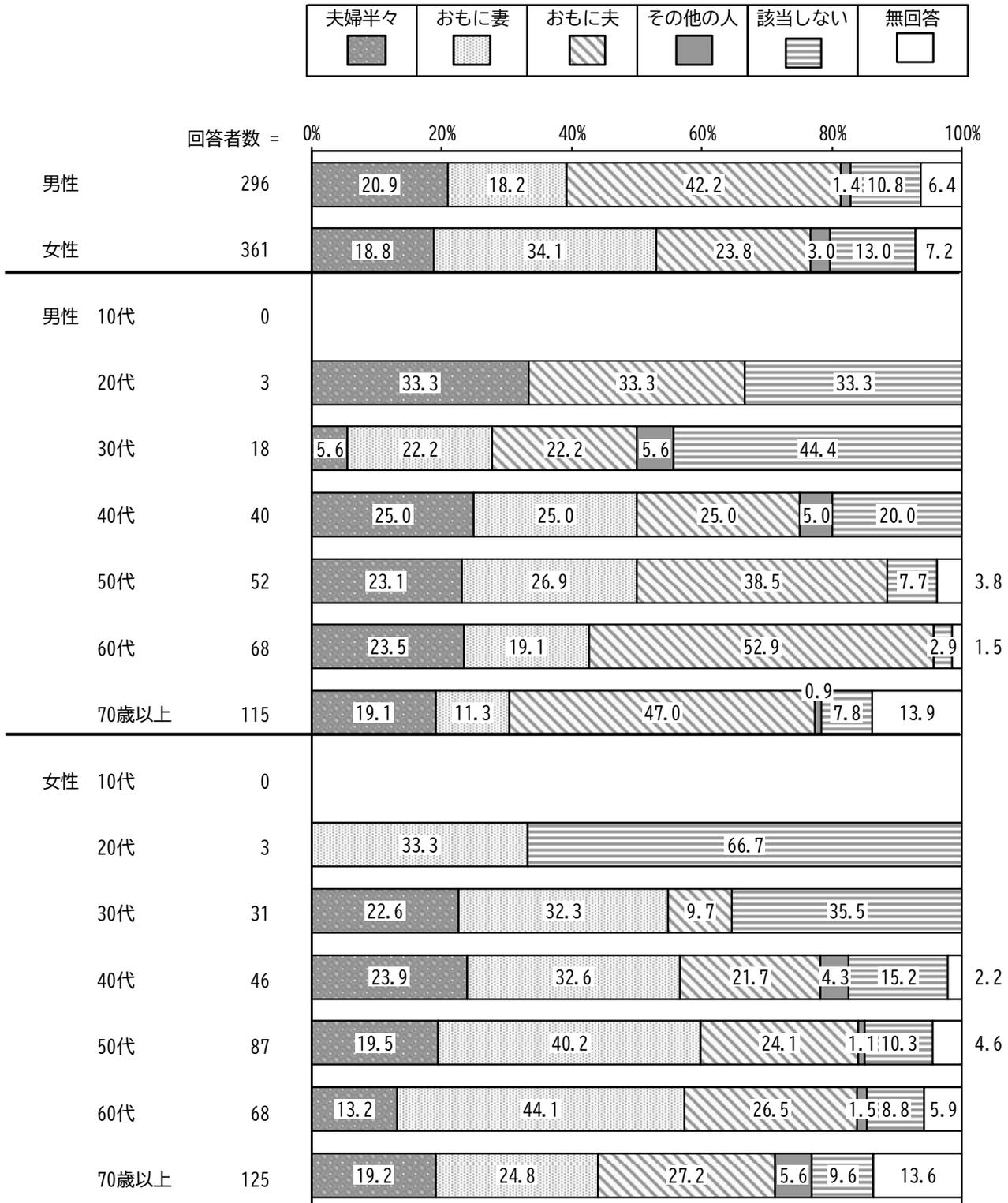
### ③地域活動

《現在》

【性別、性・年齢別】

性別で見ると、「おもに妻」は女性（34.1%）が男性（18.2%）より15.9ポイント高くなっている。一方、「おもに夫」は男性（42.2%）が女性（23.8%）より18.4ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「おもに妻」は女性60代（44.1%）で高くなっている。「おもに夫」は男性60代（52.9%）で高くなっている。



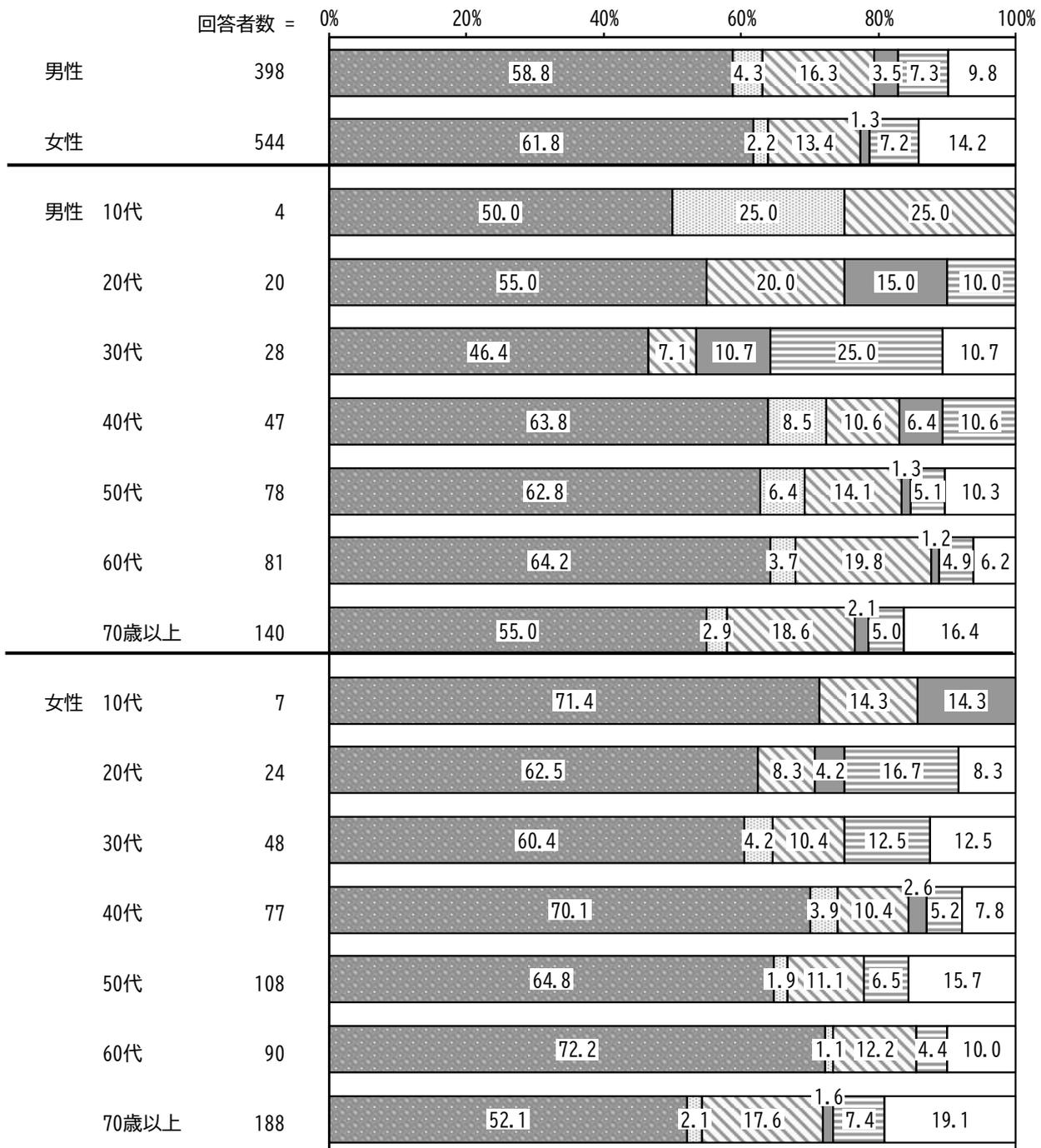
### ③地域活動

《理想》

【性別、性・年齢別】

性別で見ると、「夫婦半々」は女性（61.8%）が男性（58.8%）より 3.0 ポイント高くなっている。一方、「おもに夫」は男性（16.3%）が女性（13.4%）より 2.9 ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「夫婦半々」は女性 60代（72.2%）で高くなっている。「おもに夫」は男性 30代（25.0%）で高くなっている。



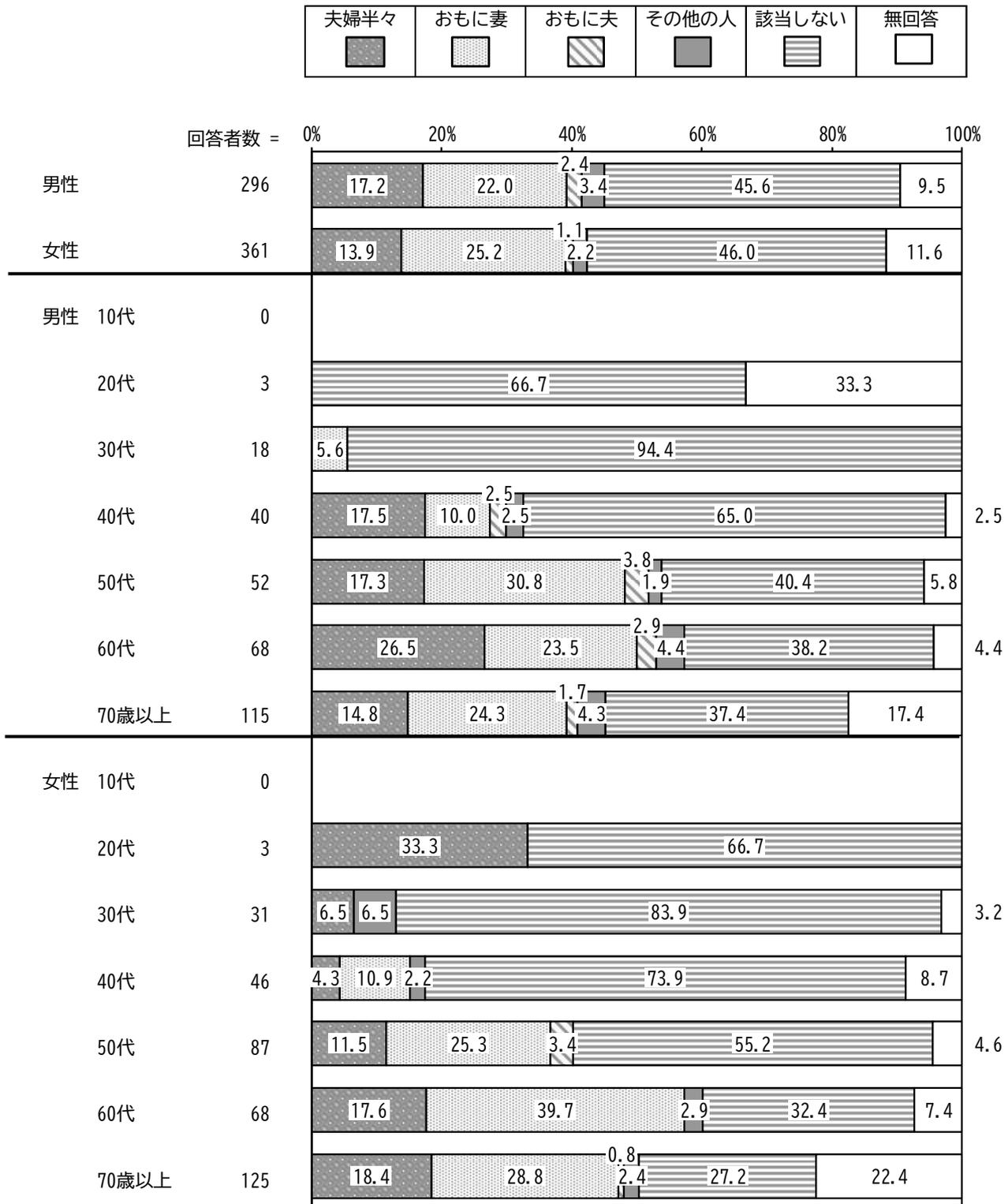
④介護

《現在》

【性別、性・年齢別】

性別で見ると、「夫婦半々」は男性（17.2%）が女性（13.9%）より 3.3 ポイント高くなっている。一方、「おもに妻」は女性（25.2%）が男性（22.0%）より 3.2 ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「夫婦半々」は男性 60代（26.5%）で高くなっている。「おもに妻」は女性 60代（39.7%）で高くなっている。

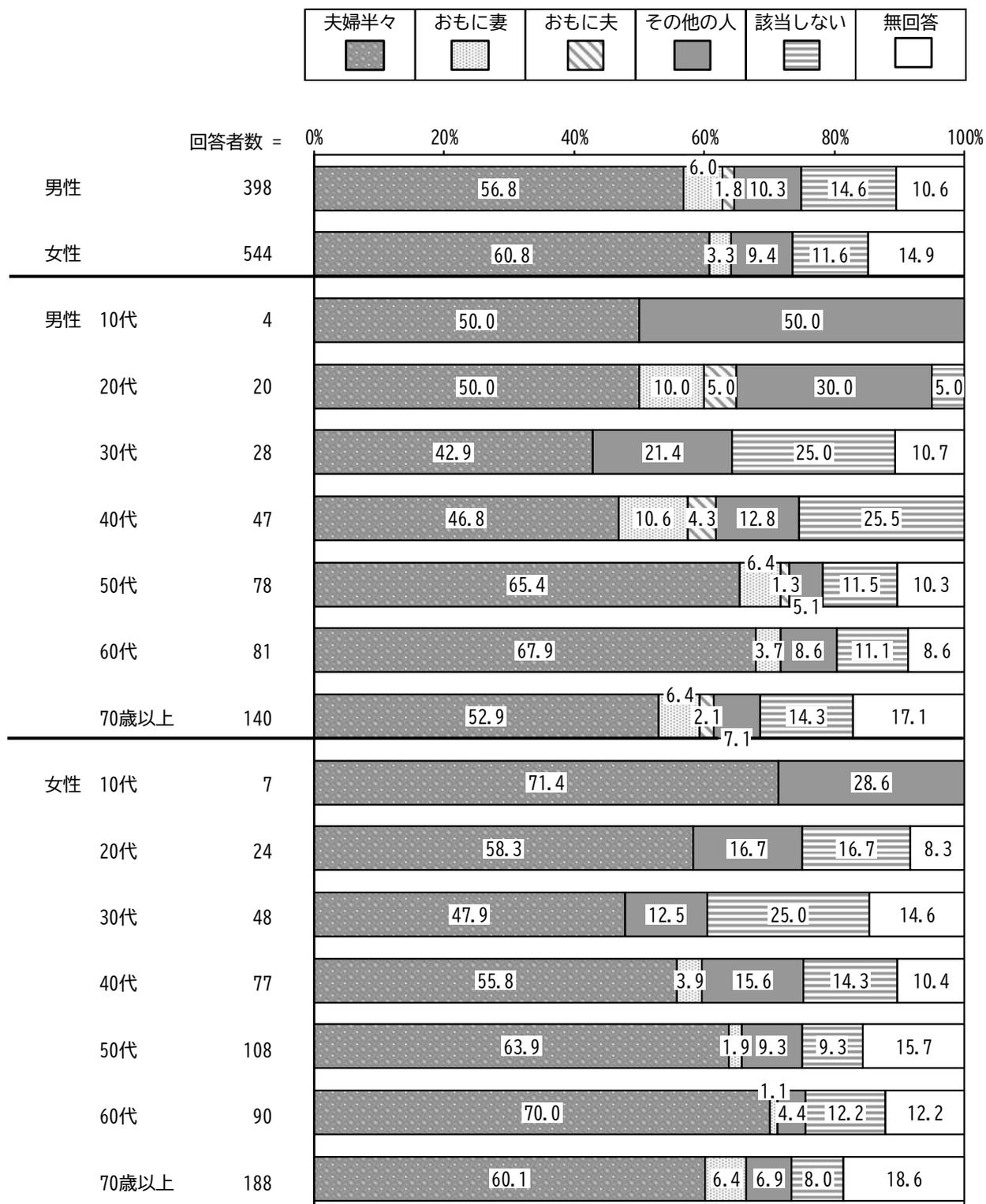


#### ④介護

##### 《理想》

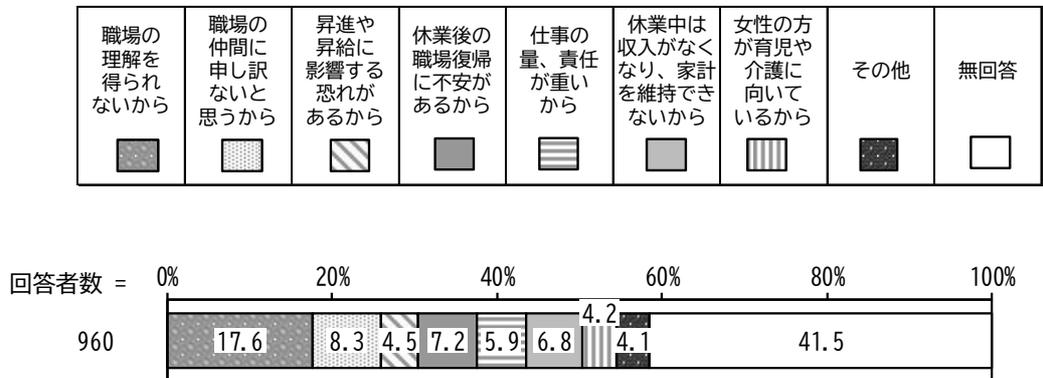
##### 【性別、性・年齢別】

性別で見ると、「夫婦半々」は女性（60.8%）が男性（56.8%）より4.0ポイント高くなっている。  
 性・年齢別で見ると、「夫婦半々」は女性60代（70.0%）で高くなっている。



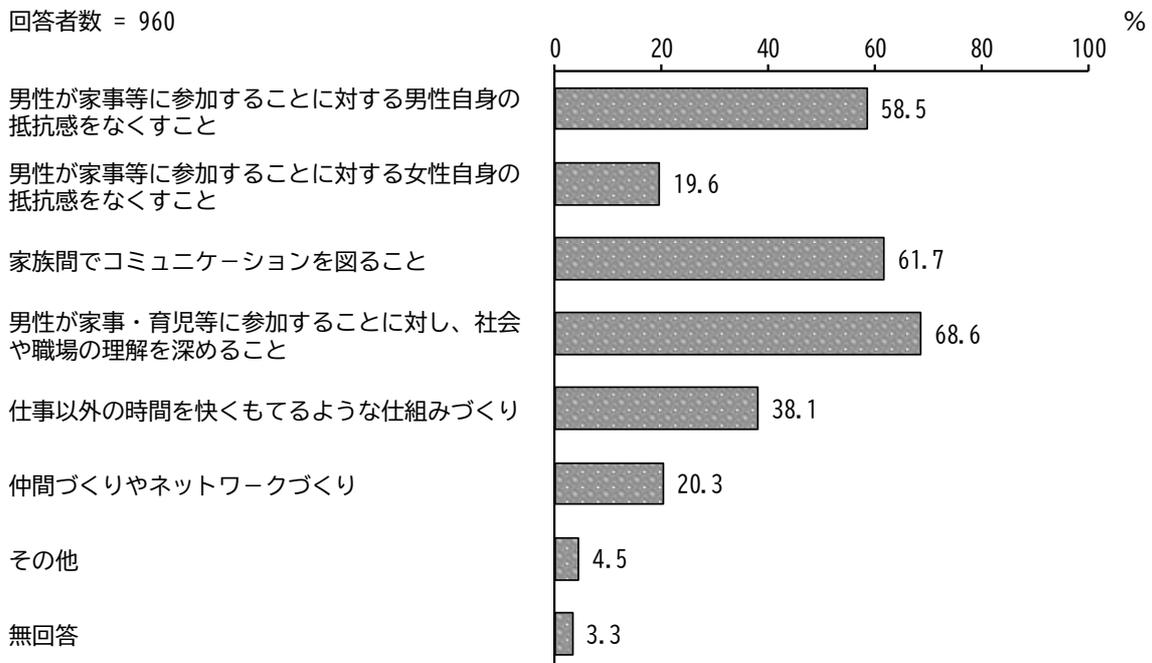
問 10 2022年に育休・介護休業法が改正され、事業者に対して男性の育休等の取得促進が義務化されましたが、男性の育児休業や介護休業の取得率は、女性に比べて少ないのが現状です。この理由についてどのようにお考えですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

「職場の理解を得られないから」の割合が17.6%と最も高く、次いで「職場の仲間に申し訳ないと思うから」の割合が8.3%、「休業後の職場復帰に不安があるから」の割合が7.2%となっています。



問 11 男性が家事・育児・介護等に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

「男性が家事・育児等に参加することに対し、社会や職場の理解を深めること」の割合が68.6%と最も高く、次いで「家族間でコミュニケーションを図ること」の割合が61.7%、「男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が58.5%となっています。



【性別、性・年齢別】

性別で見ると、「男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は女性が（62.7%）が男性（53.0%）より9.7ポイント、「男性が家事等に参加することに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」は女性が（22.8%）が男性（15.1%）より7.7ポイント、「男性が家事・育児等に参加することに対し、社会や職場の理解を深めること」は女性が（71.9%）が男性（64.1%）より7.8ポイント、「仕事以外の時間を快くもてるような仕組みづくり」は女性が（41.0%）が男性（33.9%）より7.1ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別で見ると、「男性が家事・育児等に参加することに対し、社会や職場の理解を深めること」は女性30代（81.3%）で高くなっている。「仕事以外の時間を快くもてるような仕組みづくり」は女性20代（58.3%）で高くなっている。

単位：%

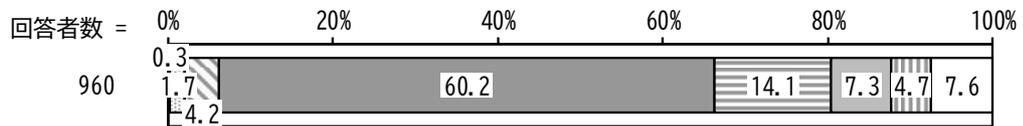
区分	回答者数（件）	男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事等に参加することに対する女性自身の抵抗感をなくすこと	家族間でコミュニケーションを図ること	男性が家事・育児等に参加することに対し、社会や職場の理解を深めること	仕事以外の時間を快くもてるような仕組みづくり	仲間づくりやネットワークづくり	その他	無回答
全体	960	58.5	19.6	61.7	68.6	38.1	20.3	4.5	3.3
男性	398	53.0	15.1	61.6	64.1	33.9	16.8	5.5	2.3
女性	544	62.7	22.8	62.3	71.9	41.0	23.2	3.9	3.7
男性 10代	4	50.0	—	75.0	100.0	75.0	50.0	—	—
20代	20	45.0	25.0	65.0	70.0	35.0	15.0	5.0	—
30代	28	42.9	17.9	67.9	67.9	39.3	21.4	10.7	—
40代	47	53.2	21.3	57.4	70.2	38.3	21.3	8.5	—
50代	78	44.9	11.5	48.7	56.4	24.4	12.8	11.5	2.6
60代	81	58.0	16.0	60.5	64.2	43.2	18.5	6.2	—
70歳以上	140	57.9	12.9	68.6	63.6	30.0	15.0	—	5.0
女性 10代	7	71.4	28.6	85.7	85.7	57.1	57.1	—	—
20代	24	70.8	29.2	66.7	70.8	58.3	37.5	8.3	12.5
30代	48	54.2	16.7	54.2	81.3	47.9	25.0	6.3	4.2
40代	77	61.0	19.5	58.4	71.4	46.8	15.6	7.8	2.6
50代	108	59.3	16.7	56.5	72.2	38.9	21.3	3.7	1.9
60代	90	72.2	23.3	64.4	75.6	35.6	25.6	3.3	4.4
70歳以上	188	61.2	27.7	66.5	67.0	37.2	21.8	1.6	3.7

## 2 女性の活躍推進に関する意識について

問 12 あなたは女性が職業を持つことについてどのようにお考えですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける方がよい」の割合が 60.2%と最も高く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が 14.1%、「わからない」の割合が 4.7%となっています。

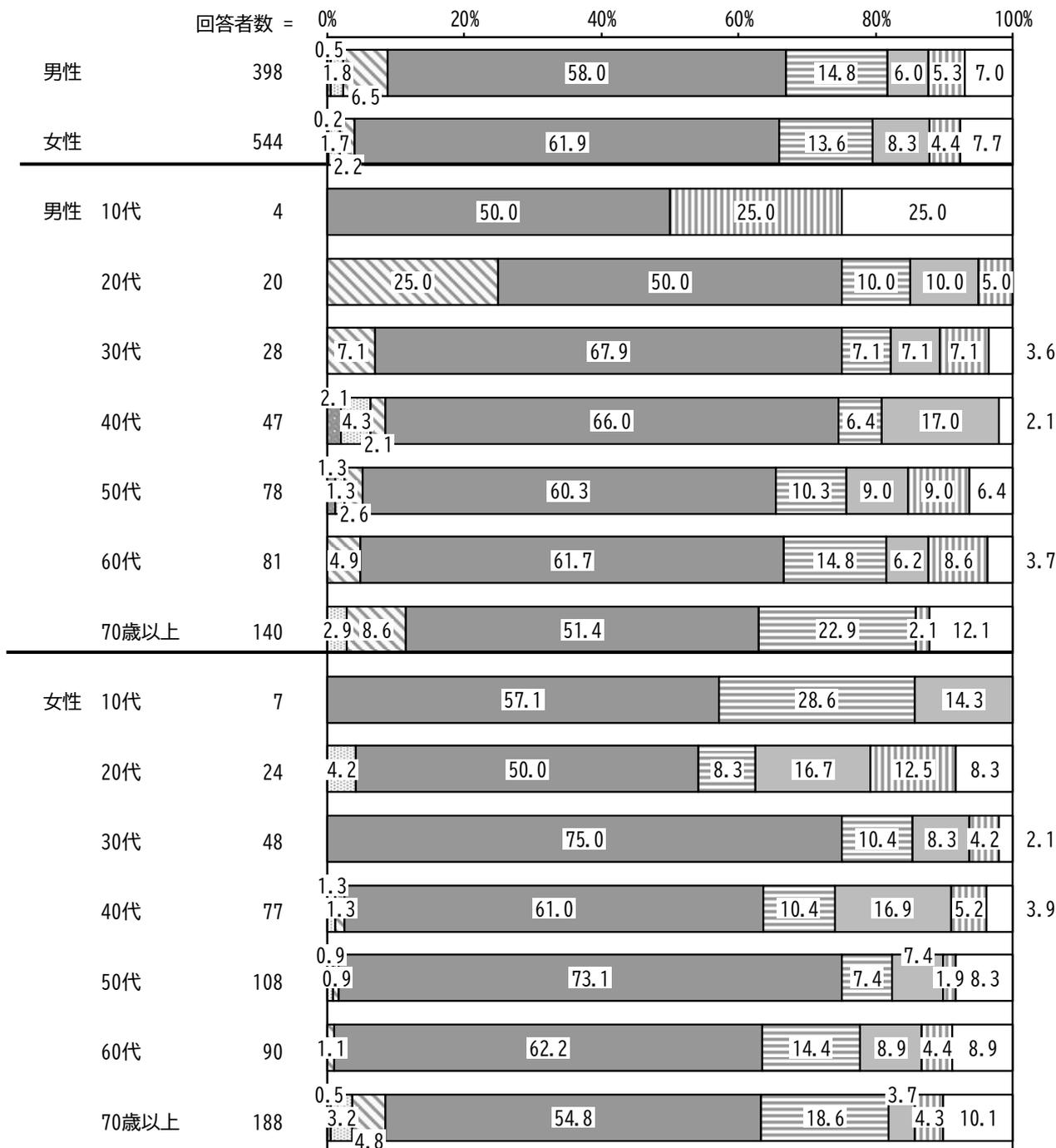
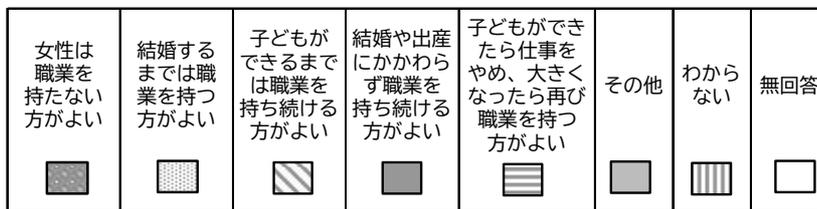
女性は職業を持たない方がよい	結婚するまでは職業を持つ方がよい	子どもができるまでは職業を持ち続ける方がよい	結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける方がよい	子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい	その他	わからない	無回答
							



【性別、性・年齢別】

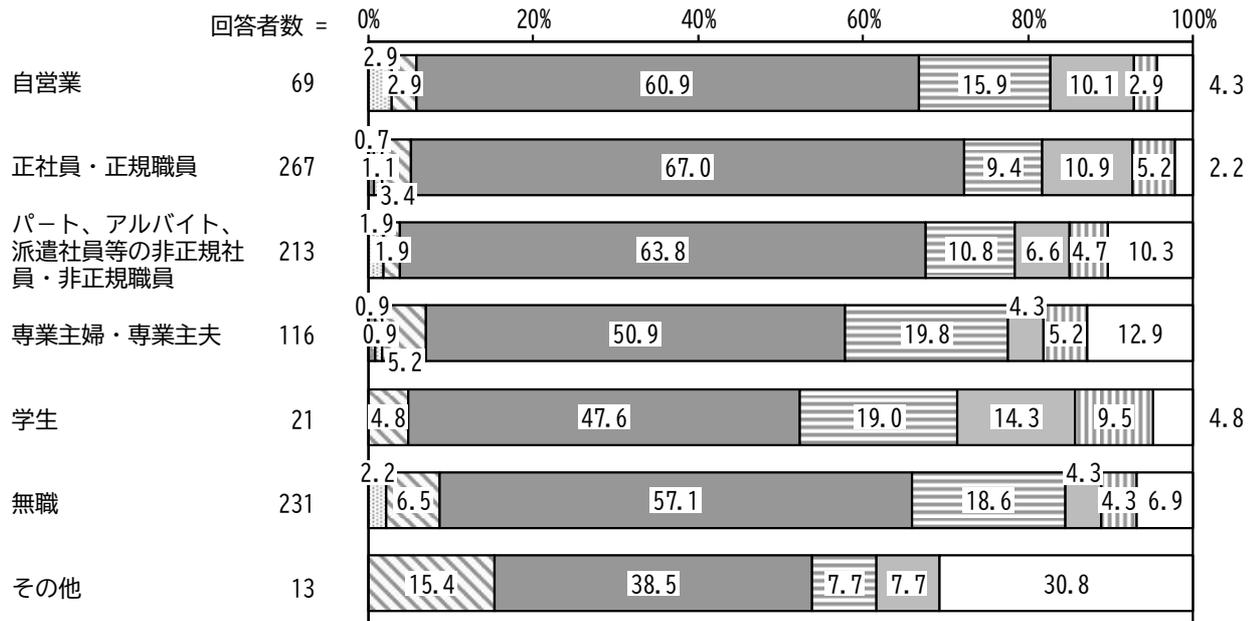
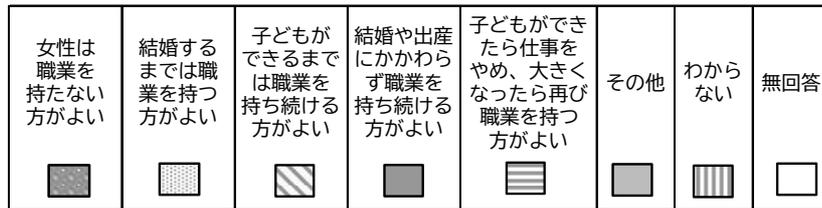
性別で見ると、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける方がよい」は女性(61.9%)が男性(58.0%)より3.9ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「子どもができるまでは職業を持ち続ける方がよい」は男性20代(25.0%)で高くなっている。「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける方がよい」は女性30代(75.0%)、50代(73.1%)で高くなっている。



【職業別】

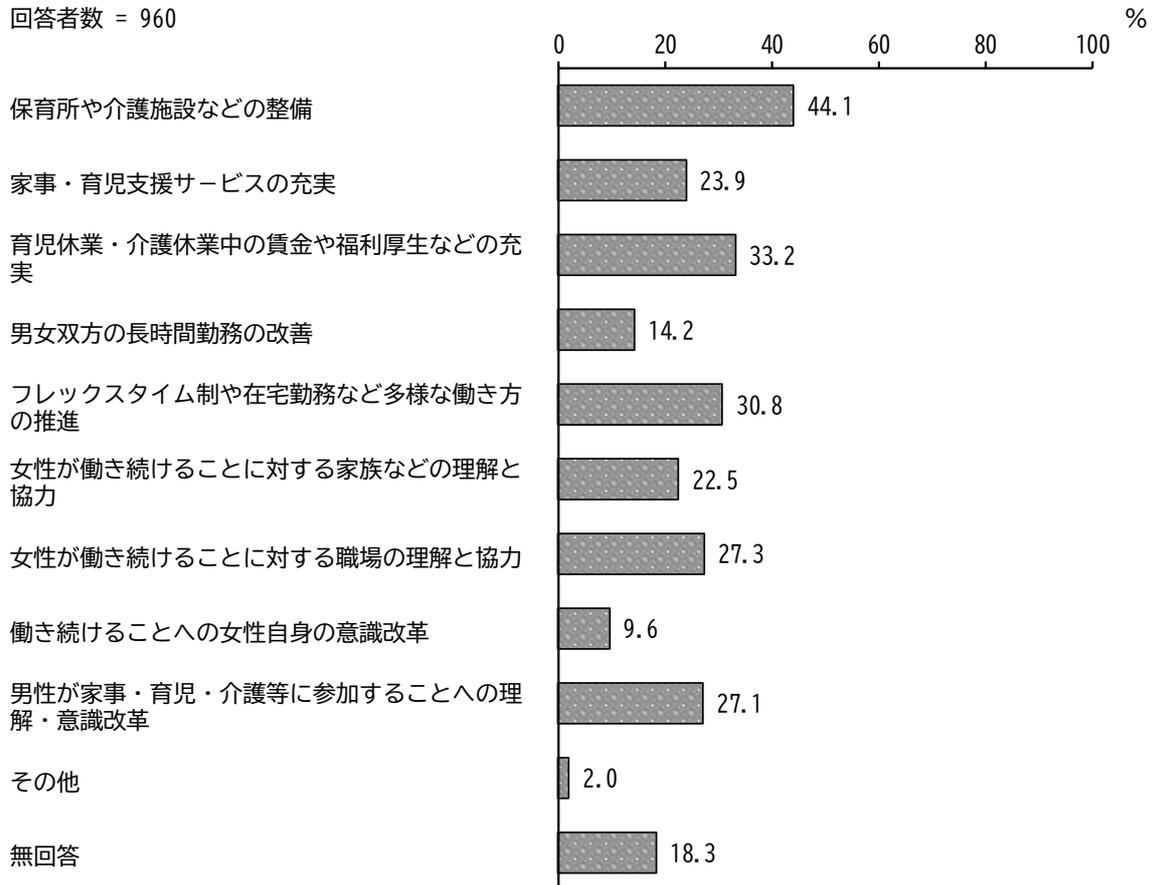
職業別でみると、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける方がよい」は正社員・正規職員(67.0%)で高くなっている。



問13 女性は男性に比べ、就職しても途中で離職する割合が高いですが、女性が働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いもの3つに○をつけてください。

「保育所や介護施設などの整備」の割合が44.1%と最も高く、次いで「育児休業・介護休業中の賃金や福利厚生などの充実」の割合が33.2%、「フレックスタイム制や在宅勤務など多様な働き方の推進」の割合が30.8%となっています。

回答者数 = 960



【性別、性・年齢別】

性別でみると、「育児休業・介護休業中の賃金や福利厚生などの充実」は男性(38.2%)が女性(30.1%)より8.1ポイント高くなっている。一方、「男性が家事・育児・介護等に参加することへの理解・意識改革」は女性が(31.6%)が男性(20.6%)より10.0ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「男女双方の長時間勤務の改善」は男性20代(40.0%)で高くなっている。「フレックスタイム制や在宅勤務など多様な働き方の推進」は男性30代(57.1%)で高くなっている。

単位：%

区分	回答者数(件)	保育所や介護施設などの整備	家事・育児支援サービスの充実	育児休業・介護休業中の賃金や福利厚生などの充実	男女双方の長時間勤務の改善	フレックスタイム制や在宅勤務など多様な働き方の推進	女性が働き続けることに対する家族などの理解と協力	女性が働き続けることに対する職場の理解と協力	働き続けることへの女性自身の意識改革	男性が家事・育児・介護等に参加することへの理解・意識改革	その他	無回答
全体	960	44.1	23.9	33.2	14.2	30.8	22.5	27.3	9.6	27.1	2.0	18.3
男性	398	47.5	28.4	38.2	15.8	29.9	18.3	26.4	9.5	20.6	2.5	16.8
女性	544	41.7	20.4	30.1	13.1	32.0	25.4	28.1	9.7	31.6	1.3	19.3
男性 10代	4	25.0	25.0	75.0	25.0	25.0	—	25.0	25.0	—	—	25.0
20代	20	55.0	20.0	25.0	40.0	40.0	10.0	30.0	5.0	35.0	—	10.0
30代	28	35.7	35.7	28.6	28.6	57.1	—	14.3	7.1	10.7	3.6	17.9
40代	47	42.6	29.8	31.9	21.3	34.0	8.5	27.7	8.5	14.9	4.3	21.3
50代	78	37.2	25.6	32.1	19.2	33.3	26.9	24.4	15.4	15.4	7.7	15.4
60代	81	55.6	34.6	35.8	12.3	22.2	19.8	28.4	4.9	21.0	1.2	17.3
70歳以上	140	52.1	25.7	47.9	7.9	24.3	21.4	27.9	10.0	25.7	—	16.4
女性 10代	7	42.9	28.6	57.1	—	71.4	28.6	—	—	42.9	—	—
20代	24	41.7	25.0	33.3	20.8	29.2	4.2	12.5	—	20.8	4.2	33.3
30代	48	37.5	25.0	29.2	22.9	39.6	12.5	29.2	2.1	27.1	—	22.9
40代	77	37.7	20.8	23.4	23.4	44.2	28.6	24.7	11.7	28.6	5.2	14.3
50代	108	41.7	21.3	28.7	12.0	29.6	19.4	27.8	8.3	25.9	—	25.9
60代	90	46.7	24.4	36.7	8.9	30.0	28.9	34.4	10.0	31.1	1.1	14.4
70歳以上	188	42.0	16.0	29.8	8.5	26.1	31.9	29.3	13.3	38.8	0.5	17.6

【職業別】

職業別でみると、「フレックスタイム制や在宅勤務など多様な働き方の推進」は学生（47.6%）が高くなっている。

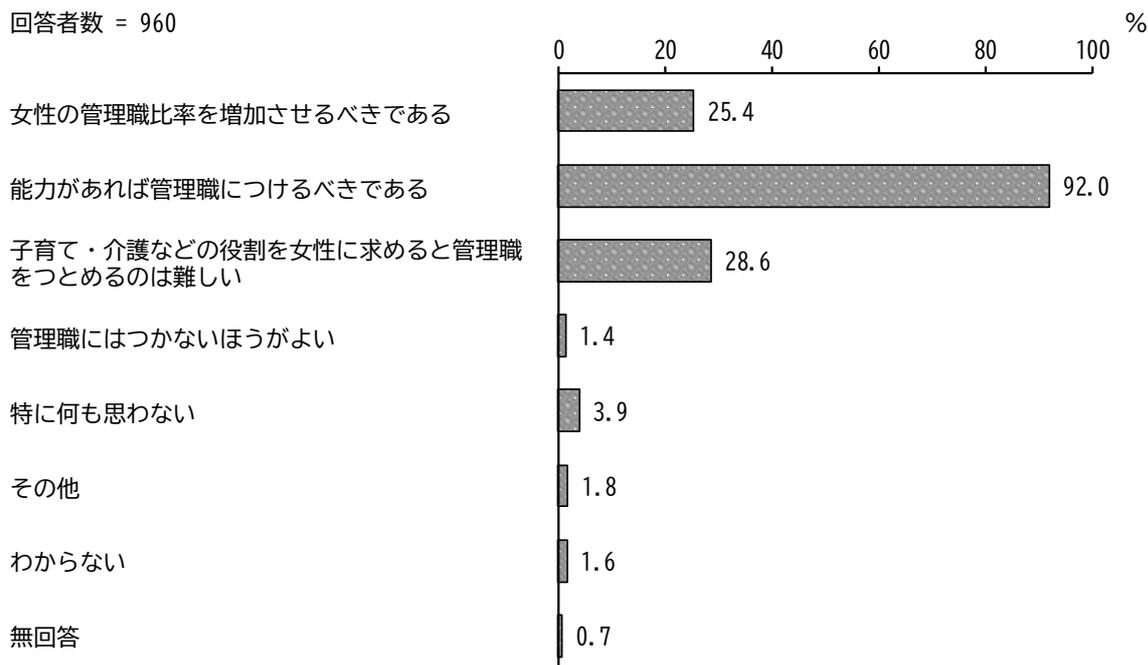
単位：%

区分	回答者数（件）	保育所や介護施設などの整備	家事・育児支援サービスの充実	育児休業・介護休業中の賃金や福利厚生などの充実	男女双方の長時間勤務の改善	フレックスタイム制や在宅勤務など多様な働き方の推進	女性が働き続けることに対する家族などの理解と協力	女性が働き続けることに対する職場の理解と協力	働き続けることへの女性自身の意識改革	男性が家事・育児・介護等に参加することへの理解・意識改革	その他	無回答
全体	960	44.1	23.9	33.2	14.2	30.8	22.5	27.3	9.6	27.1	2.0	18.3
自営業	69	42.0	8.7	34.8	15.9	34.8	27.5	27.5	11.6	30.4	4.3	18.8
正社員・正規職員	267	41.2	26.6	31.5	21.0	36.3	16.5	22.8	11.6	20.6	3.7	17.6
パート、アルバイト、派遣社員等の非正規社員・非正規職員	213	42.7	25.4	33.8	10.3	25.8	26.3	27.2	7.5	29.1	0.5	21.1
専業主婦・専業主夫	116	45.7	18.1	34.5	10.3	25.9	33.6	35.3	12.9	36.2	0.9	12.9
学生	21	47.6	28.6	47.6	28.6	47.6	14.3	9.5	4.8	19.0	—	14.3
無職	231	51.5	26.0	34.6	11.3	29.4	20.3	30.3	7.4	29.0	0.9	16.5
その他	13	15.4	30.8	23.1	7.7	30.8	15.4	—	—	—	15.4	46.2

問 14 あなたは女性が管理職につくことについてどのようにお考えですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

「能力があれば管理職につけるべきである」の割合が 92.0%と最も高く、次いで「子育て・介護などの役割を女性に求めると管理職をつとめるのは難しい」の割合が 28.6%、「女性の管理職比率を増加させるべきである」の割合が 25.4%となっています。

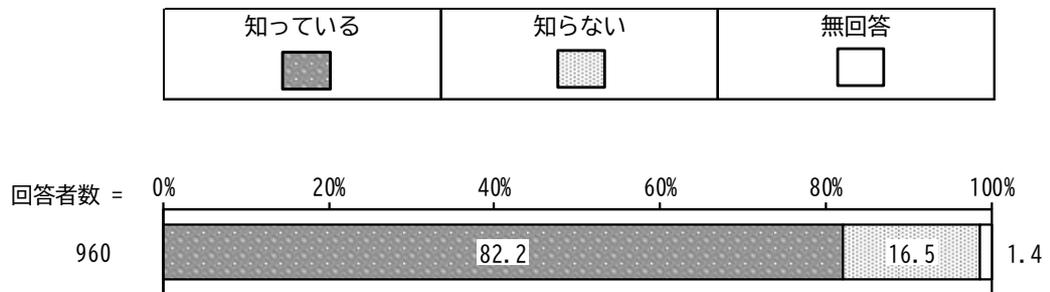
回答者数 = 960



### 3 性の多様性について

問 15 世界の人口に占める性的マイノリティ（LGBT等）の割合は、約8%といわれていますが、あなたは、性的マイノリティ（LGBT等）という言葉を知っていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

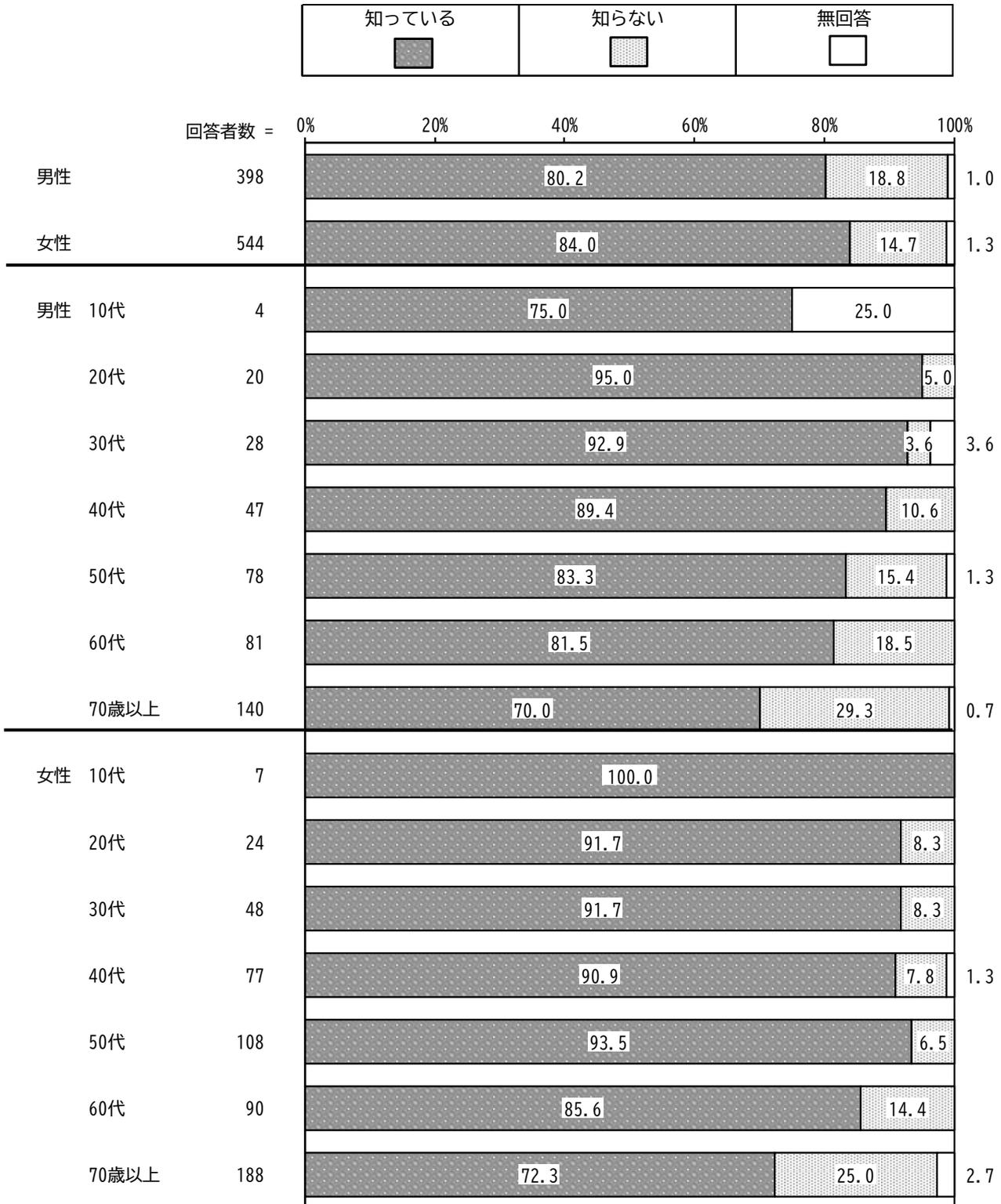
「知っている」の割合が82.2%、「知らない」の割合が16.5%となっています。



【性別、性・年齢別】

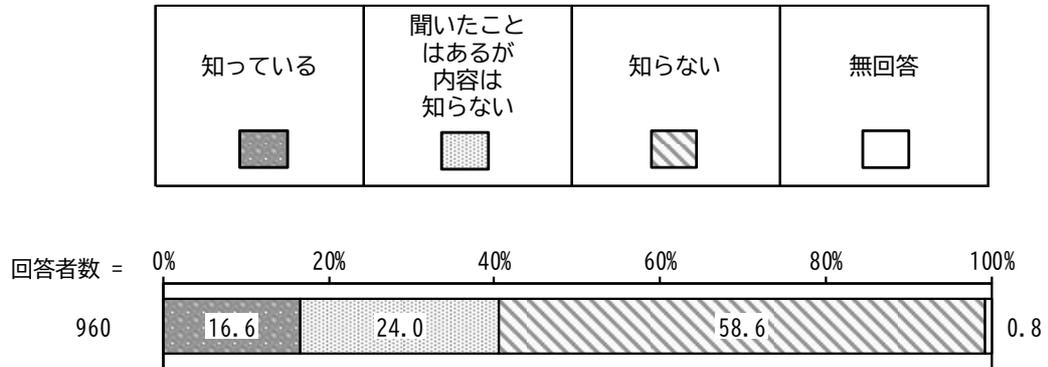
性別で見ると、大きな違いはみられない。

性・年齢別で見ると、「知っている」は男性 20 代（95.0%）で高くなっている。一方、「知らない」は男性 70 歳以上（29.3%）、女性 70 歳以上（25.0%）で高くなっている。



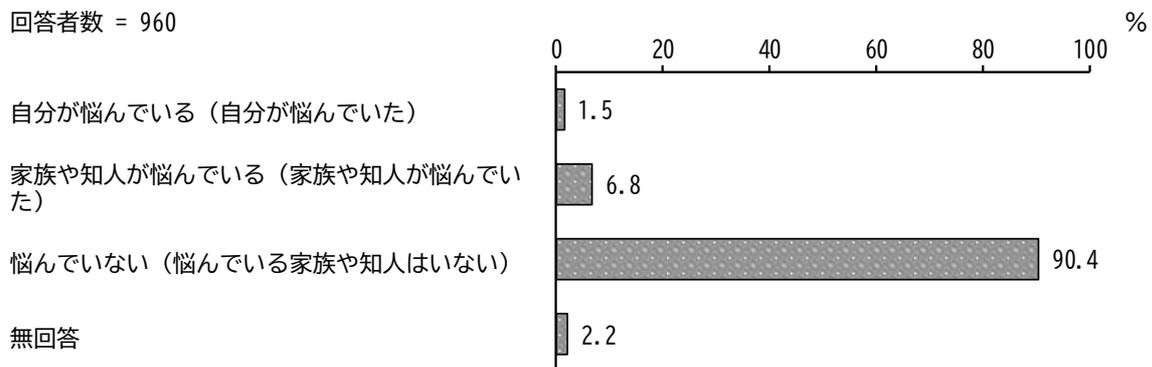
問 16 小田原市では、2019年4月1日より、日常生活において相互に協力しあい、継続的に共同生活を行うことを約束した、一方又は、双方が性的マイノリティであるお二人を対象に「小田原市パートナーシップ登録制度」を導入しました。あなたはこの制度を知っていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

「知らない」の割合が 58.6%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が 24.0%、「知っている」の割合が 16.6%となっています。



問 17 あなたは、今までに自分の身体の性、心の性または性的指向（同性愛など）に悩んだり、または身近に悩んでいる人がいますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

「悩んでいない（悩んでいる家族や知人はいない）」の割合が 90.4%と最も高く、次いで「家族や知人が悩んでいる（家族や知人が悩んでいた）」の割合が 6.8%、「自分が悩んでいる（自分が悩んでいた）」の割合が 1.5%となっています。



【性別、性・年齢別】

性別で見ると、「悩んでいない（悩んでいる家族や知人はいない）」は男性（92.2%）が女性（89.5%）より2.7ポイント高くなっている。

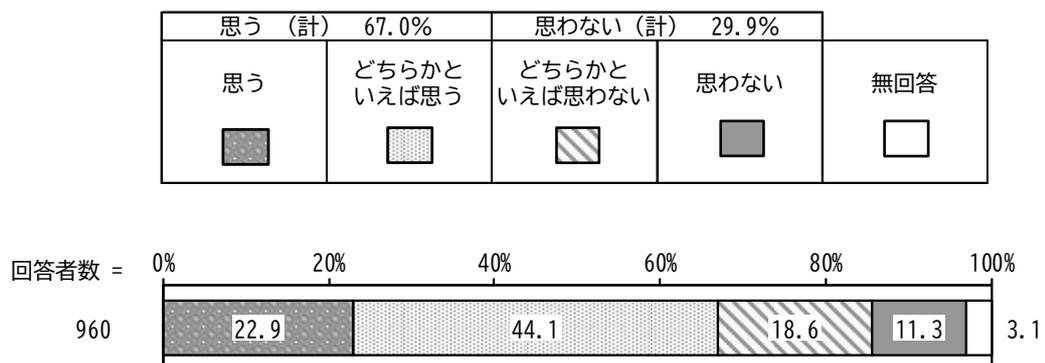
性・年齢別で見ると、「家族や知人が悩んでいる（家族や知人が悩んでいた）」は女性20代（37.5%）で高くなっている。

単位：%

区分	回答者数 (件)	自分が悩んでいる (自分が悩んでいた)	家族や知人が悩んでいる (家族や知人が悩んでいた)	悩んでいない (悩んでいない) (家族や知人はいない)	無回答
全 体	960	1.5	6.8	90.4	2.2
男性	398	1.8	5.5	92.2	1.3
女性	544	1.1	7.7	89.5	2.4
男性 10代	4	25.0	25.0	75.0	—
20代	20	10.0	10.0	80.0	—
30代	28	3.6	3.6	92.9	—
40代	47	2.1	10.6	89.4	—
50代	78	1.3	7.7	89.7	1.3
60代	81	1.2	4.9	93.8	1.2
70歳以上	140	—	2.1	95.7	2.1
女性 10代	7	—	28.6	71.4	—
20代	24	8.3	37.5	54.2	4.2
30代	48	—	12.5	87.5	—
40代	77	1.3	13.0	87.0	—
50代	108	0.9	5.6	93.5	0.9
60代	90	1.1	6.7	91.1	2.2
70歳以上	188	0.5	1.6	93.6	4.3

問18 現在、性的マイノリティ（LGBT等）の方々にとって、偏見や差別などにより生活しづらい社会だと思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

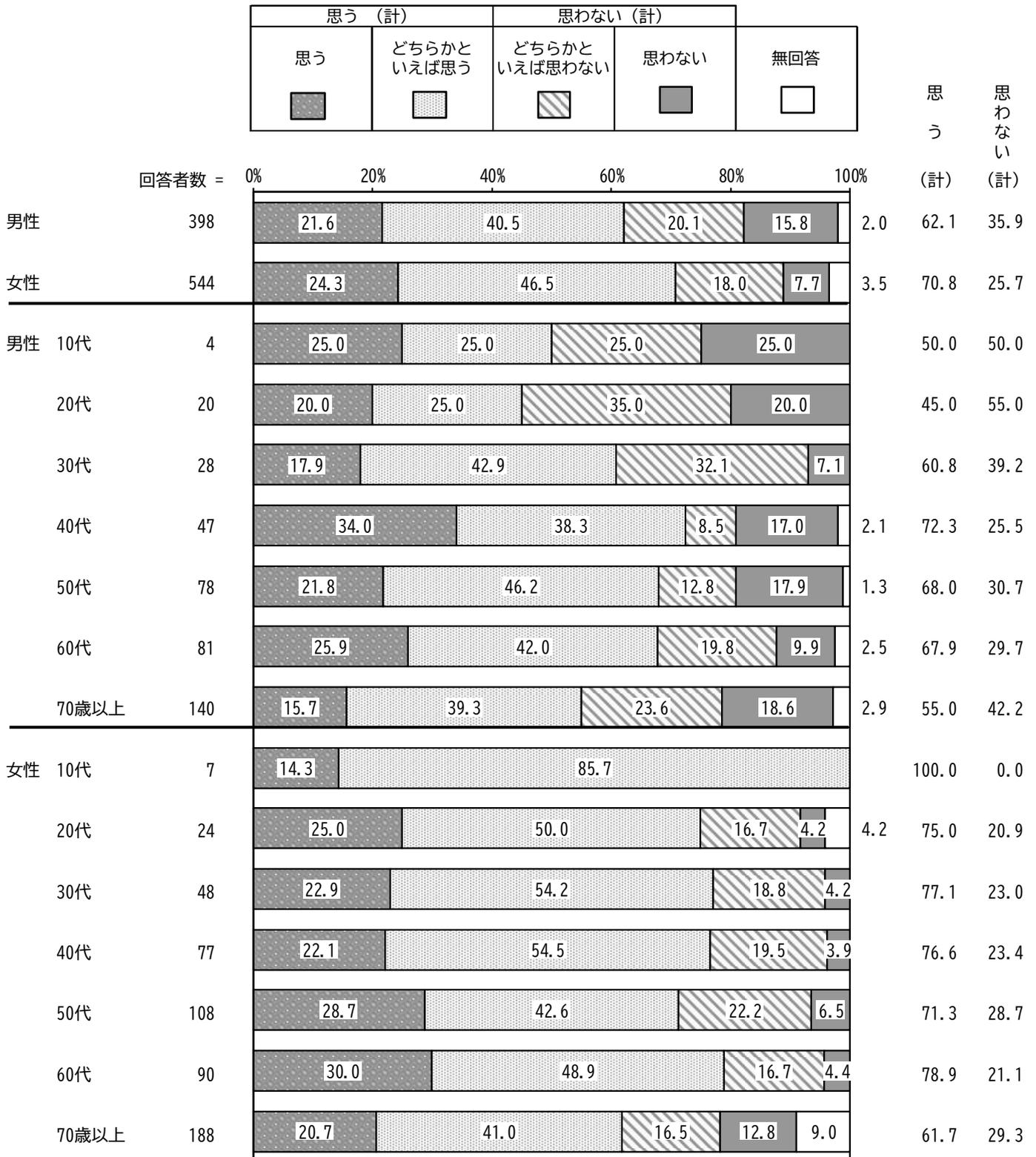
「どちらかといえば思う」の割合が44.1%と最も高く、次いで「思う」の割合が22.9%、「どちらかといえば思わない」の割合が18.6%となっています。



【性別、性・年齢別】

性別で見ると、『思う（計）』は女性（70.8%）が男性（62.1%）より8.7ポイント高くなっている。一方、『思わない（計）』は男性（35.9%）が女性（25.7%）より10.2ポイント高くなっている。

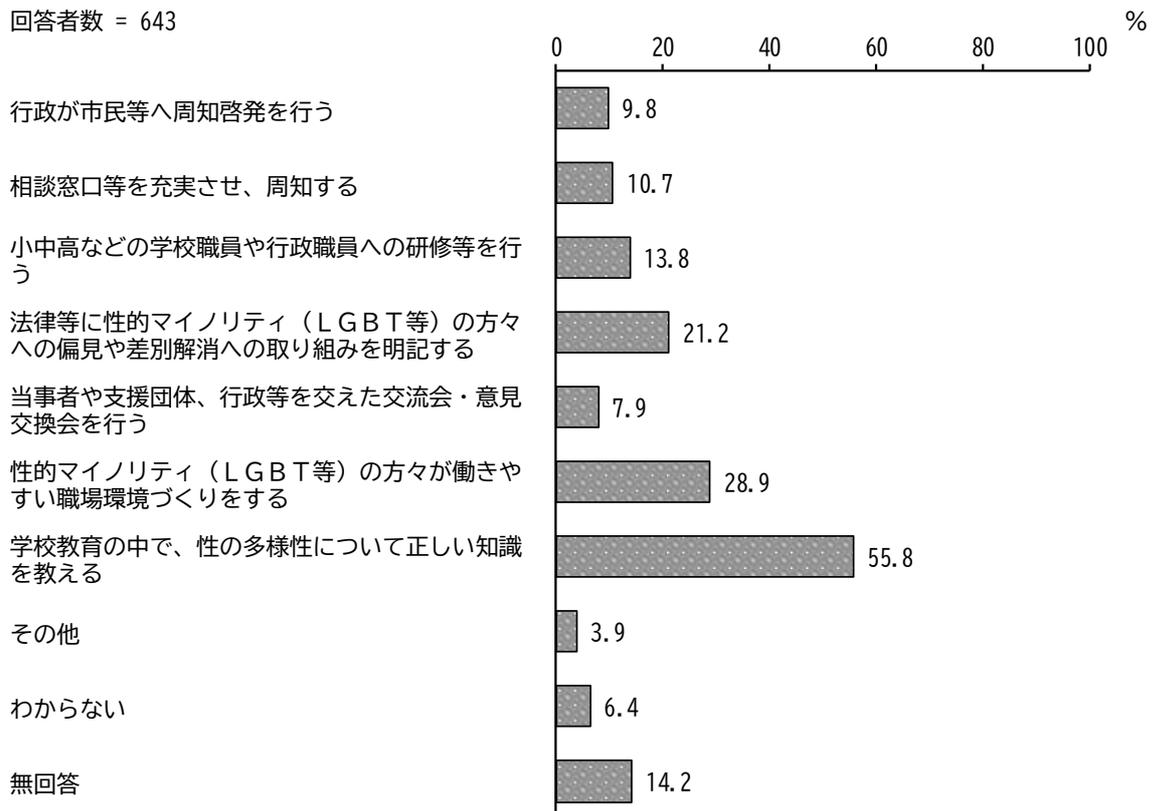
性・年齢別で見ると、『思う（計）』は女性60代（78.9%）で高くなっている。一方、『思わない（計）』は男性20代（55.0%）で高くなっている。



問19 問18で「思う」または「どちらかといえば思う」と回答した方にお伺いします。  
 性的マイノリティ（LGBT等）の方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティ（LGBT等）の方々が生かしやすくなるためどのような対策が必要だと思いますか。あてはまる番号2つに○をつけてください。

「学校教育の中で、性の多様性について正しい知識を教える」の割合が55.8%と最も高く、次いで「性的マイノリティ（LGBT等）の方々働きやすい職場環境づくりをする」の割合が28.9%、「法律等に性的マイノリティ（LGBT等）の方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する」の割合が21.2%となっています。

回答者数 = 643



## 4 DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する意識について

問 20 あなたは、次のようなことが夫婦や恋人などの間で行われた場合、暴力だと思いますか。あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

『⑥平手で打つ』『⑦足でける』『⑧刃物などを突きつけて、おどす』で「暴力にあたる」の割合が高くなっています。一方、『①交友関係や通話履歴・メール・SNS等を細かく監視する』で「暴力にあたらない」の割合が高くなっています。



回答者数 = 960

①交友関係や通話履歴・メール・SNS等を細かく監視する

②何を言っても長期間無視し続ける

③大声でどなる

④なぐるふりをして、おどす

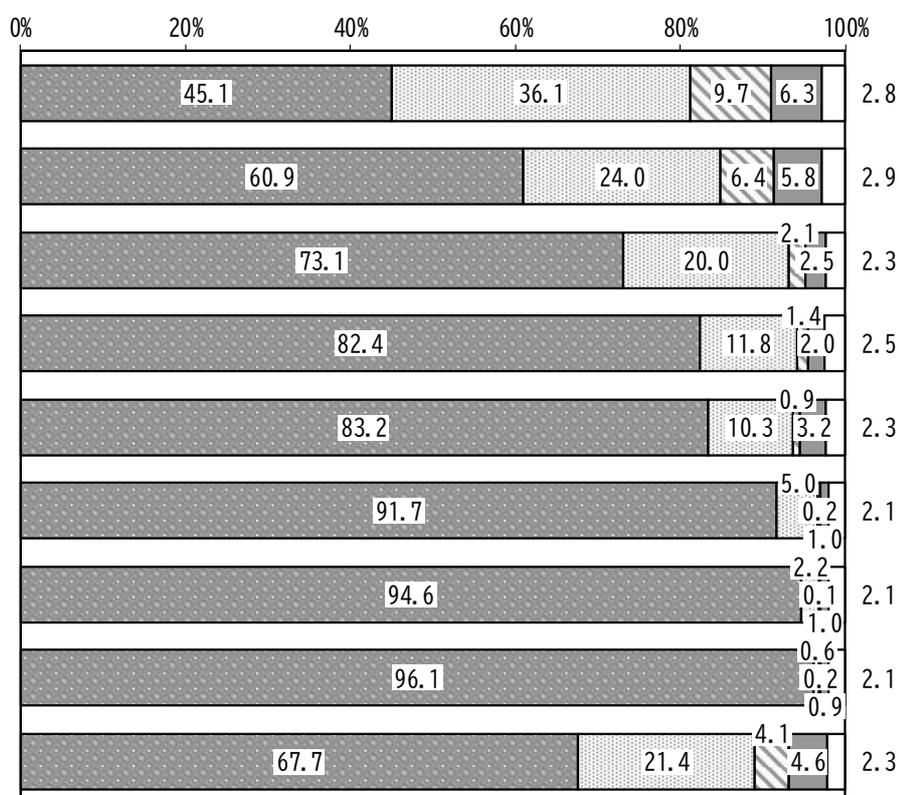
⑤性的な行為を強要する

⑥平手で打つ

⑦足でける

⑧刃物などを突きつけて、おどす

⑨生活費を渡さない

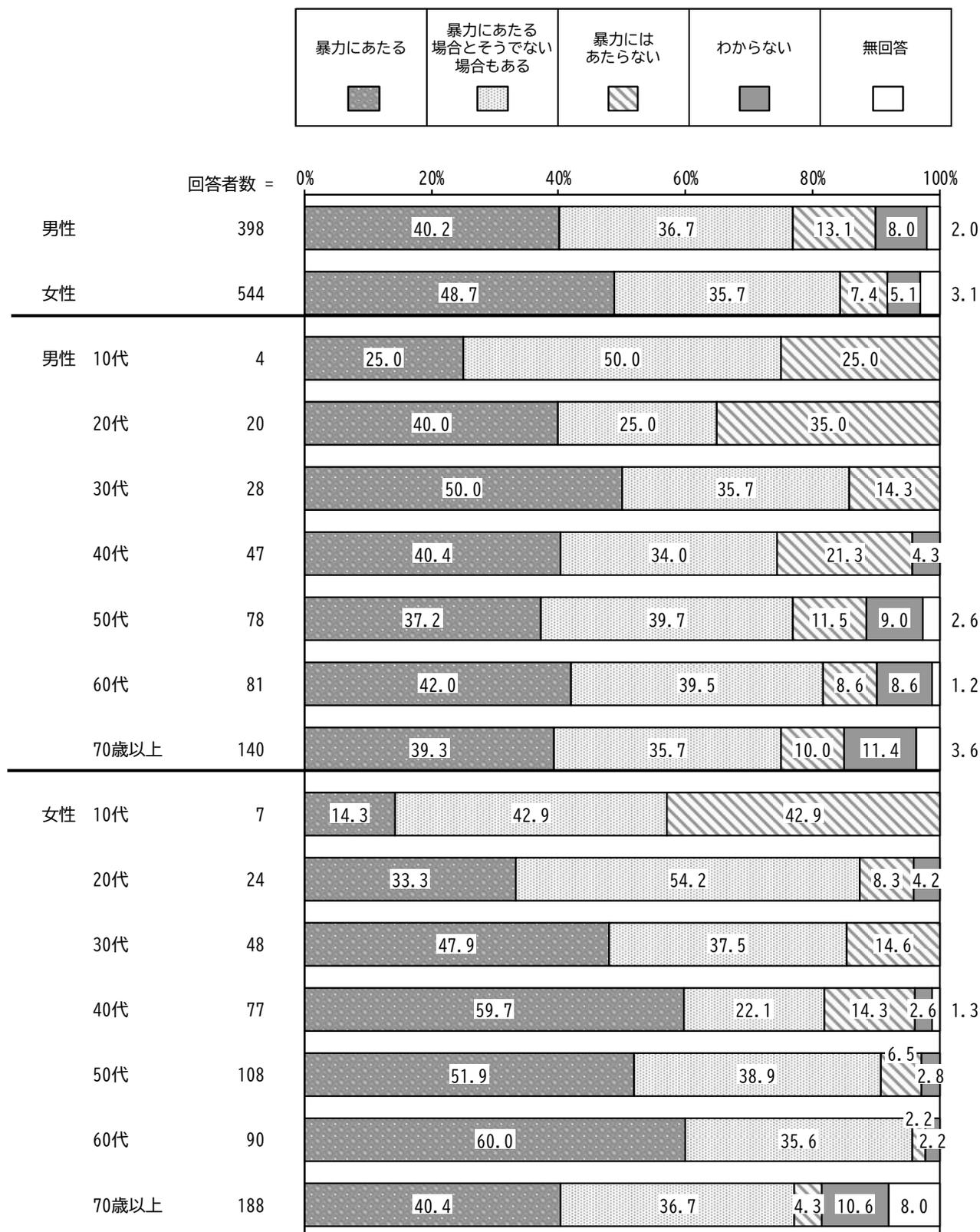


①交友関係や通話履歴・メール・SNS等を細かく監視する

【性別、性・年齢別】

性別で見ると、「暴力にあたる」は女性（48.7%）が男性（40.2%）より8.5ポイント高くなっている。一方、「暴力にはあたらない」は男性（13.1%）が女性（7.4%）より5.7ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「暴力にあたる」は女性40代（59.7%）、60代（60.0%）で高くなっている。一方、「暴力にはあたらない」は男性20代（35.0%）で高くなっている。

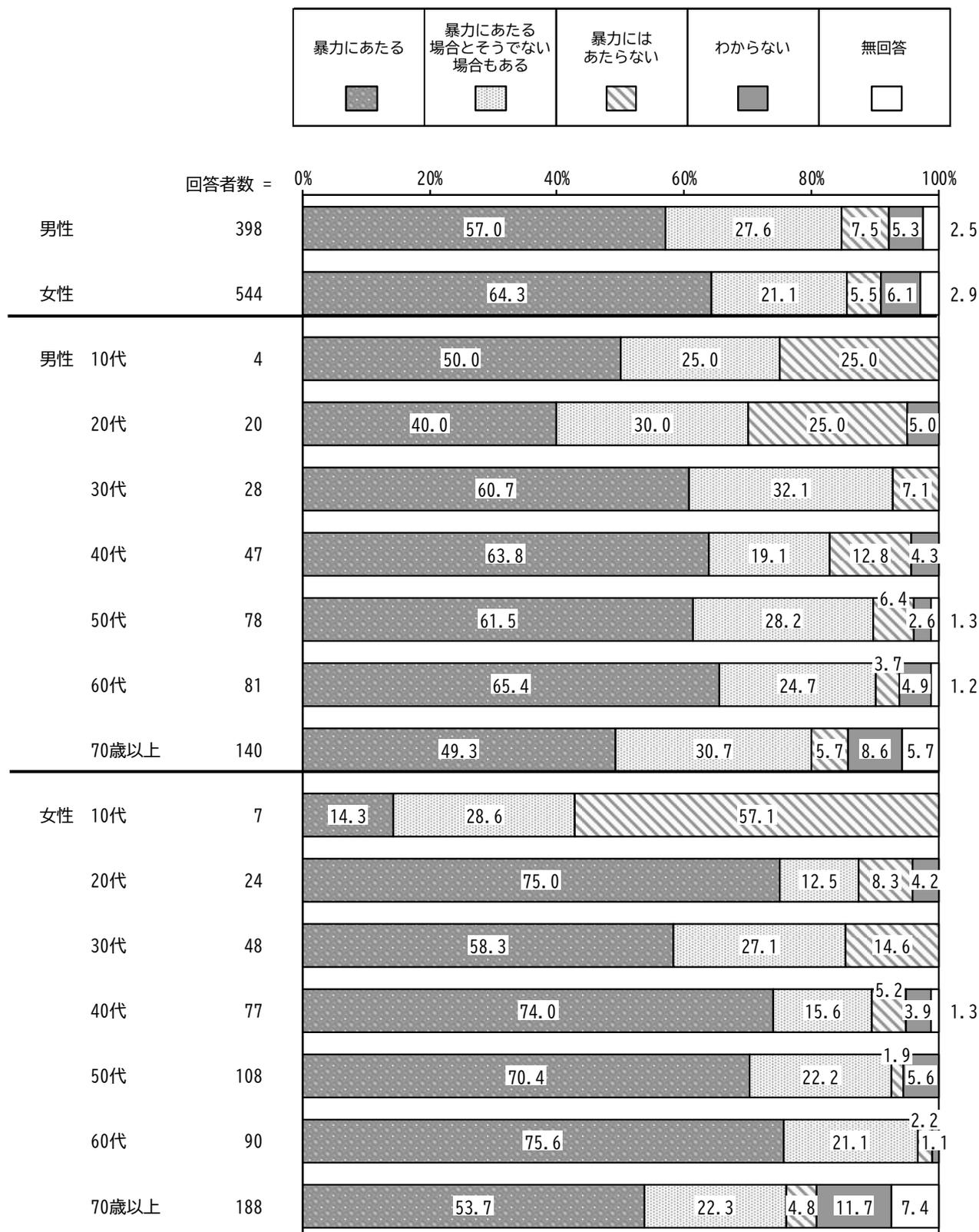


## ②何を言っても長期間無視し続ける

### 【性別、性・年齢別】

性別で見ると、「暴力にあたる」は女性（64.3%）が男性（57.0%）より7.3ポイント高くなっている。一方、「暴力にはあたらない」は男性（27.6%）が女性（21.1%）より6.5ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「暴力にあたる」は女性20代（75.0%）、60代（75.6%）で高くなっている。一方、「暴力にはあたらない」は男性20代（25.0%）で高くなっている。

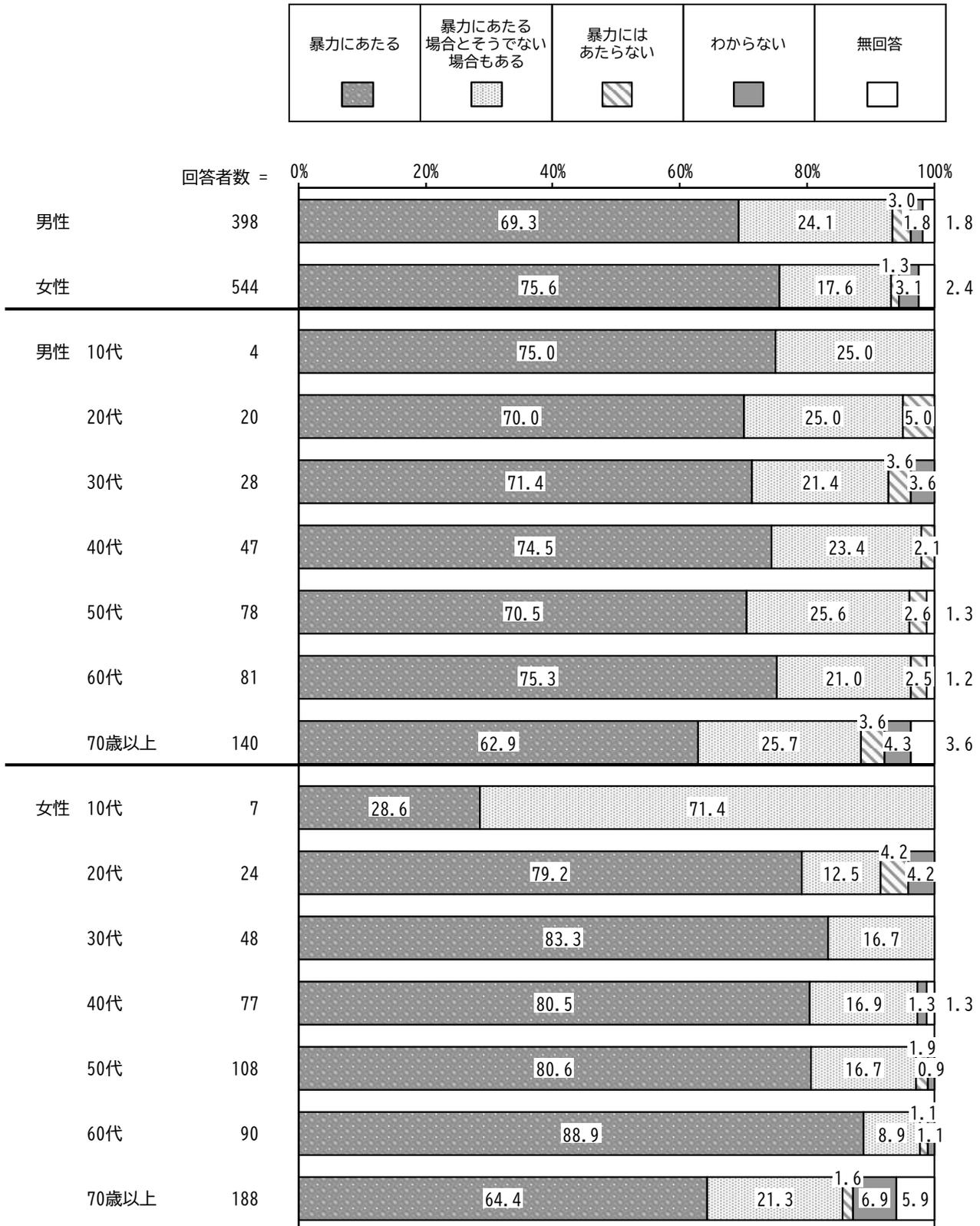


### ③大声でどなる

#### 【性別、性・年齢別】

性別で見ると、「暴力にあたる」は女性（75.6%）が男性（69.3%）より6.3ポイント高くなっている。一方、「暴力にはあたらない」は男性（24.1%）が女性（17.6%）より6.5ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「暴力にあたる」は女性60代（88.9%）で高くなっている。一方、「暴力にはあたらない」は男性20代（25.0%）、50代（56.6%）、70歳以上（25.7%）で高くなっている。

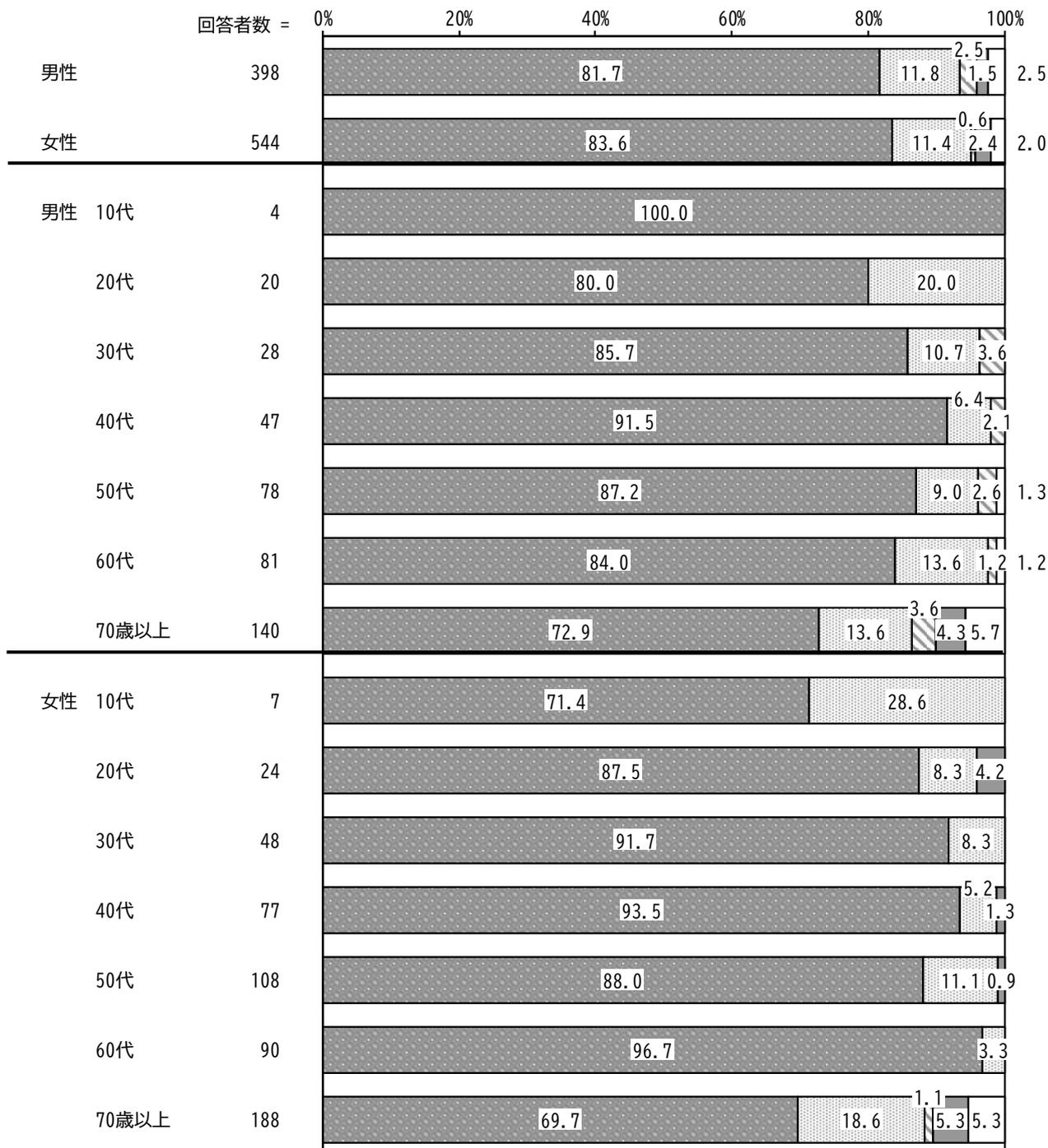
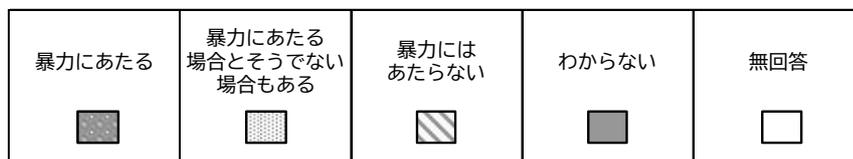


④なぐるふりをして、おどす

【性別、性・年齢別】

性別で見ると、大きな違いはみられない。

性・年齢別で見ると、「暴力にあたる」は女性60代（96.7%）で高くなっている。

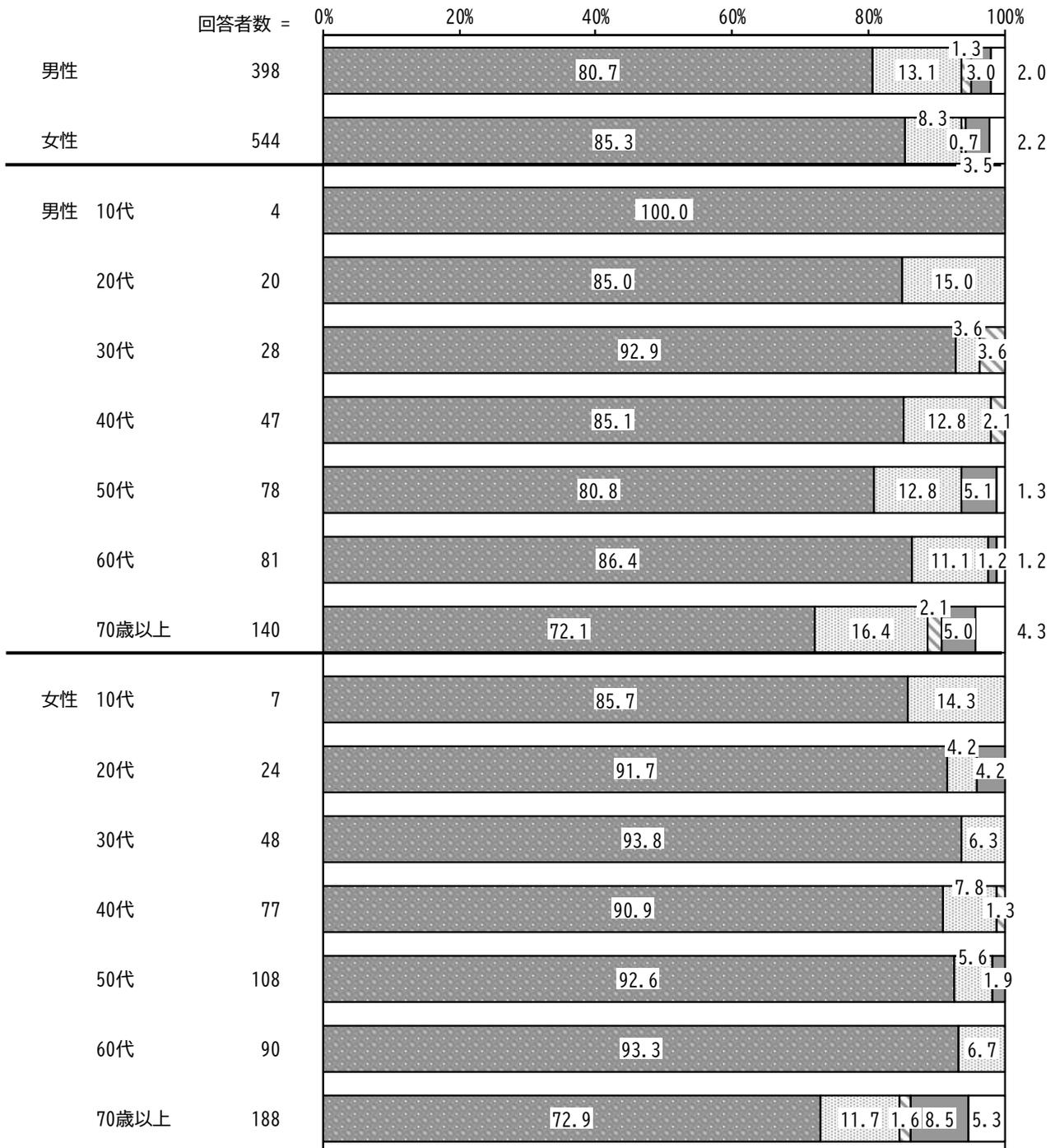


⑤性的な行為を強要する

【性別、性・年齢別】

性別で見ると、「暴力にあたる」は女性（85.3%）が男性（80.7%）より4.6ポイント高くなっている。一方、「暴力にはあたらない」は男性（13.1%）が女性（8.3%）より4.8ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「暴力にあたる」は女性30代（93.8%）、60代（93.3%）で高くなっている。

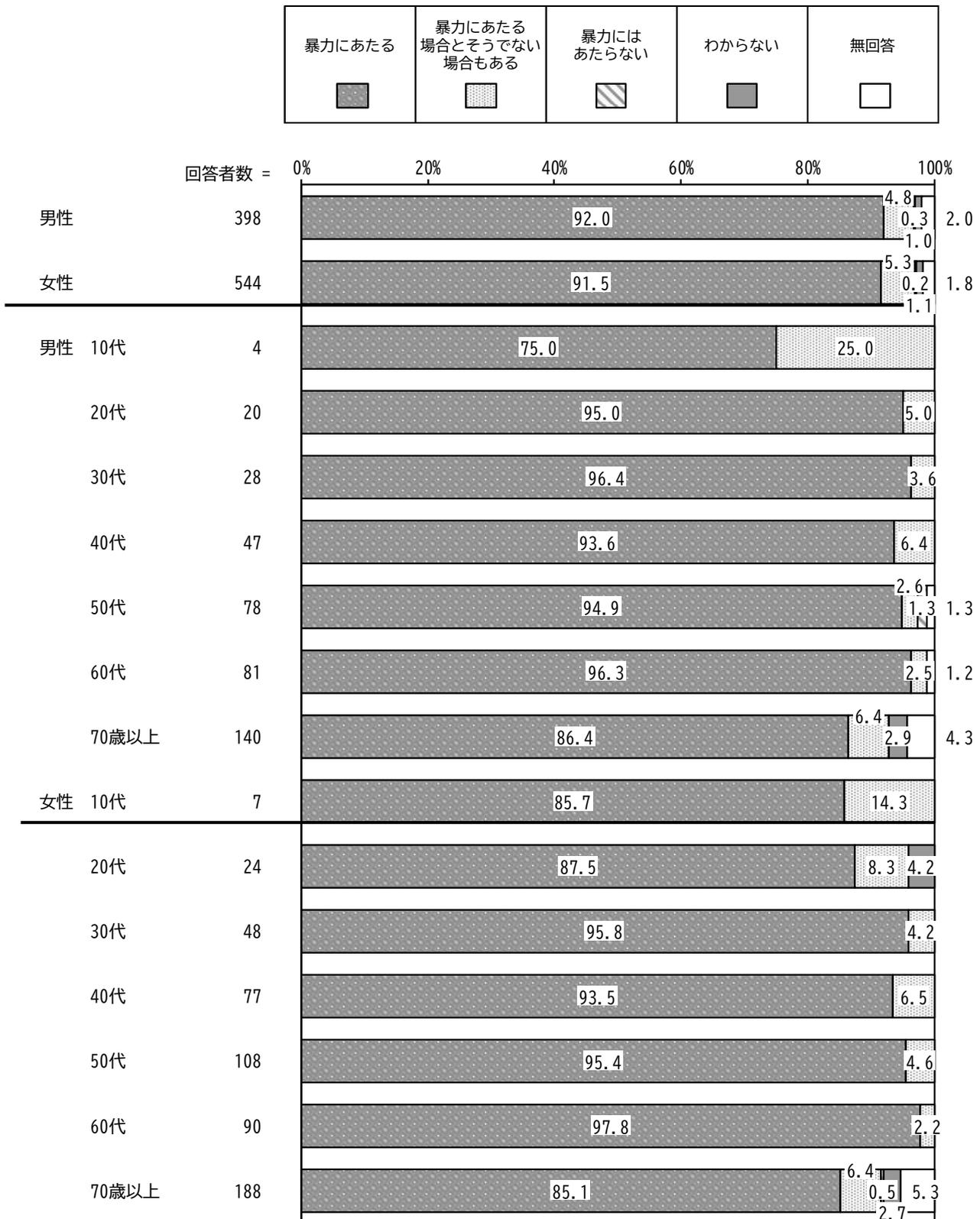


⑥平手で打つ

【性別、性・年齢別】

性別でみると、大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、「暴力にあたる」は女性 60代（97.8%）で高くなっている。

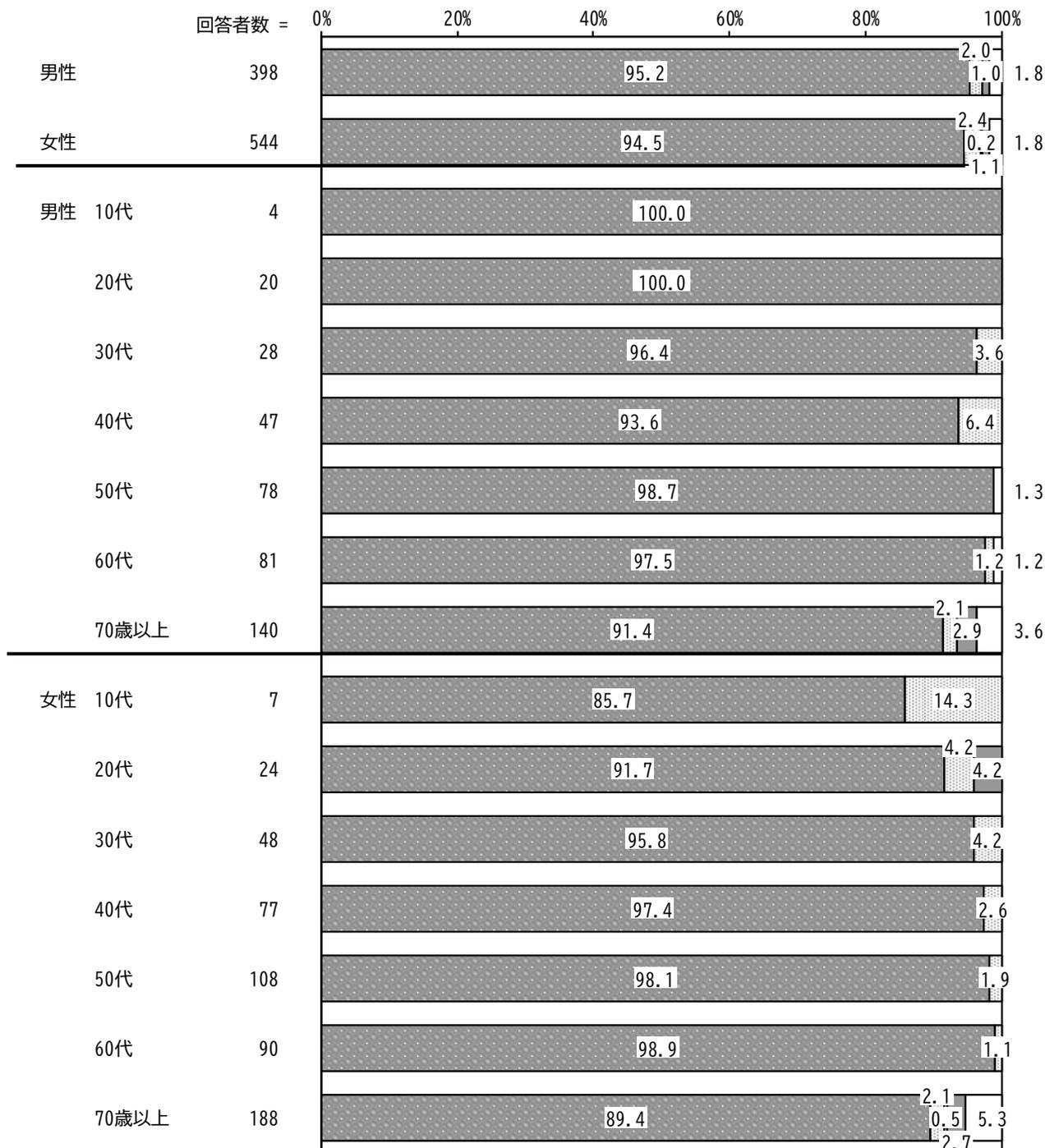
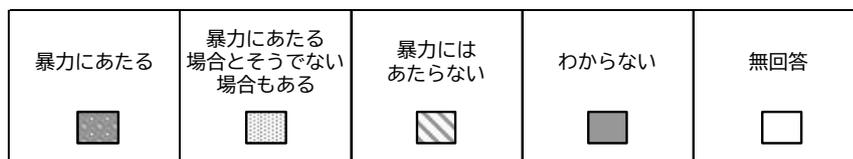


⑦足でける

【性別、性・年齢別】

性別で見ると、大きな違いはみられない。

性・年齢別で見ると、「暴力にあたる」は男性 20 代（100.0%）で高くなっている。

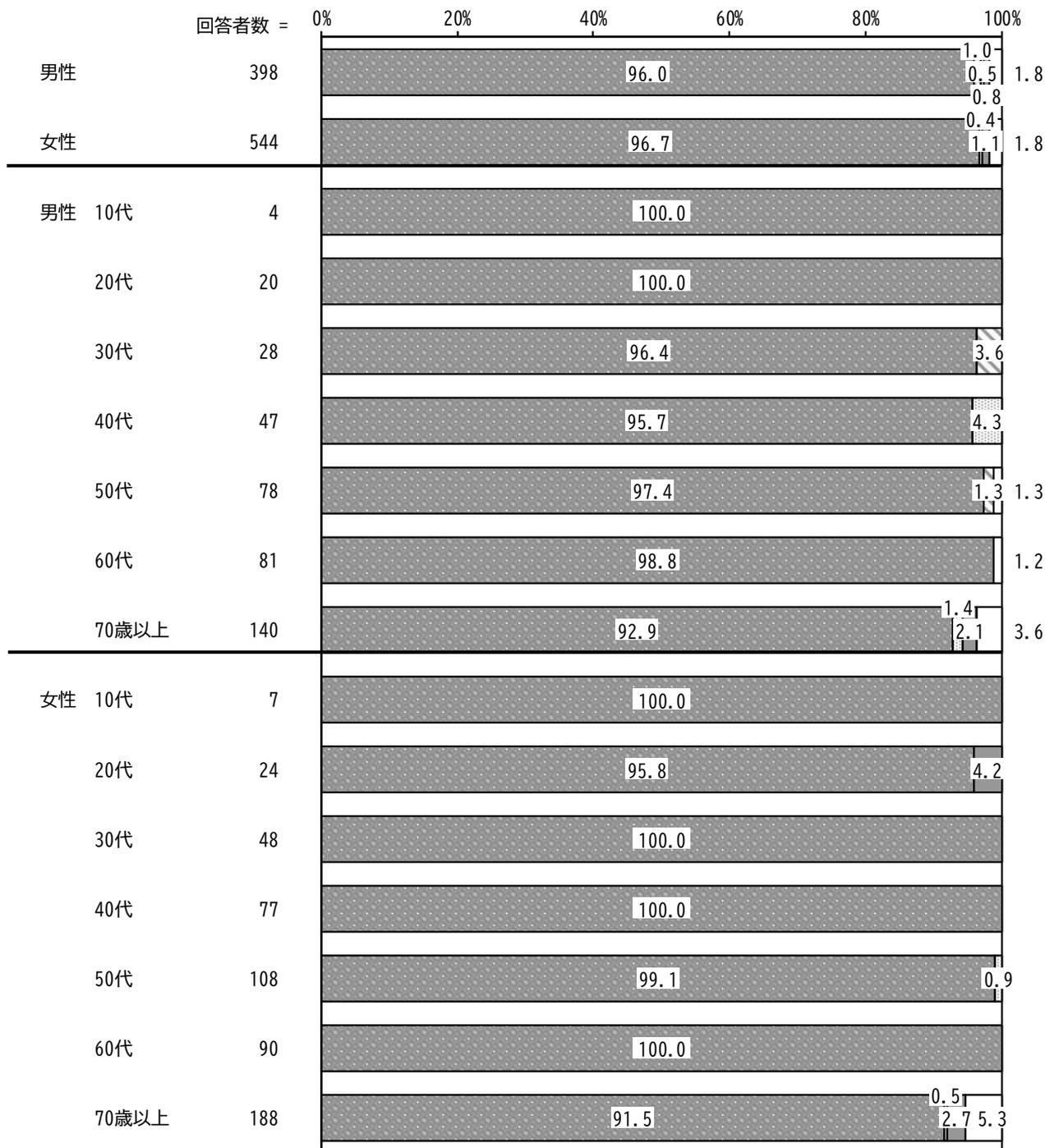


⑧刃物などを突きつけて、おどす

【性別、性・年齢別】

性別でみると、大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、「暴力にあたる」は男性 20 代（100.0%）、女性 30 代、40 代、60 代（すべて 100.0%）で高くなっている。

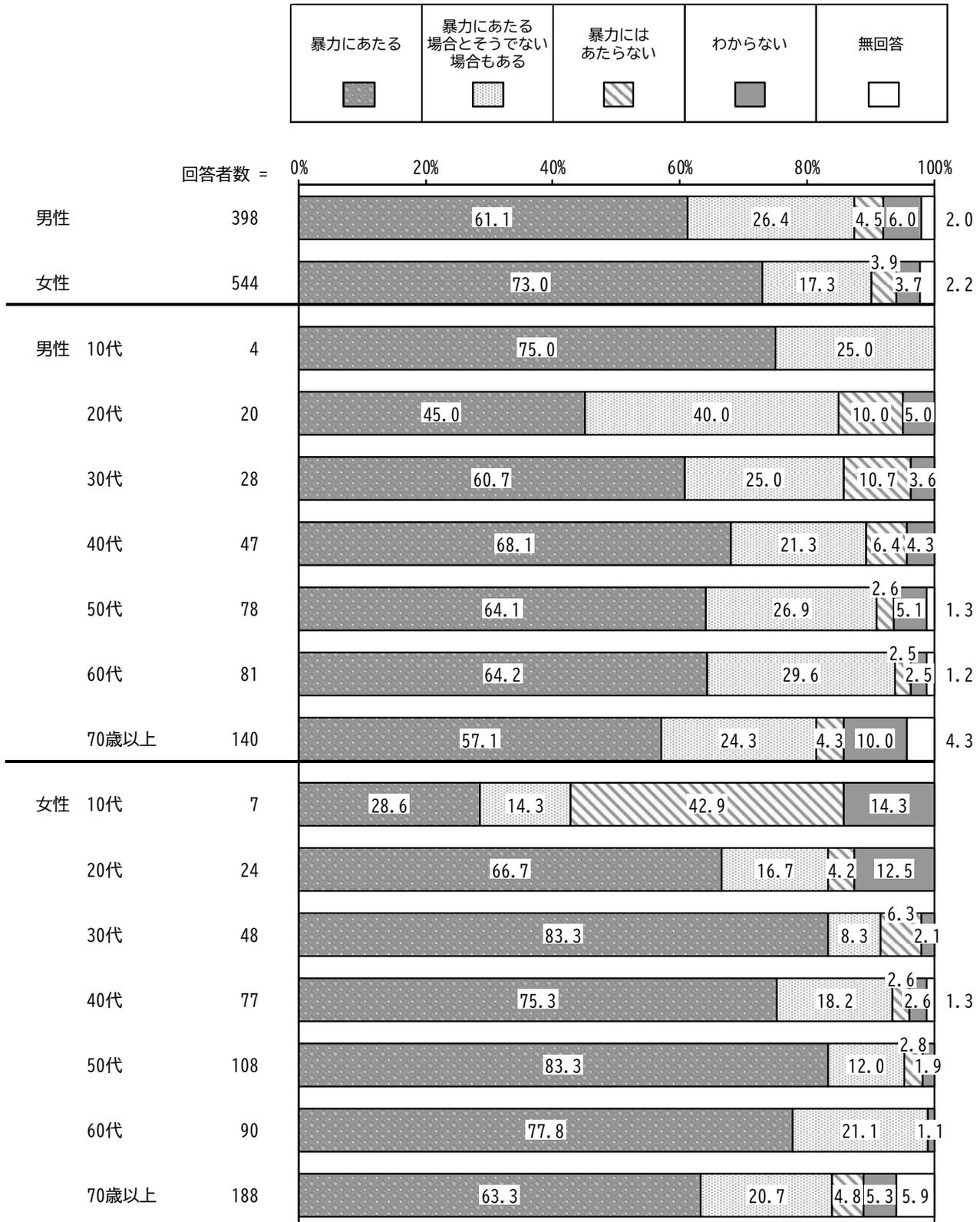


⑨生活費を渡さない

【性別、性・年齢別】

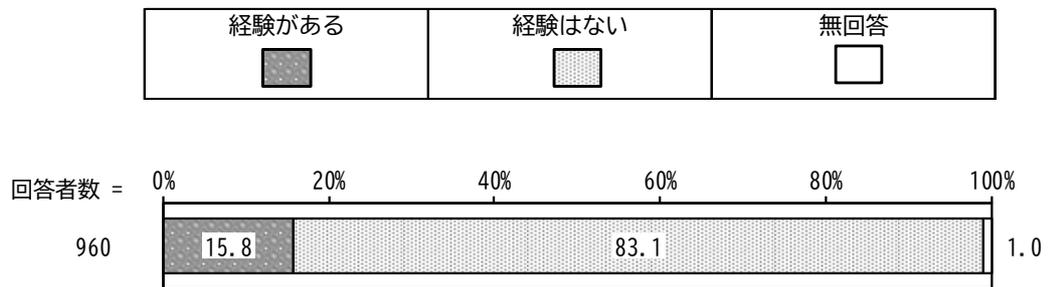
性別で見ると、「暴力にあたる」は女性（73.0%）が男性（61.1%）より11.9ポイント高くなっている。一方、「暴力にはあたらない」は男性（26.4%）が女性（17.3%）より9.1ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「暴力にあたる」は女性30代（83.3%）、50代（83.3%）で高くなっている。一方、「暴力にはあたらない」は男性20代（10.0%）、30代（10.7%）で高くなっている。



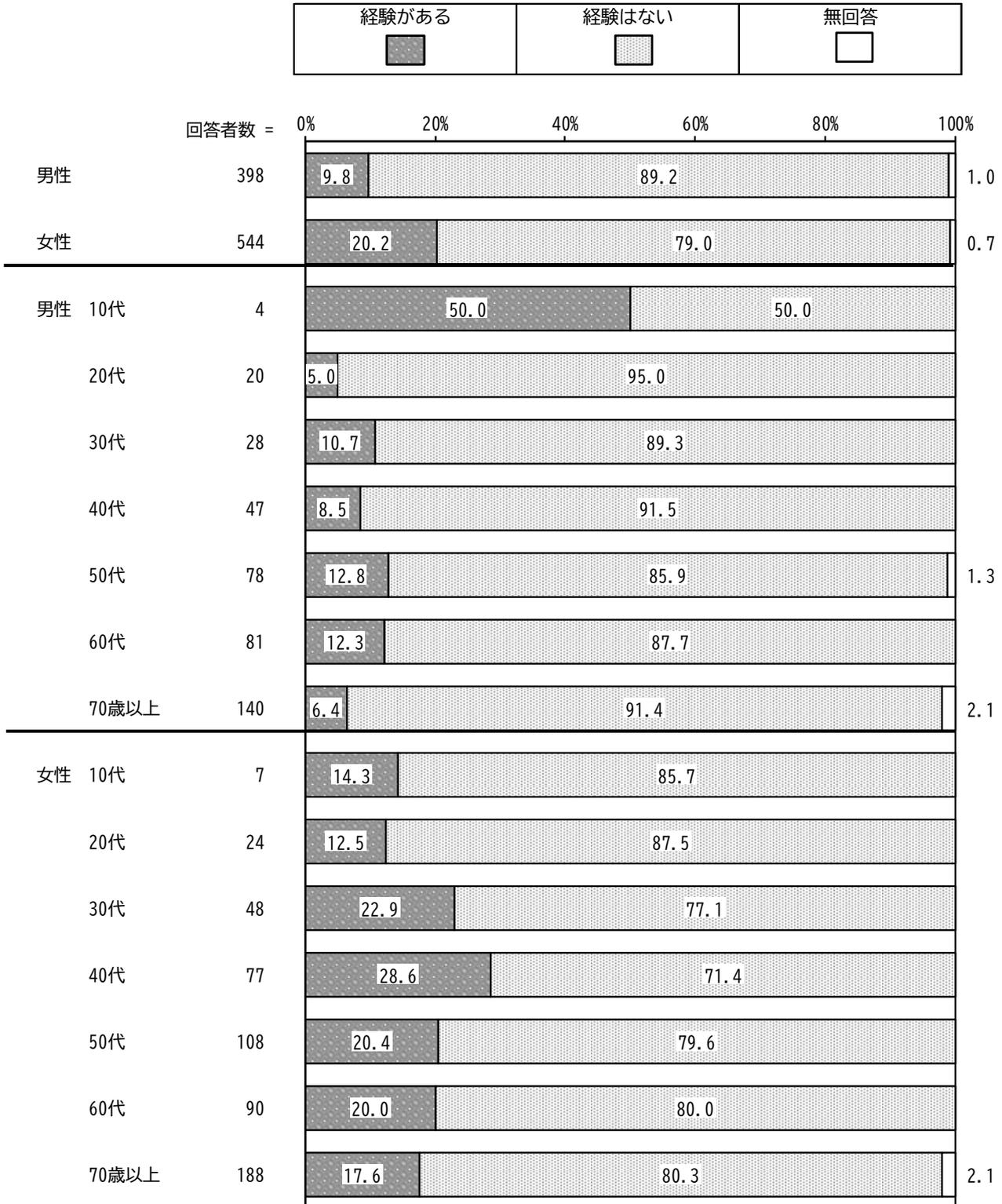
問 21 問 20 の①から⑨のような行為を今までに受けた経験はありますか。あてはまる番号に○をつけてください。

「経験がある」の割合が 15.8%、「経験はない」の割合が 83.1%となっています。



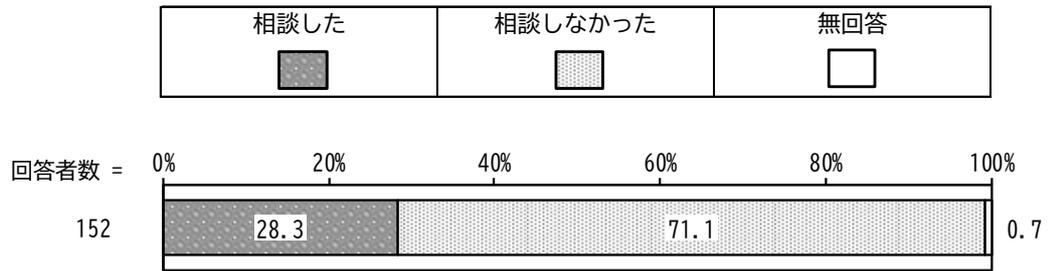
【性別、性・年齢別】

性別で見ると、「経験がある」は女性（20.2%）が男性（9.8%）より10.4ポイント高くなっている。  
 性・年齢別で見ると、「経験がある」は女性40代（28.6%）で高くなっています。一方、「経験はない」は男性20代（95.0%）で高くなっている。



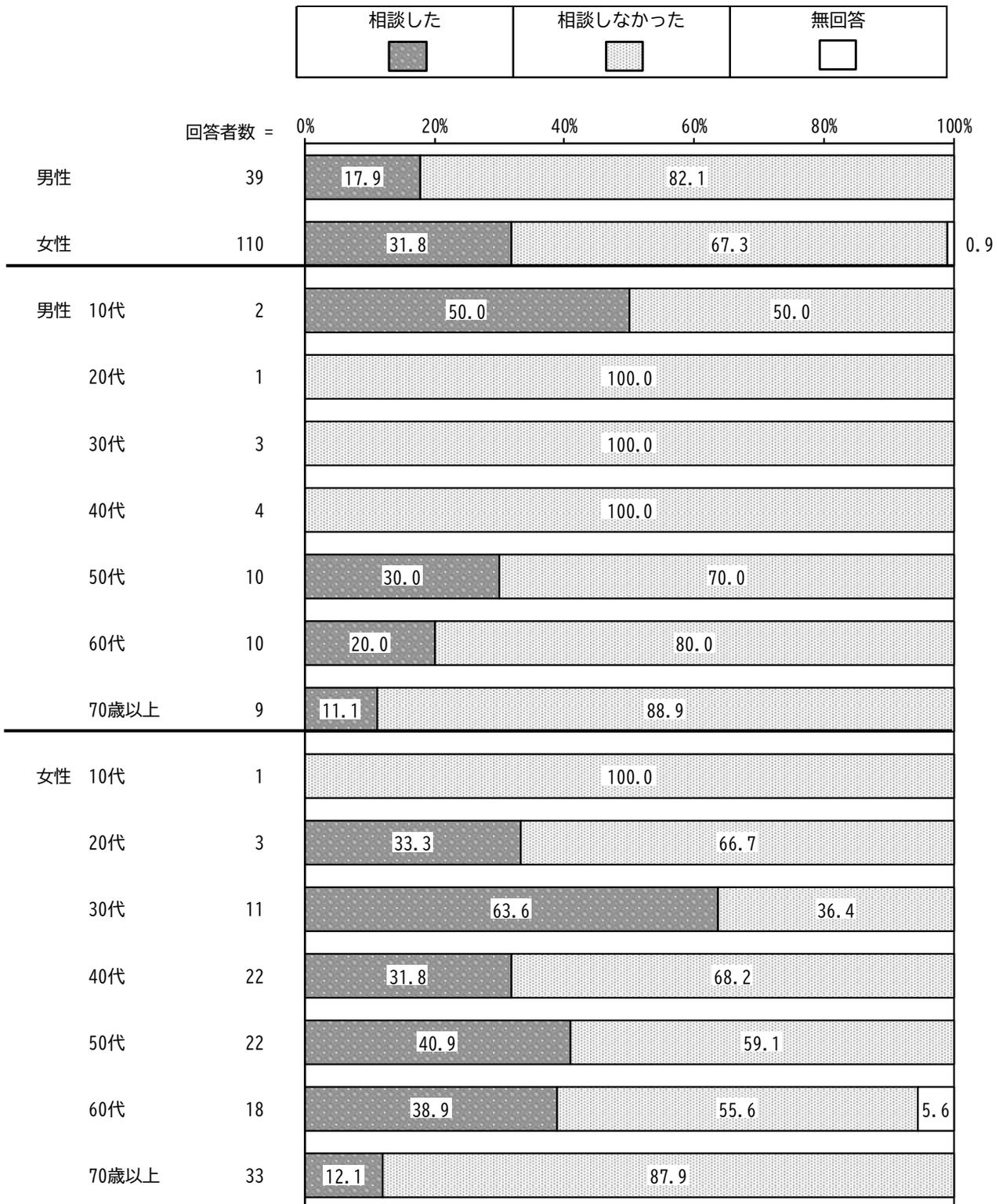
問 22 問 21 で「経験がある」と回答した方にお伺いします。  
問 20 の①から⑨のような行為を受けたことをだれ（どこ）かに相談しましたか。

「相談した」の割合が 28.3%、「相談しなかった」の割合が 71.1%となっています。



【性別、性・年齢別】

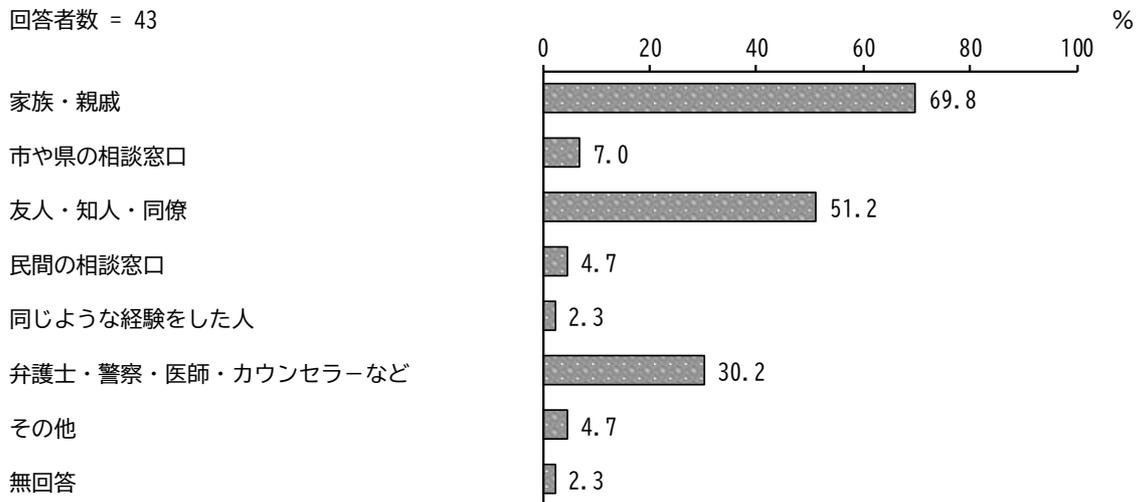
性別で見ると、「相談した」は女性（31.8%）が男性（17.9%）より13.9ポイント高くなっている。  
 性・年齢別で見ると、「相談した」は女性30代（63.6%）で高くなっている。



問 23 問 22 で「相談した」と回答した方にお伺いします。  
だれ（どこ）に相談しましたか。

「家族・親戚」の割合が 69.8%と最も高く、次いで「友人・知人・同僚」の割合が 51.2%、「弁護士・警察・医師・カウンセラーなど」の割合が 30.2%となっています。

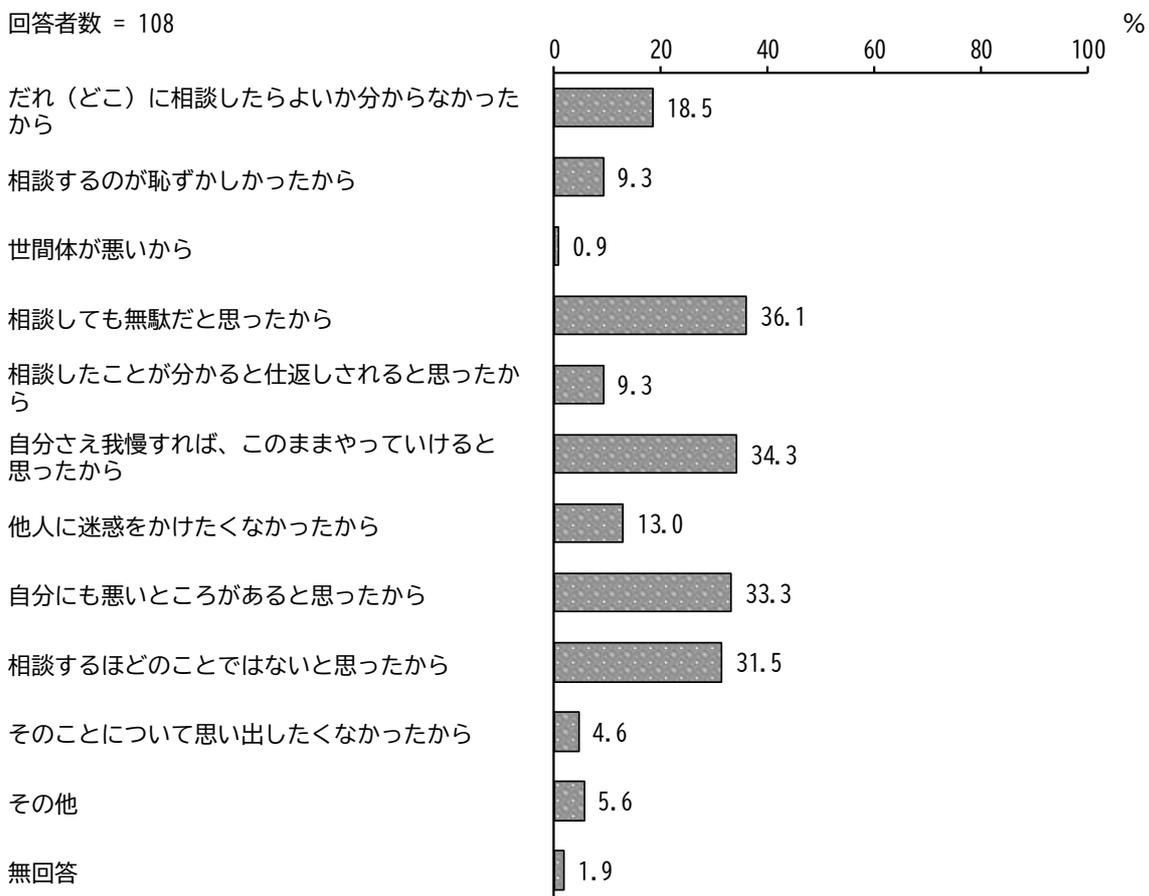
回答者数 = 43



問 24 問 22 で「相談しなかった」と回答した方にお伺いします。  
相談しなかった理由は何ですか。

「相談しても無駄だと思ったから」の割合が 36.1%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」の割合が 34.3%、「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が 33.3%となっています。

回答者数 = 108

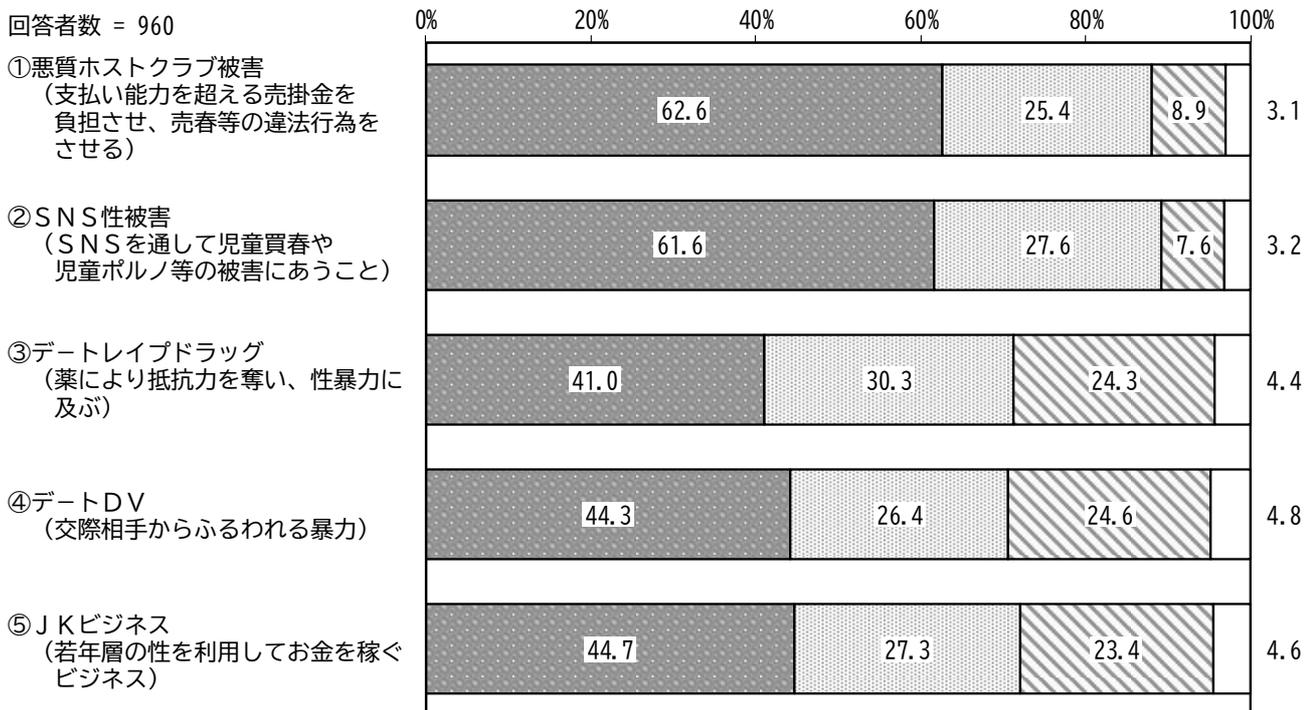


問 25 次の言葉のなかで、あなたが知っている、または聞いたことがある言葉はありますか。あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

『①悪質ホストクラブ被害（支払い能力を超える売掛金を負担させ、売春等の違法行為をさせる）』  
 『②SNS性被害（SNSを通して児童買春や児童ポルノ等の被害にあうこと）』で「知っている」の割合が、『③デートレイプドラッグ（薬により抵抗力を奪い、性暴力に及ぶ）』『④デートDV（交際相手からふるわれる暴力）』『⑤JKビジネス（若年層の性を利用してお金を稼ぐビジネス）』で「わからない」の割合が高くなっています。



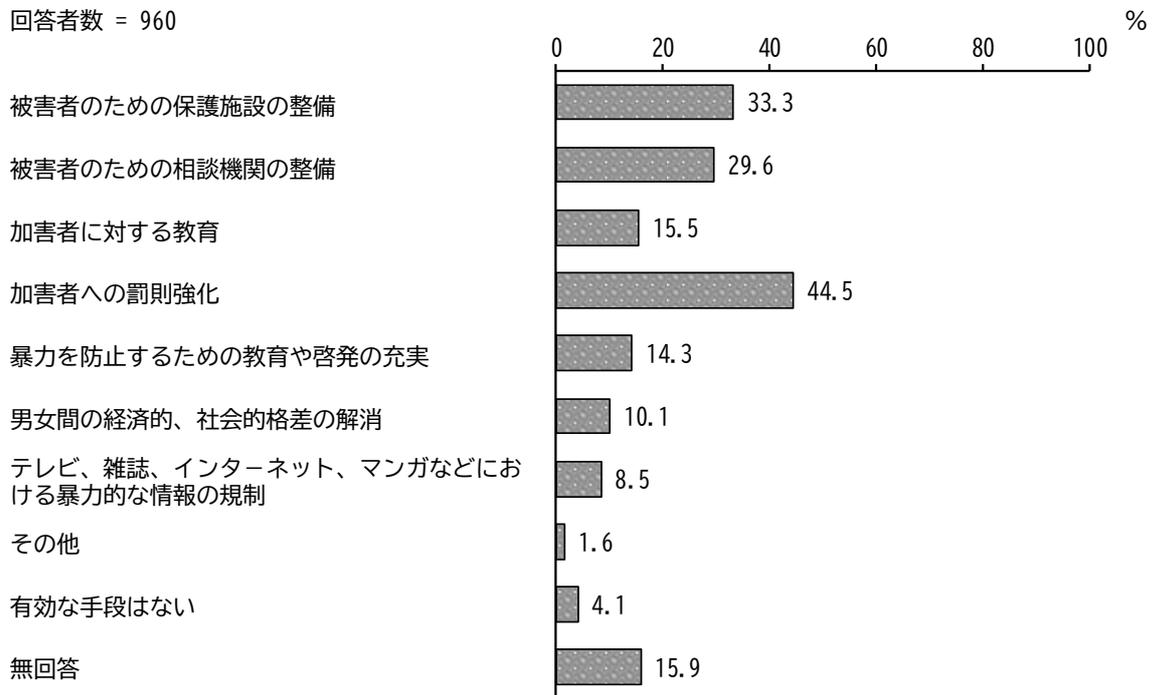
回答者数 = 960



問 26 DVの被害を防止するためにどのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いもの2つに○をつけてください。

「加害者への罰則強化」の割合が 44.5%と最も高く、次いで「被害者のための保護施設の整備」の割合が 33.3%、「被害者のための相談機関の整備」の割合が 29.6%となっています。

回答者数 = 960



【性別、性・年齢別】

性別で見ると、「加害者への罰則強化」は男性（51.5%）が女性（40.1%）より11.4ポイント高くなっている。一方、「男女間の経済的、社会的格差の解消」は女性（12.3%）が男性（7.3%）より5.0ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「加害者への罰則強化」は男性30代（71.4%）で高くなっている。「男女間の経済的、社会的格差の解消」は女性30代（22.9%）で高くなっている。

単位：%

区分	回答者数 (件)	被害者のための保護施設 の整備	被害者のための相談機関 の整備	加害者に対する教育	加害者への罰則強化	暴力を防止するための教育 や啓発の充実	男女間の経済的、社会的 格差の解消	テレビ、雑誌、インターネット、 マンガなどにおける暴力的な情報 の規制	その他	有効な手段はない	無回答
全 体	960	33.3	29.6	15.5	44.5	14.3	10.1	8.5	1.6	4.1	15.9
男性	398	30.9	29.9	13.6	51.5	13.6	7.3	6.3	1.3	3.3	16.8
女性	544	35.5	29.4	17.1	40.1	15.1	12.3	9.7	1.7	4.6	14.7
男性 10代	4	25.0	25.0	—	50.0	—	50.0	—	—	—	25.0
20代	20	45.0	45.0	15.0	45.0	10.0	—	—	—	—	20.0
30代	28	46.4	21.4	7.1	71.4	3.6	7.1	—	—	7.1	7.1
40代	47	19.1	27.7	17.0	51.1	12.8	12.8	4.3	2.1	4.3	21.3
50代	78	41.0	30.8	10.3	59.0	15.4	6.4	6.4	3.8	—	9.0
60代	81	32.1	28.4	16.0	42.0	17.3	6.2	7.4	1.2	1.2	19.8
70歳以上	140	23.6	30.7	14.3	50.0	13.6	6.4	8.6	—	5.7	19.3
女性 10代	7	57.1	14.3	28.6	57.1	28.6	—	—	—	14.3	—
20代	24	45.8	20.8	16.7	50.0	4.2	8.3	8.3	4.2	—	16.7
30代	48	27.1	22.9	4.2	50.0	8.3	22.9	4.2	4.2	4.2	25.0
40代	77	28.6	28.6	20.8	42.9	14.3	15.6	9.1	3.9	3.9	14.3
50代	108	39.8	25.0	21.3	43.5	13.9	13.9	4.6	1.9	2.8	14.8
60代	90	50.0	28.9	18.9	38.9	12.2	12.2	10.0	—	4.4	10.0
70歳以上	188	29.3	36.2	15.4	33.5	20.2	8.5	14.4	0.5	6.4	14.4

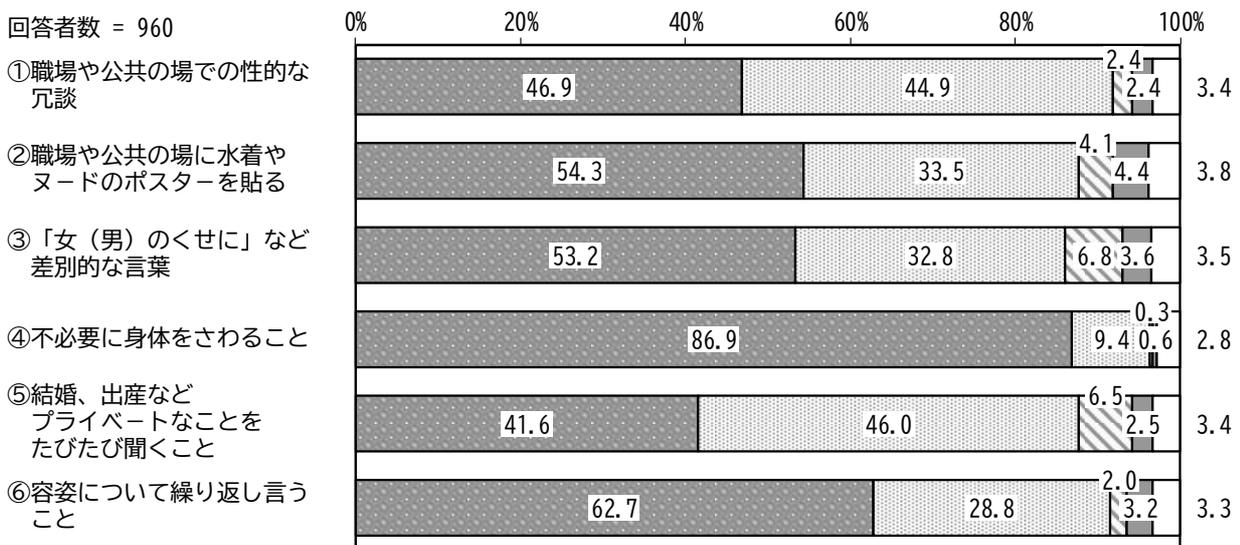
## 5 ハラスメントに関する意識について

問 27 あなたは、次のようなことが行われた場合、セクシュアル・ハラスメントだと思いますか。あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

『④不必要に身体をさわること』で「セクハラにあたる」の割合が、『①職場や公共の場での性的な冗談』『⑤結婚、出産などプライベートなことをたびたび聞くこと』で「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」の割合が高くなっています。

セクハラにあたる	セクハラにあたる場合とそうでない場合もある	セクハラにあたらない	わからない	無回答
				

回答者数 = 960

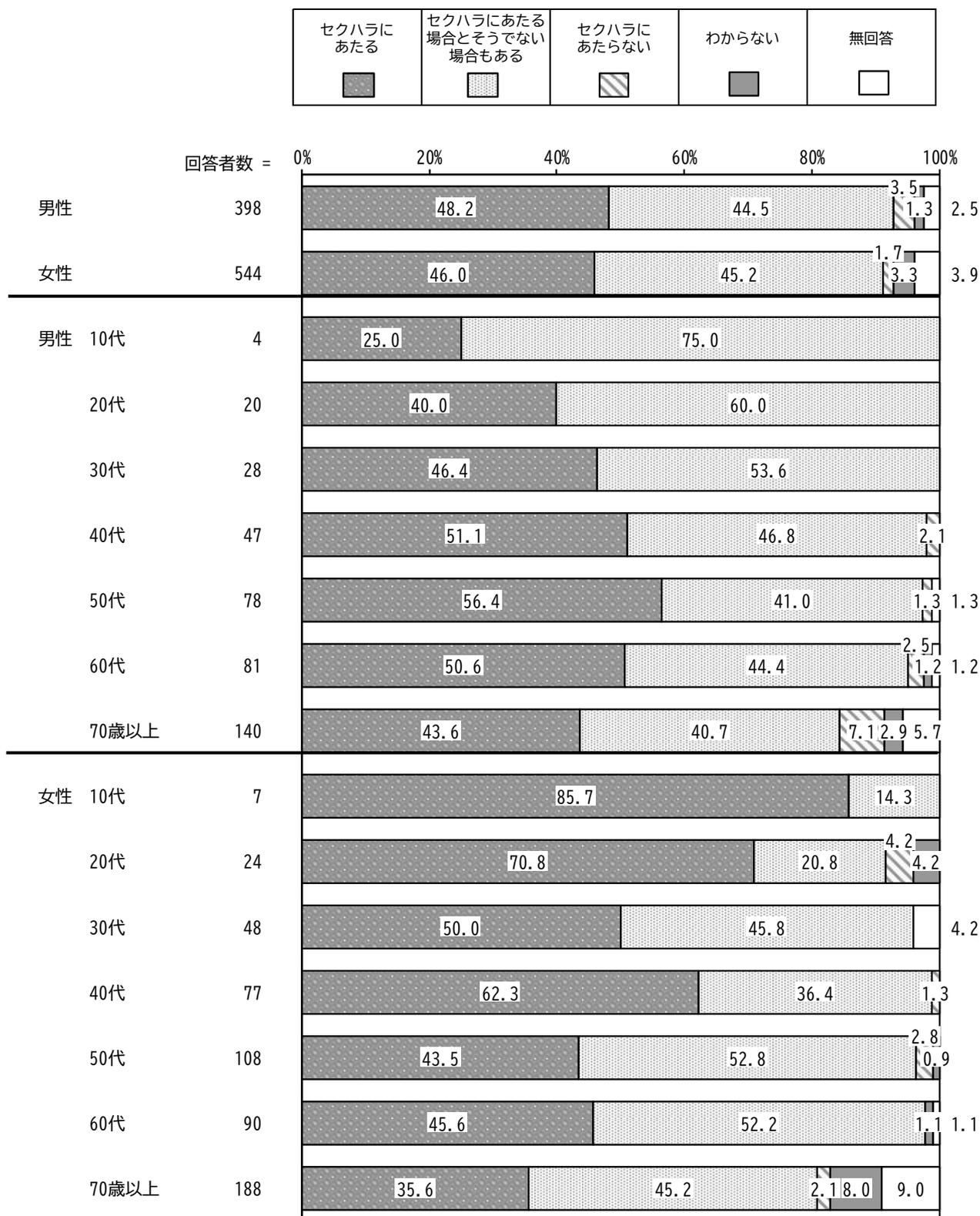


### ①職場や公共の場での性的な冗談

#### 【性別、性・年齢別】

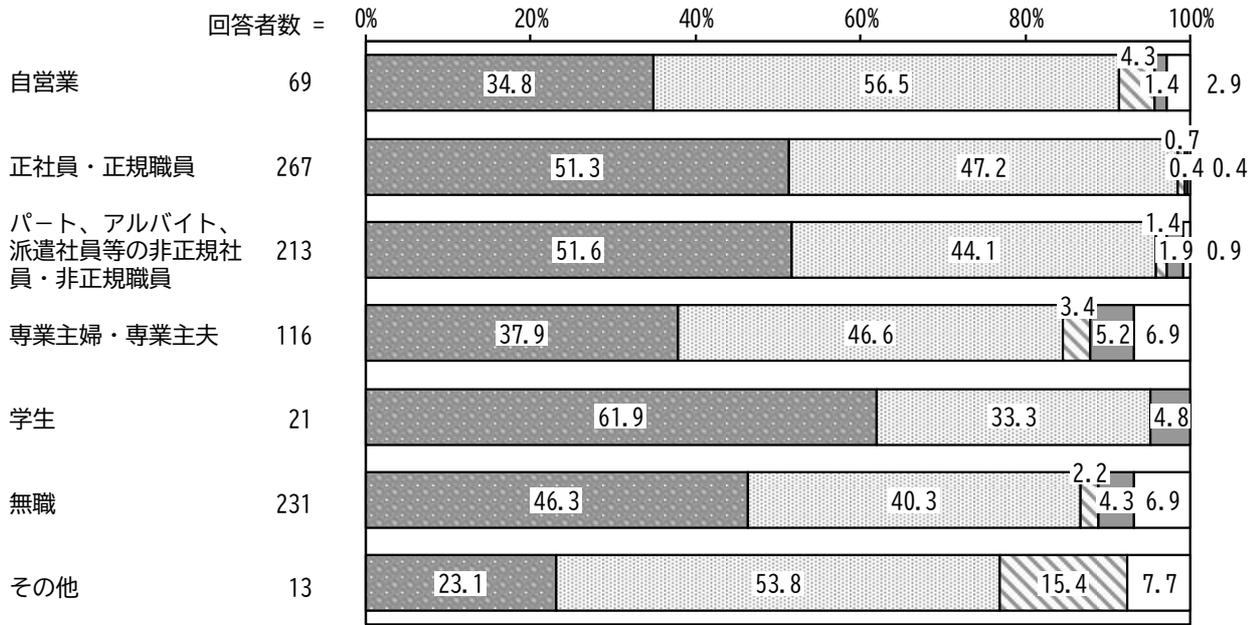
性別で見ると、大きな違いはみられない。

性・年齢別で見ると、「セクハラにあたる」は女性20代（70.8%）で高くなっている。「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は男性20代（60.0%）で高くなっている。



【職業別】

職業別でみると、「セクハラにあたる」は学生（61.9%）で高くなっている。「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は自営業（56.5%）で高くなっている。

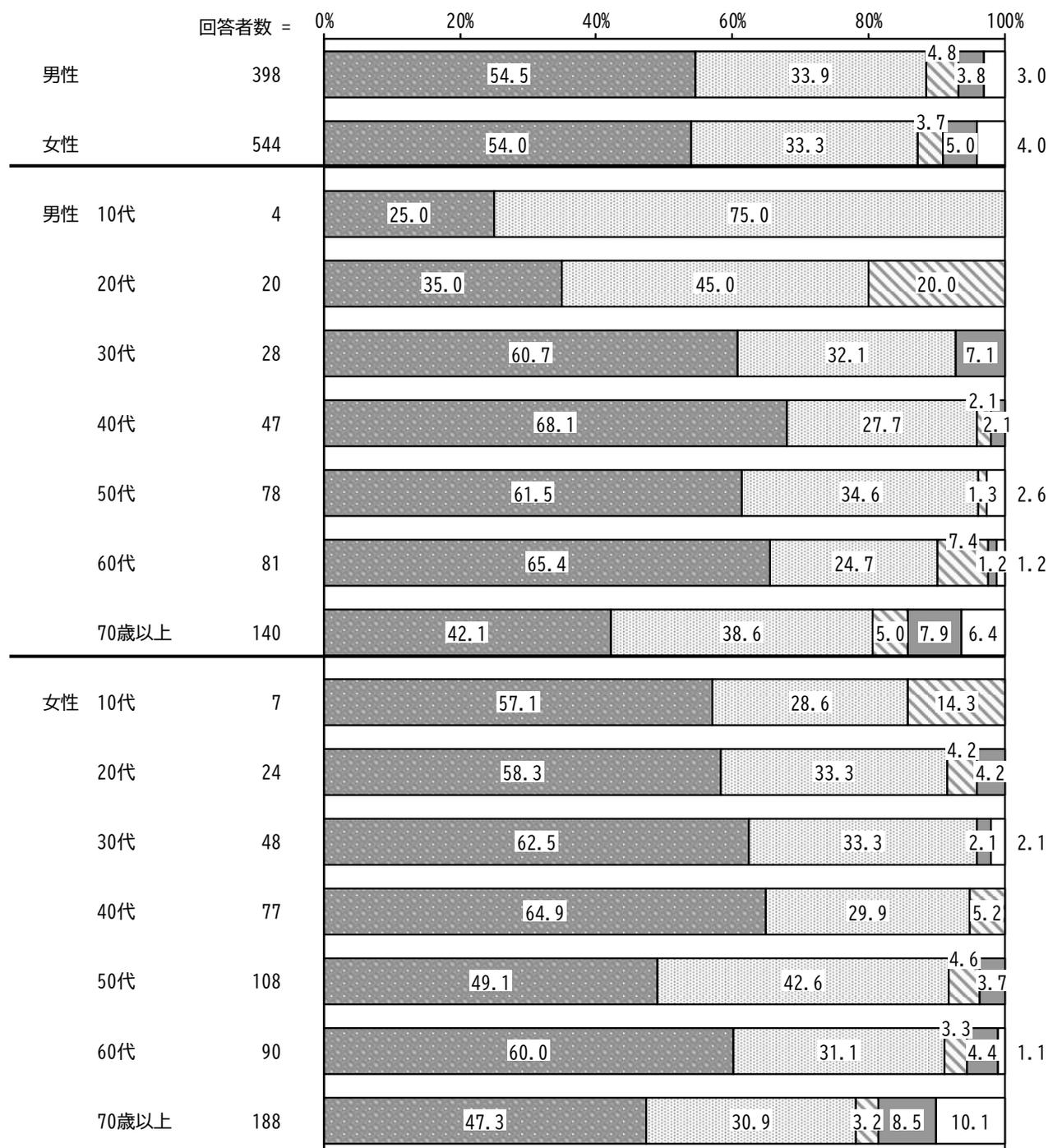
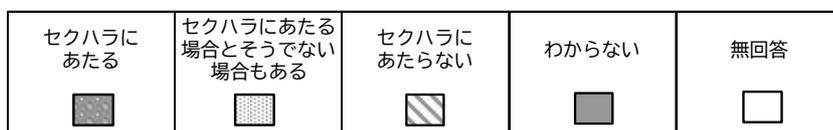


## ②職場や公共の場に水着やヌードのポスターを貼る

### 【性別、性・年齢別】

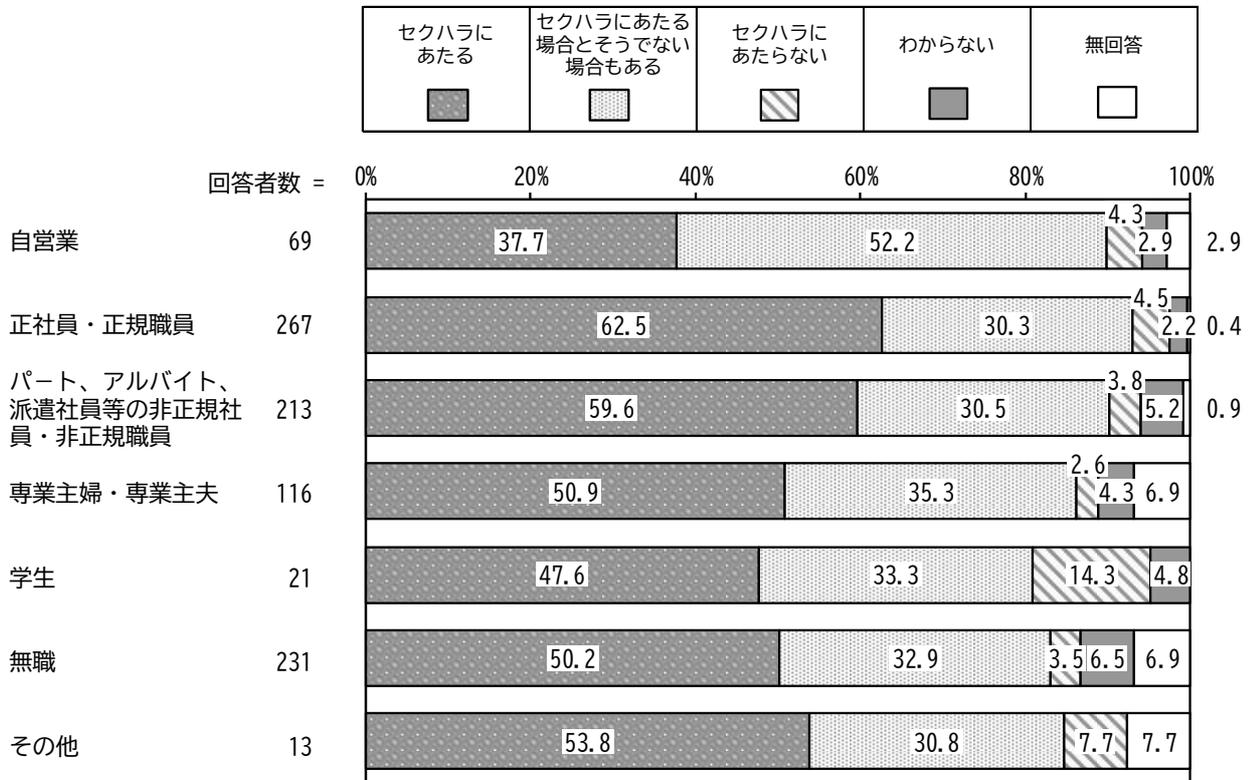
性別で見ると、大きな違いはみられない。

性・年齢別で見ると、「セクハラにあたる」は男性40代（68.1%）で高くなっている。「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は女性50代（42.6%）で高くなっている。「セクハラにあたらない」は男性20代（20.0%）で高くなっている。



【職業別】

職業別でみると、「セクハラにあたる」は正社員・正規職員（62.5%）で高くなっている。「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は自営業（52.2%）で高くなっている。「セクハラにあたらない」は学生（14.3%）で高くなっている。

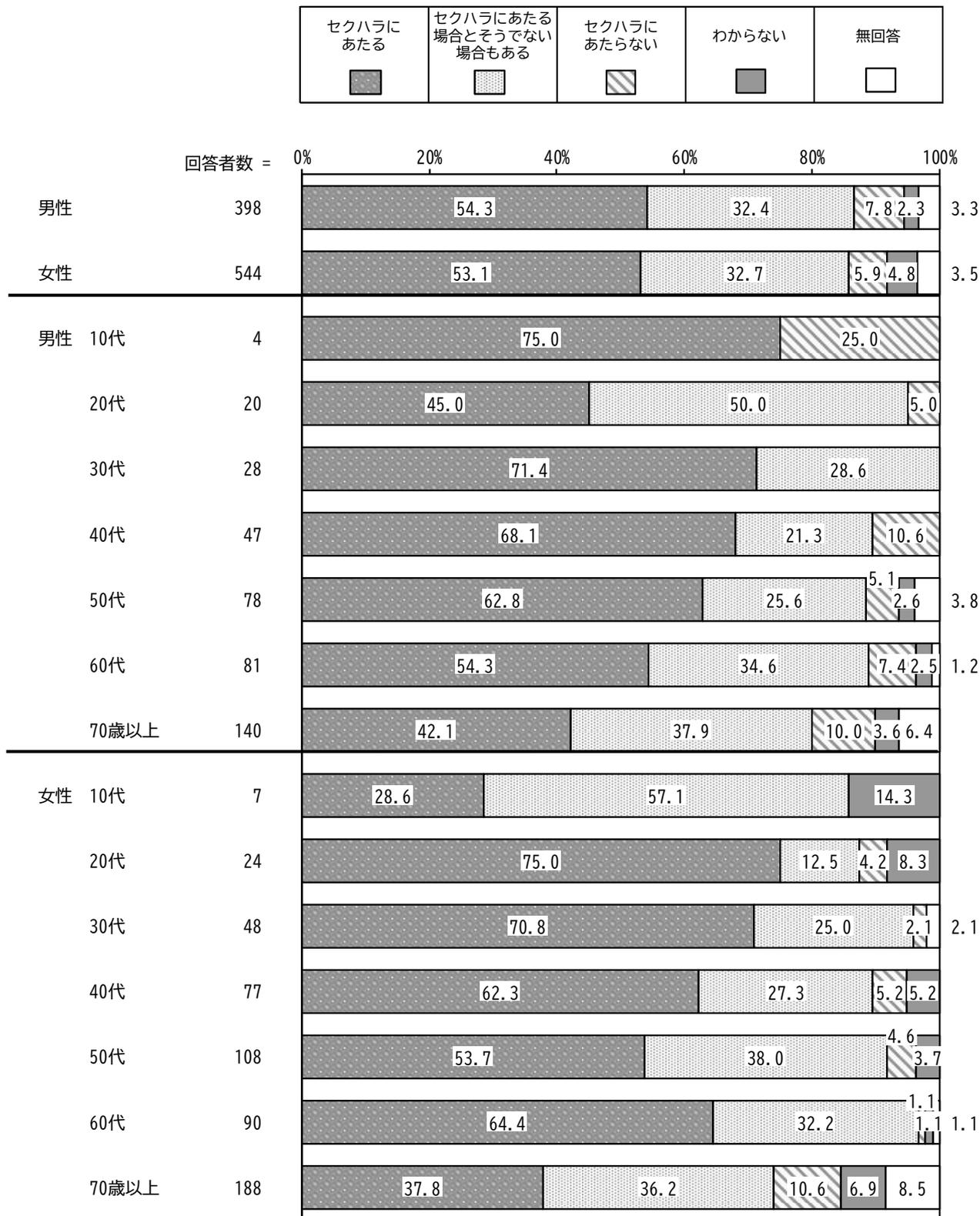


### ③「女（男）のくせに」など差別的な言葉

【性別、性・年齢別】

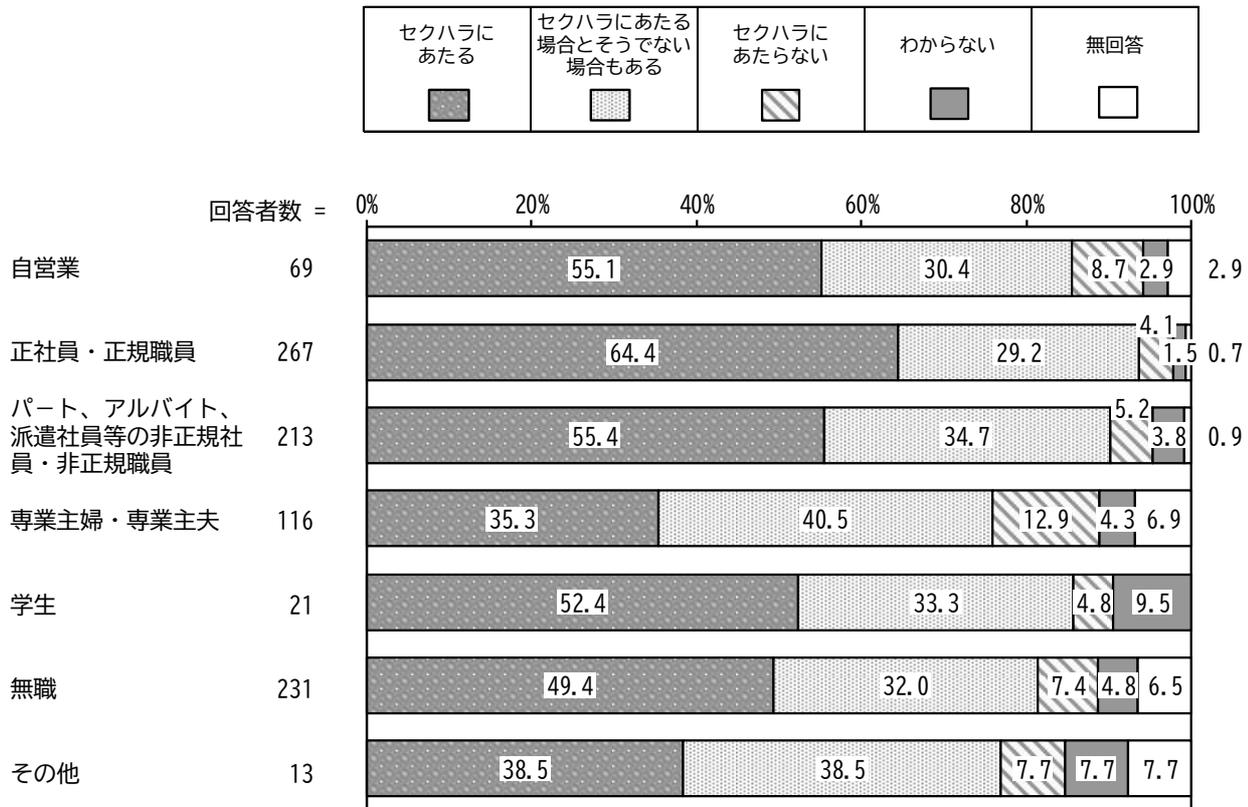
性別でみると、大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、「セクハラにあたる」は女性20代（75.0%）で高くなっている。「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は男性20代（50.0%）で高くなっている。



【職業別】

職業別でみると、「セクハラにあたる」は正社員・正規職員（64.4%）で高くなっている。「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は専業主婦・専業主夫（40.5%）で高くなっている。

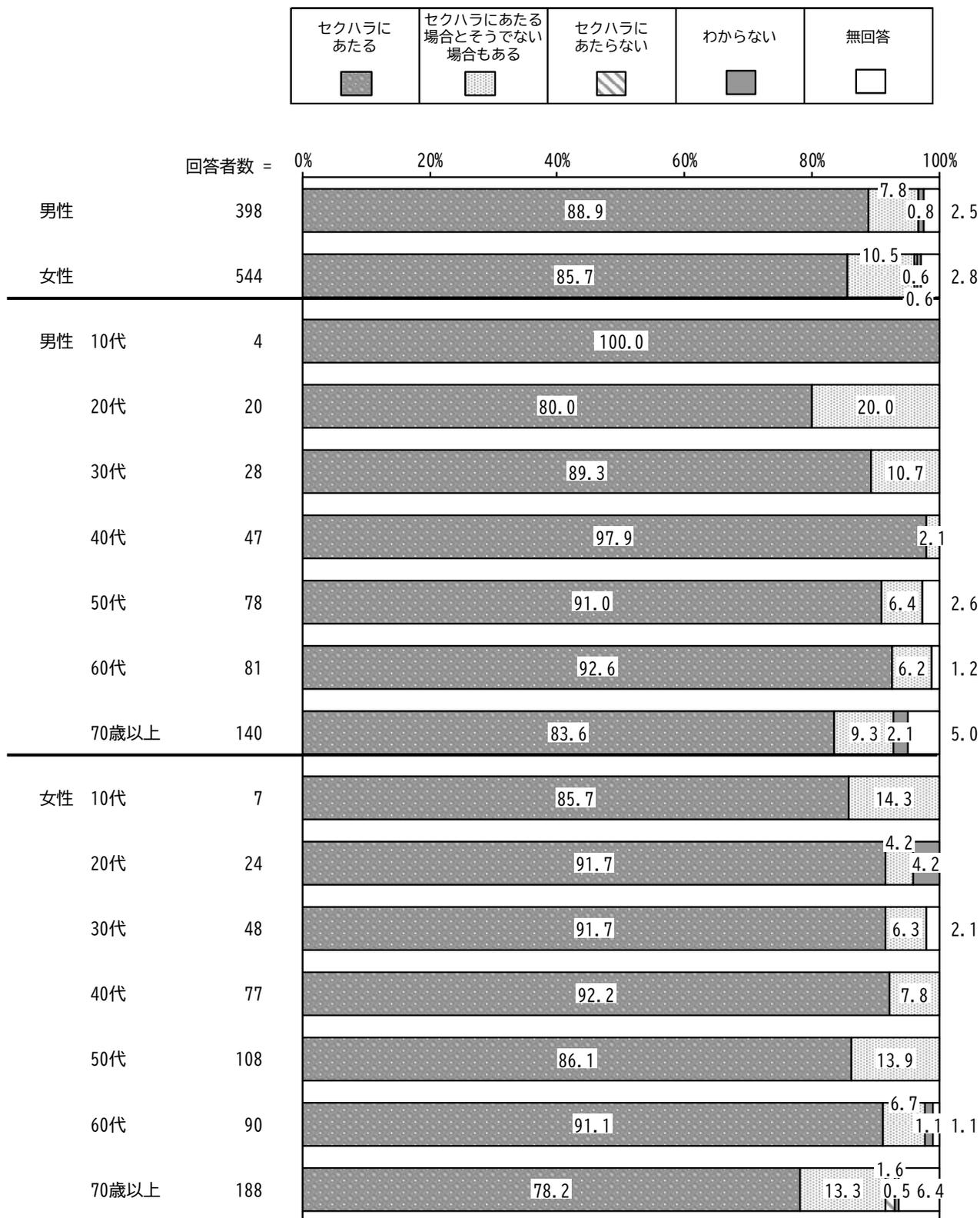


#### ④不必要に身体をさわること

##### 【性別、性・年齢別】

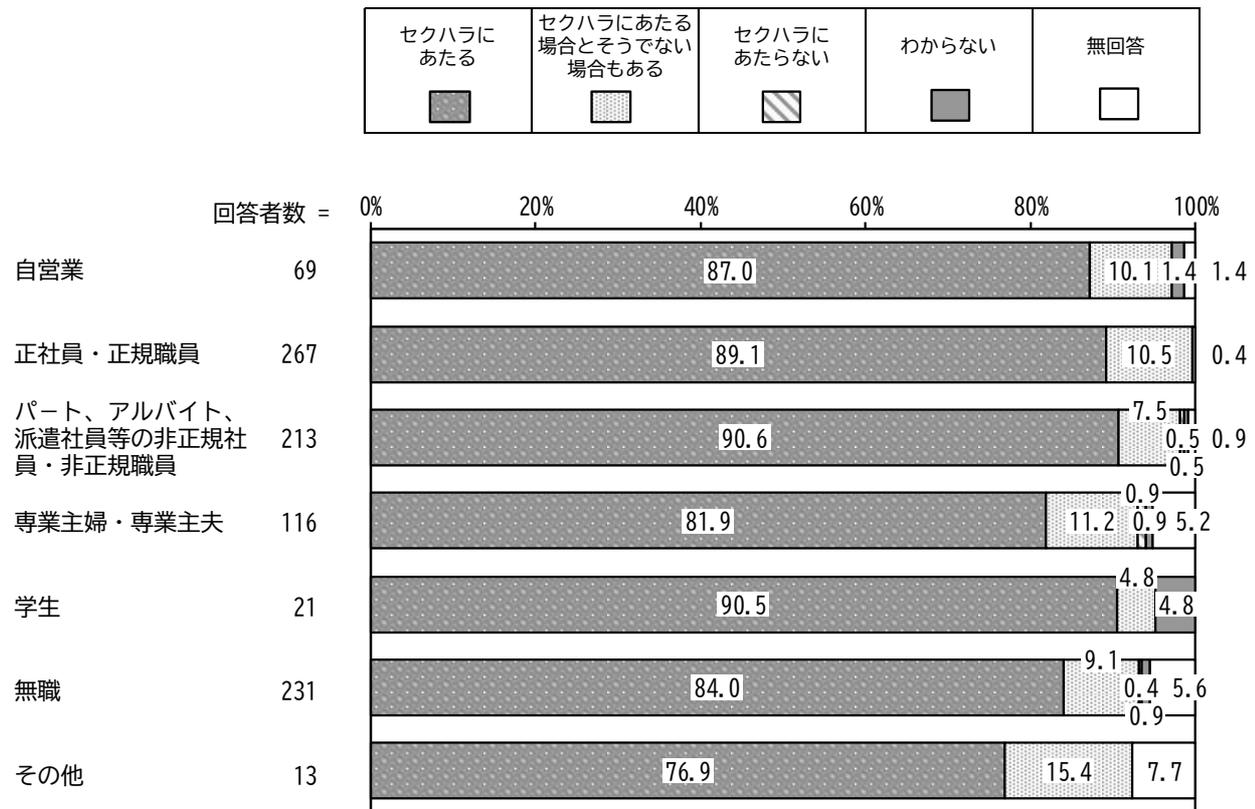
性別で見ると、大きな違いはみられない。

性・年齢別で見ると、「セクハラにあたる」は男性 40 代 (97.9%) で高くなっている。「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は男性 20 代 (20.0%) で高くなっている。



【職業別】

職業別でみると、「セクハラにあたる」はパート、アルバイト、派遣社員等の非正規社員・非正規職員（90.6%）、学生（90.5%）で高くなっている。

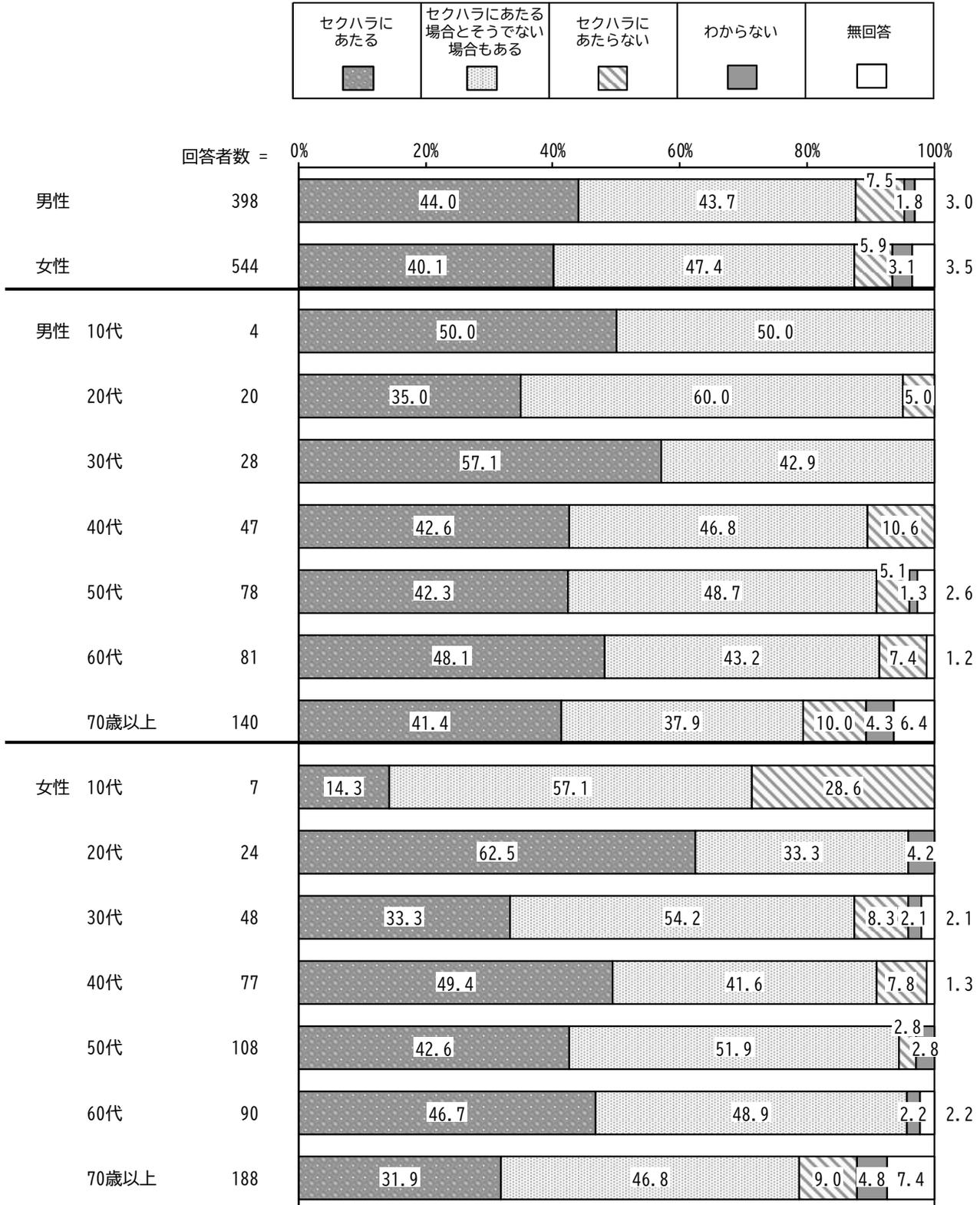


⑤結婚、出産などプライベートなことをたびたび聞くこと

【性別、性・年齢別】

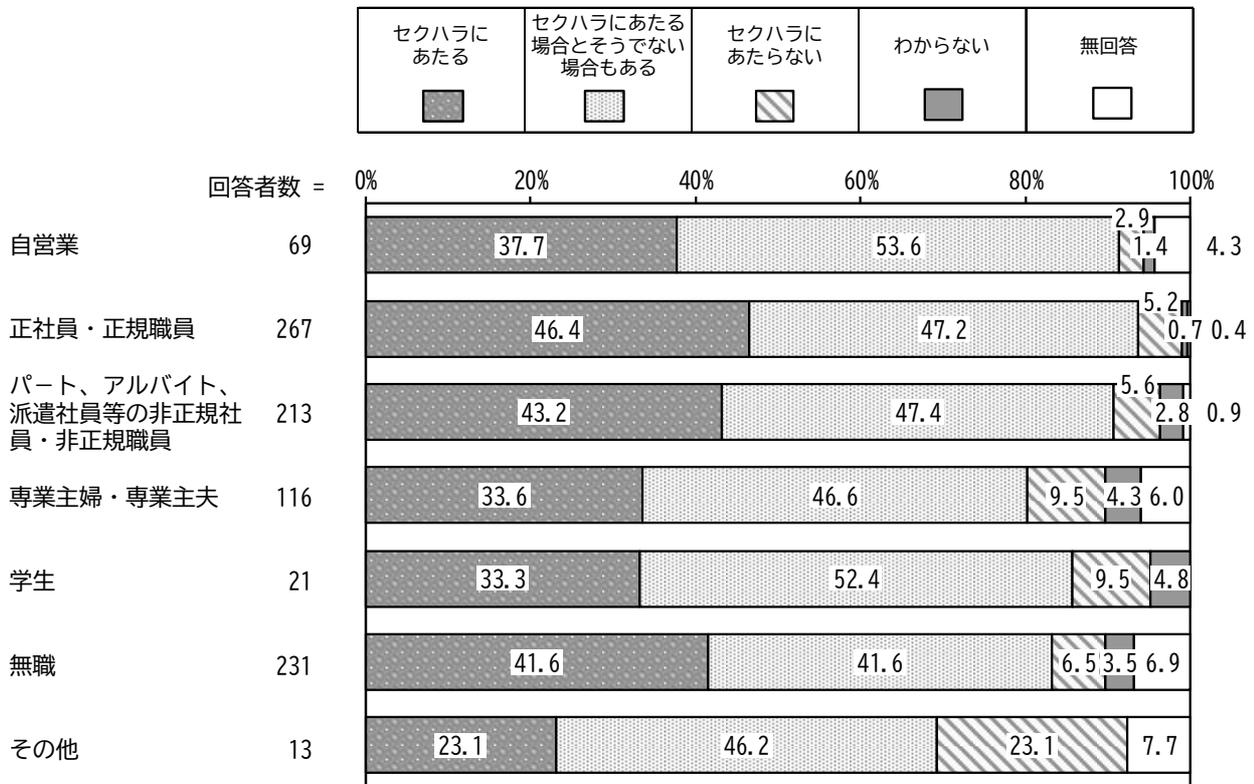
性別で見ると「セクハラにあたる」は男性（44.0%）が女性（40.1%）より3.9ポイント高くなっている。一方、「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は女性（47.4%）が男性（43.7%）より3.7ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「セクハラにあたる」は女性20代（62.5%）で高くなっている。「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は男性20代（60.0%）で高くなっている。



【職業別】

職業別でみると、「セクハラにあたる」は正社員・正規職員（46.4%）と無職（41.6%）で高くなっている。「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は自営業（53.6%）、学生（52.4%）で高くなっている。

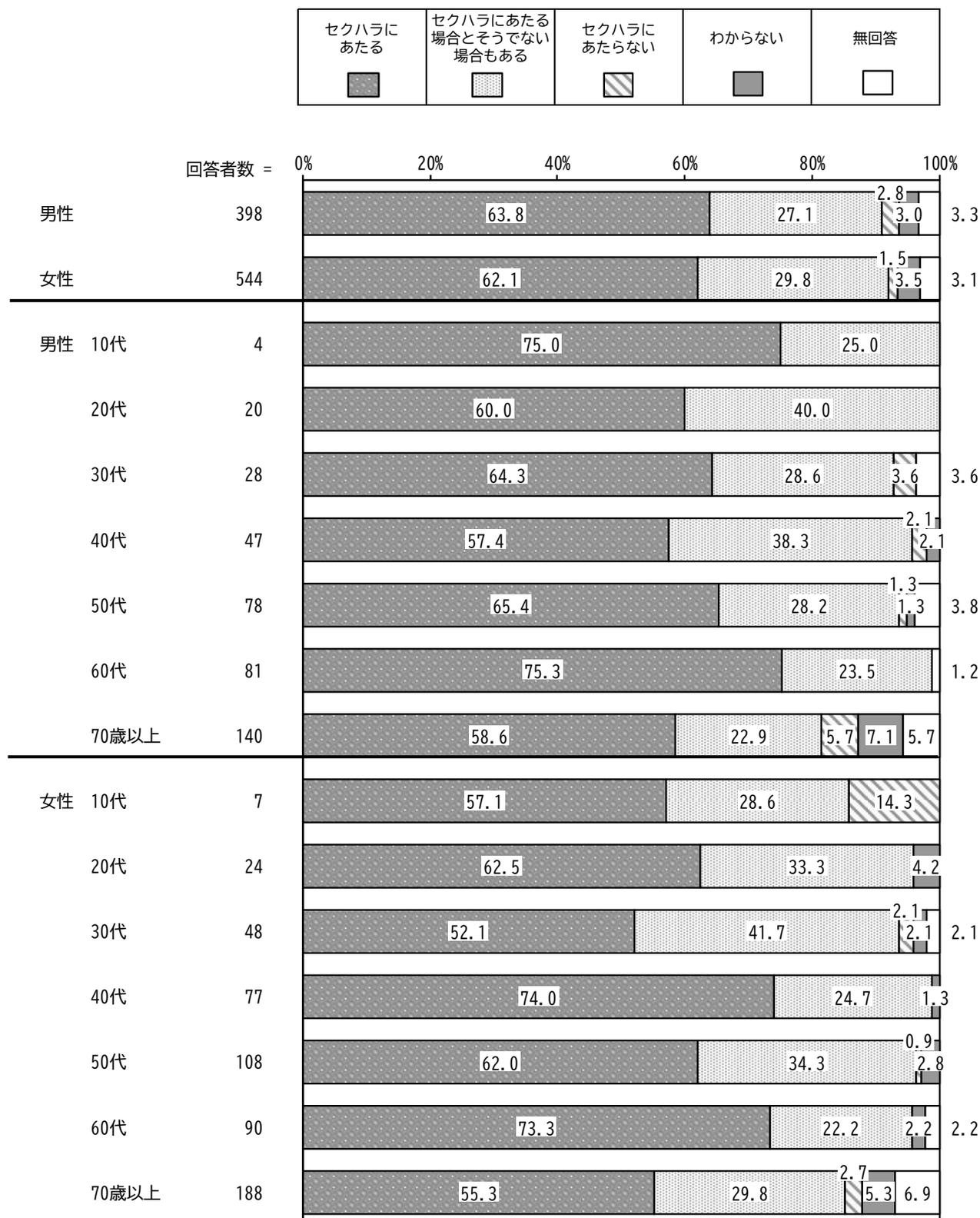


## ⑥容姿について繰り返し言うこと

### 【性別、性・年齢別】

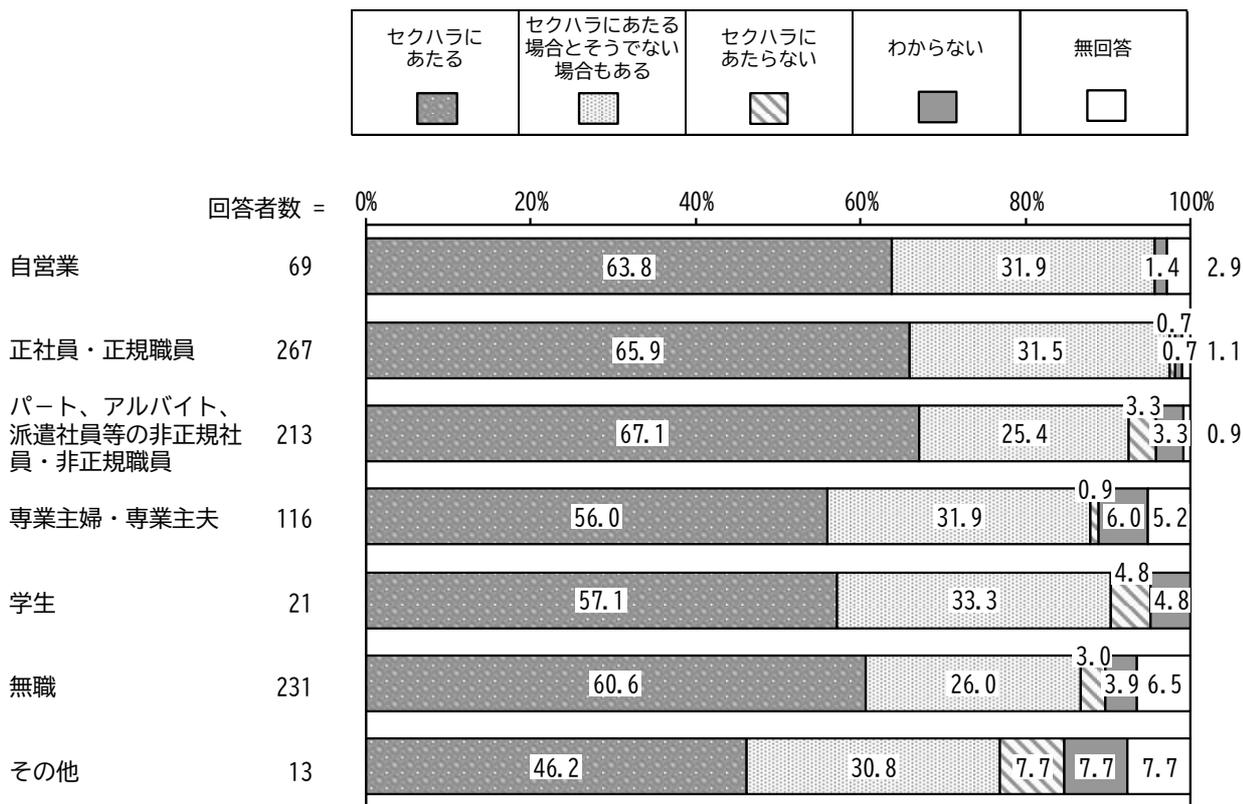
性別でみると、大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、「セクハラにあたる」は男性 60 代 (75.3%)、女性 40 代 (74.0%) と 60 代 (73.3%) で高くなっている。「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は女性 30 代 (41.7%) で高くなっている。



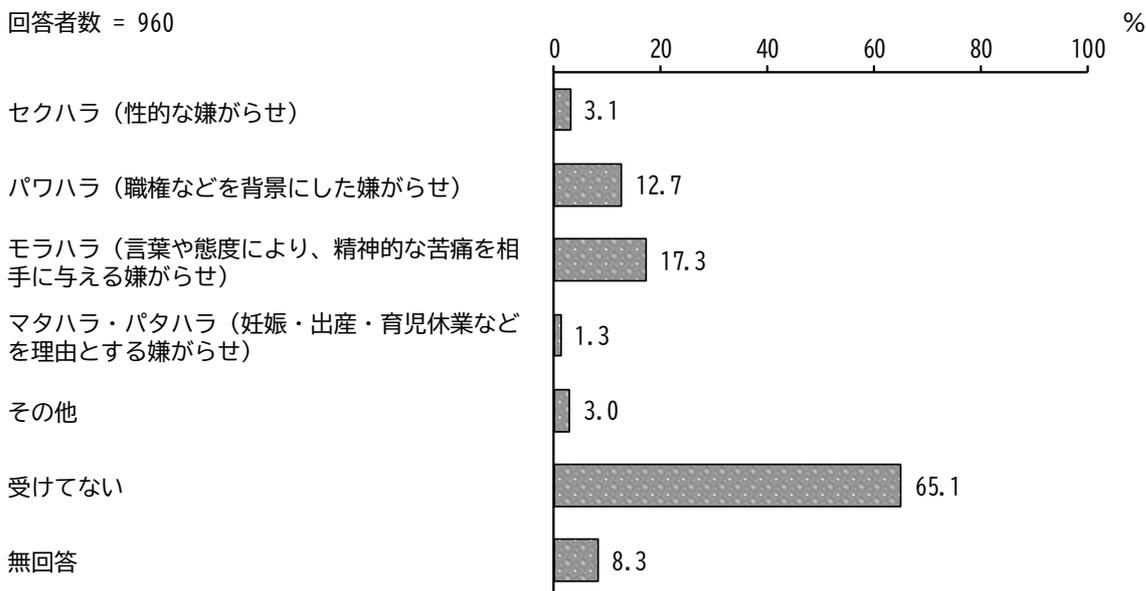
【職業別】

職業別でみると、大きな違いはみられない。



問 28 あなたは、直近5年以内に職場などで次のハラスメント（嫌がらせ）を受けたことはありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

「受けてない」の割合が 65.1%と最も高く、次いで「モラハラ（言葉や態度により、精神的な苦痛を相手に与える嫌がらせ）」の割合が 17.3%、「パワハラ（職権などを背景にした嫌がらせ）」の割合が 12.7%となっています。



【性別、性・年齢別】

性別で見ると、「パワハラ（職権などを背景にした嫌がらせ）」は男性（17.3%）が女性（9.6%）より7.7ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「パワハラ（職権などを背景にした嫌がらせ）」は男性40代（36.2%）で高くなっている。「モラハラ（言葉や態度により、精神的な苦痛を相手に与える嫌がらせ）」は女性40代（32.5%）で高くなっている。

単位：%

区分	回答者数 (件)	セクハラ (性的な嫌が らせ)	パワハラ (職権などを背 景にした嫌が らせ)	モラハラ (言葉や態度に より、精神的な 苦痛を相手に 与える嫌がら せ)	マタハラ・パ タハラ(妊 娠・出産・育 児休業など を理由とする 嫌がらせ)	その他	受けてない	無回答
全 体	960	3.1	12.7	17.3	1.3	3.0	65.1	8.3
男性	398	1.0	17.3	15.3	1.0	2.8	65.8	7.3
女性	544	4.6	9.6	18.9	1.5	3.3	64.9	8.3
男性 10代	4	25.0	25.0	50.0	—	—	50.0	—
20代	20	—	20.0	30.0	—	—	65.0	—
30代	28	—	14.3	10.7	—	7.1	67.9	—
40代	47	2.1	36.2	27.7	4.3	2.1	53.2	—
50代	78	1.3	28.2	24.4	—	—	59.0	2.6
60代	81	—	16.0	16.0	—	2.5	72.8	1.2
70歳以上	140	0.7	5.7	3.6	1.4	4.3	70.0	18.6
女性 10代	7	14.3	—	14.3	—	—	71.4	—
20代	24	16.7	8.3	16.7	8.3	—	66.7	—
30代	48	10.4	16.7	27.1	8.3	4.2	62.5	—
40代	77	6.5	14.3	32.5	1.3	1.3	62.3	—
50代	108	7.4	19.4	29.6	—	0.9	59.3	2.8
60代	90	2.2	6.7	18.9	—	5.6	70.0	3.3
70歳以上	188	—	2.1	5.9	0.5	4.8	67.6	19.7

【職業別】

職業別でみると、「パワハラ（職権などを背景にした嫌がらせ）」は正社員・正規職員（24.3%）で高くなっている。

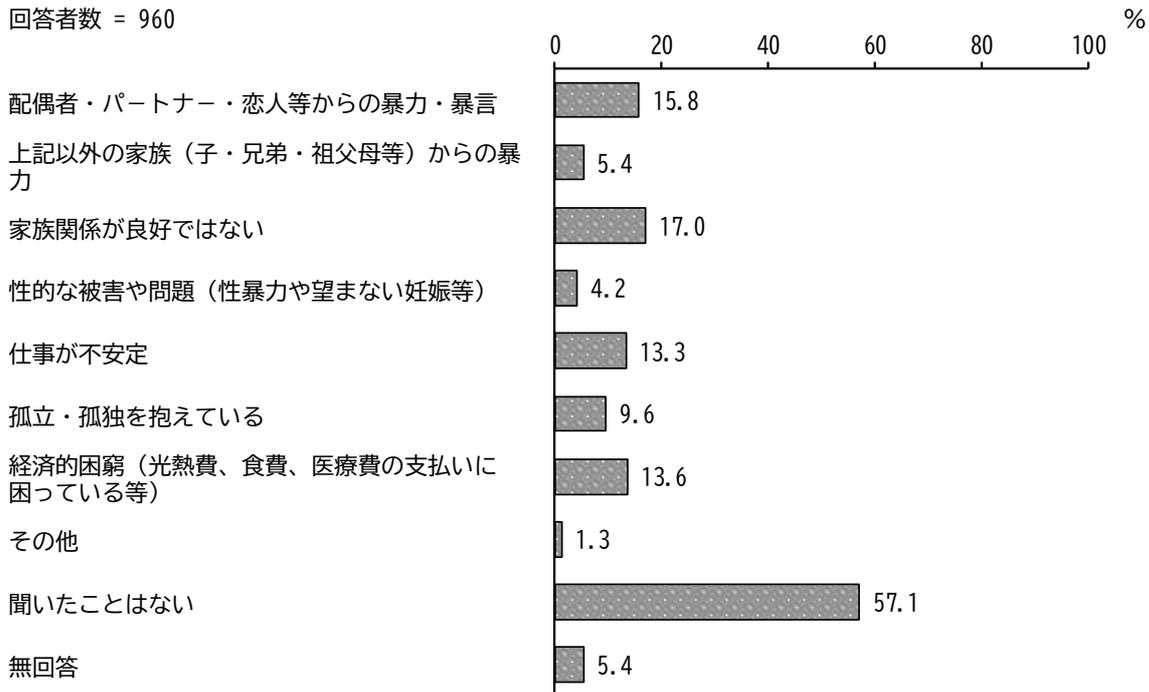
単位：%

区分	回答者数（件）	セクハラ（性的な嫌がらせ）	パワハラ（職権などを背景にした嫌がらせ）	モラハラ（言葉や態度により、精神的な苦痛を相手に与える嫌がらせ）	マタハラ・パタハラ（妊娠・出産・育児休業などを理由とする嫌がらせ）	その他	受けてない	無回答
全 体	960	3.1	12.7	17.3	1.3	3.0	65.1	8.3
自営業	69	1.4	4.3	11.6	2.9	4.3	69.6	8.7
正社員・正規職員	267	5.2	24.3	27.0	1.9	1.1	59.2	0.4
パート、アルバイト、派遣社員等の非正規社員・非正規職員	213	3.3	12.2	22.5	0.5	1.9	70.4	1.9
専業主婦・専業主夫	116	3.4	3.4	12.9	0.9	5.2	62.1	18.1
学生	21	9.5	14.3	19.0	—	—	71.4	—
無職	231	0.9	5.6	5.6	0.9	5.6	68.8	16.5
その他	13	—	23.1	7.7	—	—	53.8	23.1

## 6 困難な問題を抱える女性への支援について

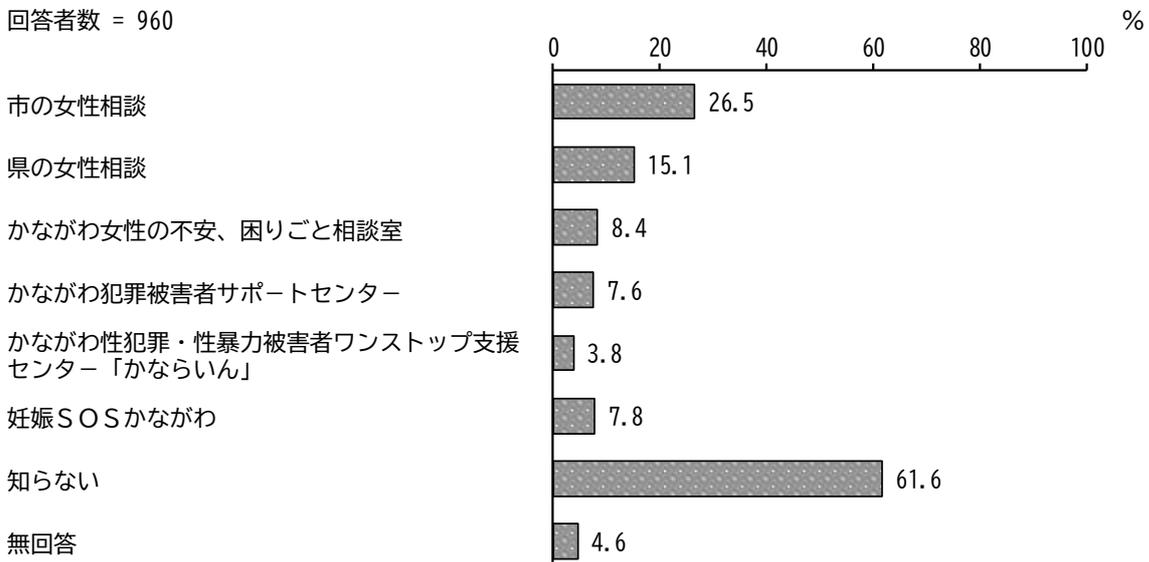
問 29 2024年4月に「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行され、国及び地方公共団体は、困難な問題を抱える女性への支援のために必要な施策が義務付けられました。あなた自身もしくは身近な女性で、女性であることで困難な問題（性被害、家庭問題、生活困窮等）を経験したり、聞いたことはありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

「聞いたことはない」の割合が57.1%と最も高く、次いで「家族関係が良好ではない」の割合が17.0%、「配偶者・パートナー・恋人等からの暴力・暴言」の割合が15.8%となっています。



問 30 あなたは、困難な状況にあるときに次の相談機関を利用できることを知っていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

「知らない」の割合が61.6%と最も高く、次いで「市の女性相談」の割合が26.5%、「県の女性相談」の割合が15.1%となっています。

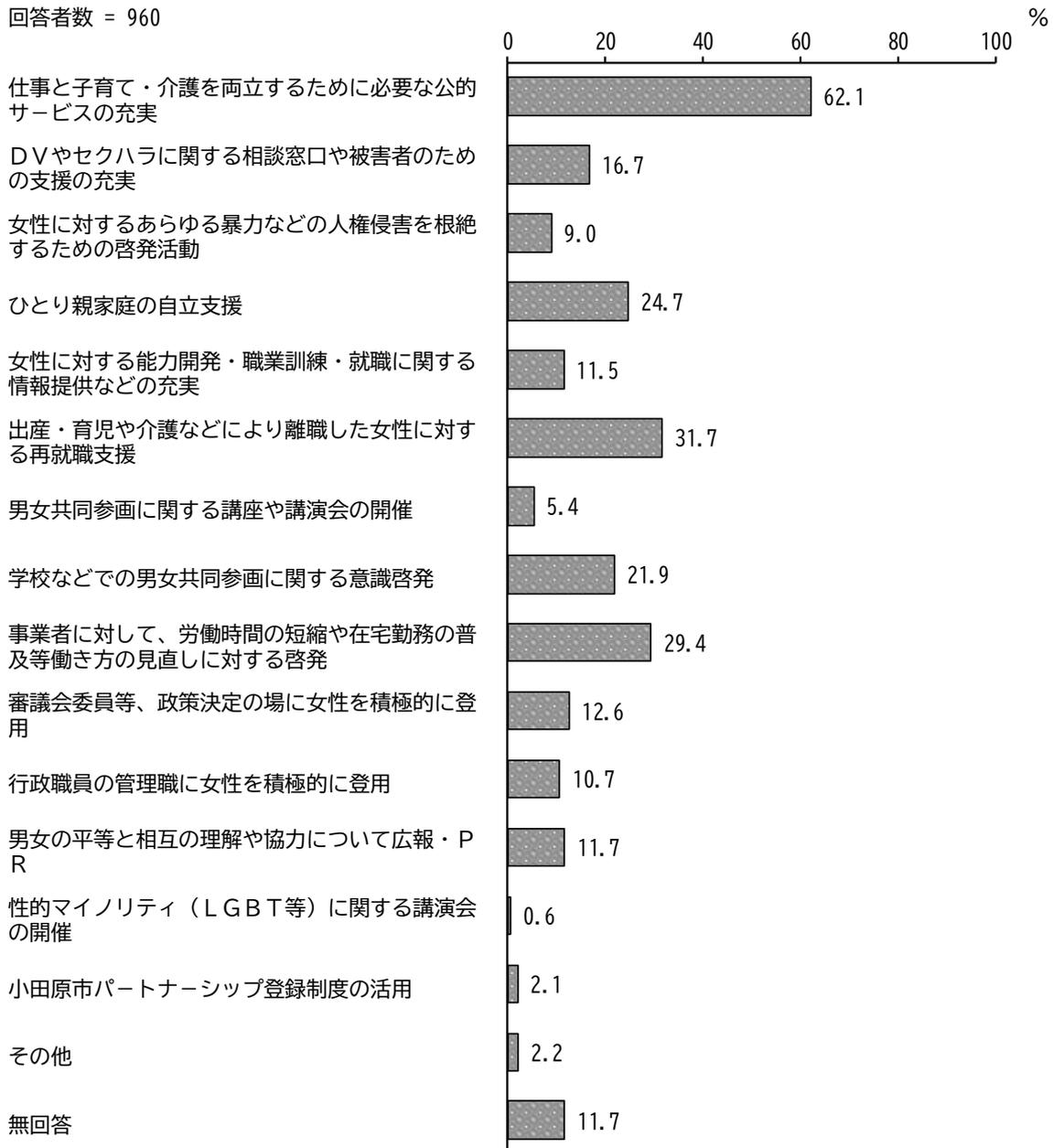


## 7 男女共同参画社会に関する行政への要望について

問 31 「男女共同参画社会」を実現するために、行政ではどのような取り組みが必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いもの3つに○をつけてください。

「仕事と子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実」の割合が 62.1%と最も高く、次いで「出産・育児や介護などにより離職した女性に対する再就職支援」の割合が 31.7%、「事業者に対して、労働時間の短縮や在宅勤務の普及等働き方の見直しに対する啓発」の割合が 29.4%となっています。

回答者数 = 960



【性別、性・年齢別】

性別で見ると、「ひとり親家庭の自立支援」は男性（30.2%）が女性（21.3%）より8.9ポイント高くなっている。一方、「事業者に対して、労働時間の短縮や在宅勤務の普及等働き方の見直しに対する啓発」は女性（32.5%）が男性（26.4%）より6.1ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「ひとり親家庭の自立支援」は男性60代（43.2%）で高くなっている。「出産・育児や介護などにより離職した女性に対する再就職支援」は男性70歳以上（42.9%）で高くなっている。「学校などでの男女共同参画に関する意識啓発」は男性40代（36.2%）、女性20代（37.5%）で高くなっている。「事業者に対して、労働時間の短縮や在宅勤務の普及等働き方の見直しに対する啓発」は女性40代（45.5%）で高くなっている。

単位：%

区分	回答者数（件）	公的サービスのための充実	仕事と子育て・介護を両立するために必要な	DVやセクハラに関する相談窓口や被害者のための支援の充実	根絶するための啓発活動	女性に対するあらゆる暴力などの人権侵害を根絶するための啓発活動	ひとり親家庭の自立支援	実務・職業訓練・就職に関する情報提供などの充実	女性に対する能力開発	出産・育児や介護などにより離職した女性に対する再就職支援	男女共同参画に関する講座や講演会の開催	学校などでの男女共同参画に関する意識啓発
全体	960	62.1	16.7	9.0	24.7	11.5	31.7	5.4	21.9			
男性	398	60.6	21.9	7.8	30.2	9.8	30.9	6.8	21.9			
女性	544	64.9	13.2	9.9	21.3	12.7	33.1	4.6	22.4			
男性 10代	4	50.0	25.0	—	75.0	—	25.0	—	25.0			
20代	20	60.0	30.0	—	20.0	10.0	35.0	15.0	30.0			
30代	28	67.9	32.1	—	25.0	7.1	39.3	3.6	10.7			
40代	47	57.4	23.4	8.5	21.3	8.5	23.4	4.3	36.2			
50代	78	61.5	16.7	6.4	25.6	5.1	30.8	7.7	24.4			
60代	81	60.5	21.0	9.9	43.2	8.6	28.4	6.2	22.2			
70歳以上	140	60.0	21.4	10.0	29.3	14.3	32.9	7.1	16.4			
女性 10代	7	71.4	42.9	—	28.6	14.3	42.9	—	28.6			
20代	24	66.7	25.0	16.7	4.2	12.5	20.8	—	37.5			
30代	48	72.9	6.3	10.4	18.8	4.2	37.5	—	31.3			
40代	77	57.1	11.7	16.9	20.8	9.1	32.5	1.3	22.1			
50代	108	64.8	16.7	5.6	26.9	17.6	33.3	3.7	28.7			
60代	90	73.3	20.0	11.1	20.0	11.1	40.0	6.7	15.6			
70歳以上	188	62.2	8.0	8.5	21.8	14.4	30.3	7.4	18.1			

(次ページへ続く)

区分	事業者に対して、労働時間の短縮や在宅勤務の普及等働き方の見直しに対する啓発	審議会委員等、政策決定の場に女性を積極的に登用	行政職員の管理職に女性を積極的に登用	男女の平等と相互の理解や協力について広報・PR	性的マイノリティ（LGBT等）に関する講演会の開催	小田原市パートナーシップ登録制度の活用	その他	無回答
全 体	29.4	12.6	10.7	11.7	0.6	2.1	2.2	11.7
男性	26.4	10.1	11.3	14.1	1.3	2.5	2.8	9.3
女性	32.5	14.9	10.7	10.3	0.2	1.8	1.7	11.2
男性 10代	25.0	—	—	—	—	—	—	25.0
20代	30.0	10.0	15.0	—	10.0	—	—	10.0
30代	35.7	3.6	3.6	14.3	—	7.1	3.6	7.1
40代	36.2	14.9	2.1	14.9	—	—	4.3	10.6
50代	32.1	9.0	14.1	16.7	—	2.6	5.1	7.7
60代	17.3	11.1	16.0	13.6	—	1.2	3.7	8.6
70歳以上	22.9	10.0	11.4	15.0	2.1	3.6	0.7	10.0
女性 10代	28.6	42.9	—	—	—	—	—	—
20代	33.3	8.3	8.3	4.2	4.2	4.2	—	16.7
30代	41.7	20.8	14.6	4.2	—	4.2	—	8.3
40代	45.5	15.6	13.0	6.5	—	1.3	3.9	11.7
50代	35.2	9.3	7.4	8.3	—	1.9	1.9	7.4
60代	34.4	17.8	7.8	14.4	—	2.2	1.1	6.7
70歳以上	22.9	14.9	12.8	13.8	—	1.1	1.6	14.9

(前ページの表 続き)

【職業別】

職業別でみると、「DVやセクハラに関する相談窓口や被害者のための支援の充実」は学生(38.1%)で高くなっている。

単位：%

区分	回答者数(件)	仕事と子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実	DVやセクハラに関する相談窓口や被害者のための支援の充実	女性に対するあらゆる暴力などの人権侵害を根絶するための啓発活動	ひとり親家庭の自立支援	女性に対する能力開発・職業訓練・就職に関する情報提供などの充実	出産・育児や介護などにより離職した女性に対する再就職支援	男女共同参画に関する講座や講演会の開催	学校などでの男女共同参画に関する意識啓発
全体	960	62.1	16.7	9.0	24.7	11.5	31.7	5.4	21.9
自営業	69	53.6	10.1	8.7	30.4	13.0	33.3	5.8	24.6
正社員・正規職員	267	62.2	16.9	8.2	23.2	9.7	27.0	3.4	27.7
パート、アルバイト、派遣社員等の非正規社員・非正規職員	213	70.0	18.8	8.5	24.4	12.7	38.0	6.1	18.8
専業主婦・専業主夫	116	62.9	7.8	11.2	21.6	16.4	37.1	6.0	16.4
学生	21	71.4	38.1	4.8	23.8	4.8	23.8	4.8	38.1
無職	231	60.2	17.7	10.4	29.0	9.1	31.2	7.4	18.6
その他	13	46.2	38.5	—	15.4	15.4	7.7	—	23.1

区分	小田原市パートナード登録制度の活用	その他	無回答
全体	29.4	12.6	10.7
自営業	23.2	15.9	13.0
正社員・正規職員	35.2	10.1	10.9
パート、アルバイト、派遣社員等の非正規社員・非正規職員	32.9	10.8	9.9
専業主婦・専業主夫	31.0	18.1	12.1
学生	28.6	14.3	—
無職	22.5	13.4	11.3
その他	30.8	—	15.4

【婚姻状況別】

婚姻状況別でみると、「事業者に対して、労働時間の短縮や在宅勤務の普及等働き方の見直しに対する啓発」は結婚している人（31.0%）が結婚していない人（26.0%）より 5.0 ポイント高くなっている。一方、「行政職員の管理職に女性を積極的に登用」は結婚していない人（14.6%）が結婚している人（9.1%）より 5.5 ポイント高くなっている。

単位：%

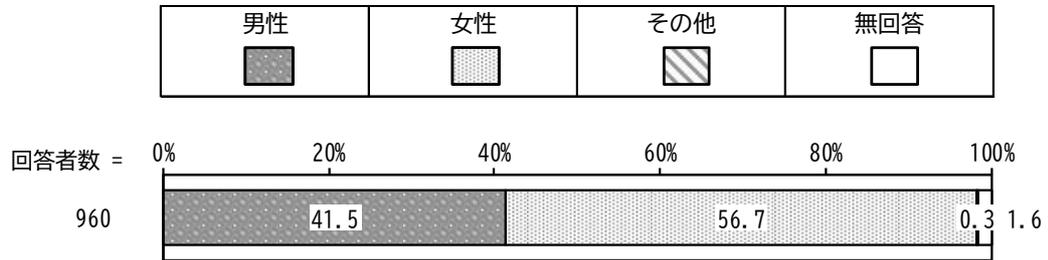
区分	回答者数（件）	仕事と子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実	DVやセクハラに関する相談窓口や被害者のための支援の充実	女性に対するあらゆる暴力などの人権侵害を根絶するための啓発活動	ひとり親家庭の自立支援	女性に対する能力開発・職業訓練・就職に関する情報提供などの充実	離職した女性に対する再就職支援	出産・育児や介護などにより離職した女性に対する再就職支援	男女共同参画に関する講座や講演会の開催	学校などでの男女共同参画に関する意識啓発
全体	960	62.1	16.7	9.0	24.7	11.5	31.7	5.4	21.9	
している（事実婚・パートナーを含む）	668	63.2	16.5	8.7	23.7	11.8	31.3	4.8	22.3	
していない（離別・死別を含む）	288	60.4	17.4	9.7	27.1	10.8	33.0	6.9	21.2	

区分	事業者に対して、労働時間の短縮や在宅勤務の普及等働き方の見直しに対する啓発	審議会委員等、政策決定の場に女性を積極的に登用	行政職員の管理職に女性を積極的に登用	男女の平等と相互の理解や協力について広報・PR	性的マイノリティ（LGBT等）に関する講演会の開催	小田原市パートナーシップ登録制度の活用	その他	無回答
全体	29.4	12.6	10.7	11.7	0.6	2.1	2.2	11.7
している（事実婚・パートナーを含む）	31.0	12.0	9.1	12.1	0.3	2.1	2.5	11.4
していない（離別・死別を含む）	26.0	14.2	14.6	10.8	1.4	2.1	1.4	11.5

## 8 あなたご自身のことについて

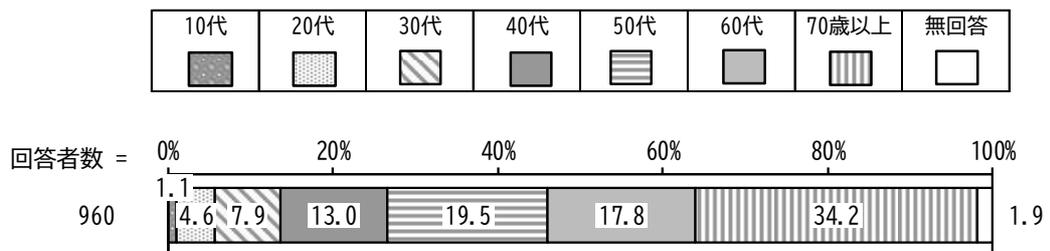
問 33 あなたの性別について教えてください。あてはまる番号1つに○をつけてください。

「男性」の割合が41.5%、「女性」の割合が56.7%となっています。



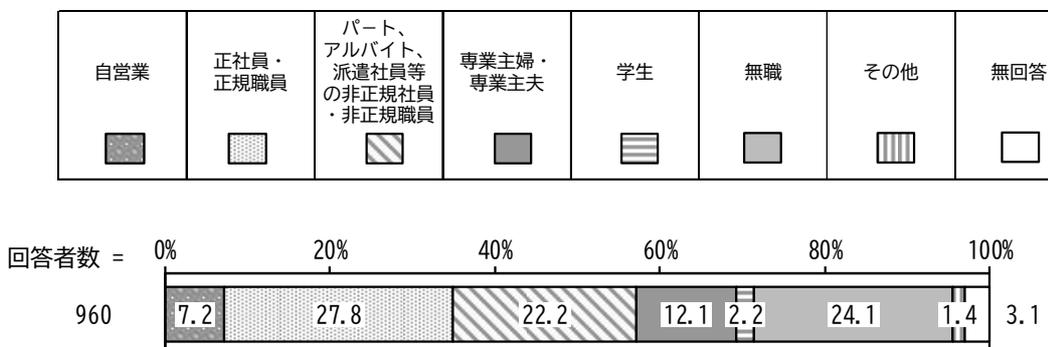
問 34 あなたの年齢について教えてください。あてはまる番号1つに○をつけてください。

「70歳以上」の割合が34.2%と最も高く、次いで「50代」の割合が19.5%、「60代」の割合が17.8%となっています。



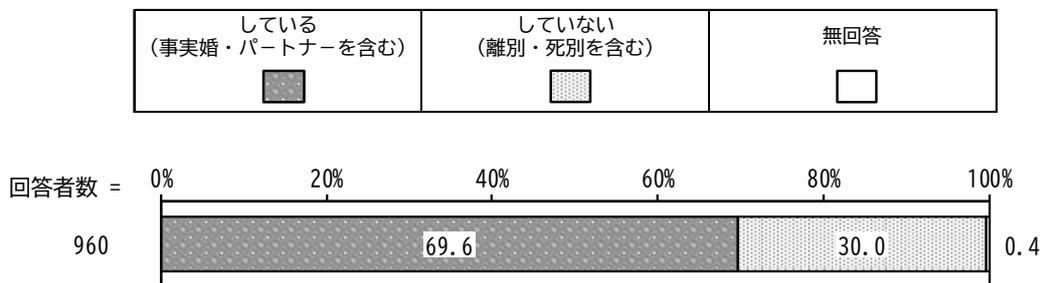
問 35 あなたのご職業について教えてください。あてはまる番号1つに○をつけてください。

「正社員・正規職員」の割合が27.8%と最も高く、次いで「無職」の割合が24.1%、「パート、アルバイト、派遣社員等の非正規社員・非正規職員」の割合が22.2%となっています。



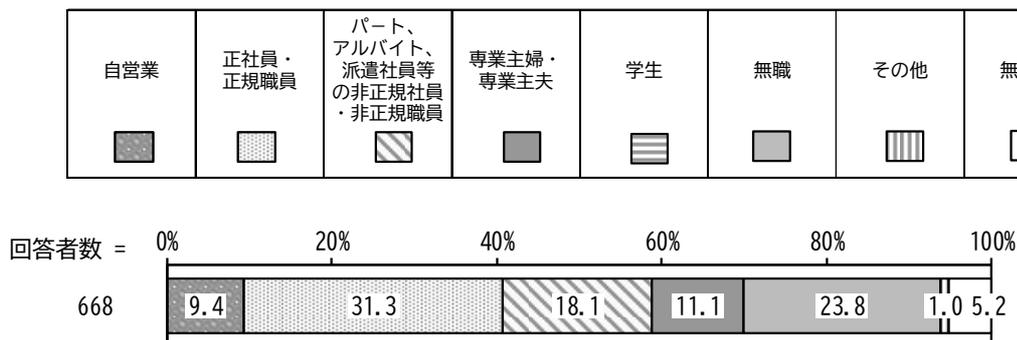
問 36 あなたは結婚していますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

「している（事実婚・パートナーを含む）」の割合が69.6%、「していない（離別・死別を含む）」の割合が30.0%となっています。



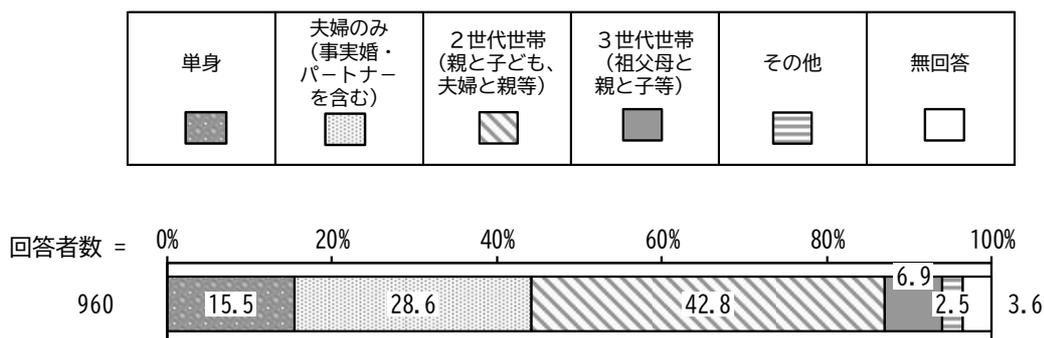
問 37 問 36で「している（事実婚・パートナーを含む）」と回答した方にお伺いします。配偶者・パートナーの方のご職業について教えてください。あてはまる番号1つに○をつけてください。

「正社員・正規職員」の割合が31.3%と最も高く、次いで「無職」の割合が23.8%、「パート、アルバイト、派遣社員等の非正規社員・非正規職員」の割合が18.1%となっています。



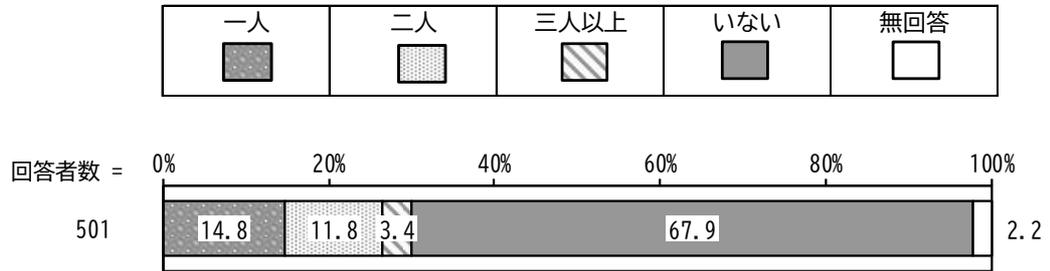
問 38 全ての方にお伺いします。あなたの家族構成について教えてください。あてはまる番号1つに○をつけてください。

「2世代世帯（親と子ども、夫婦と親等）」の割合が42.8%と最も高く、次いで「夫婦のみ（事実婚・パートナーを含む）」の割合が28.6%、「単身」の割合が15.5%となっています。



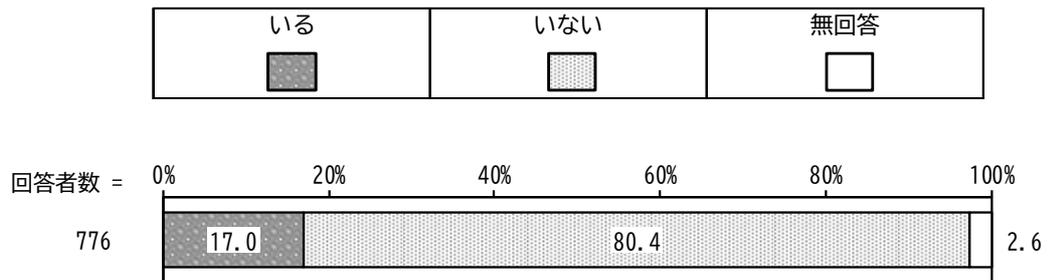
問 39 中学生以下のお子さんは何人いらっしゃいますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

「いない」の割合が67.9%と最も高く、次いで「一人」の割合が14.8%、「二人」の割合が11.8%となっています。



問 40 あなたのご家族に介護が必要な方はいらっしゃいますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

「いる」の割合が17.0%、「いない」の割合が80.4%となっています。



### Ⅲ 自由回答

#### (1) 男女共同参画（社会）に関する意識について

- ・「男女」という時点で多様性に対する配慮に欠ける。根本は個々人の尊重、権利の擁護であって、不必要な接頭語や限定、修飾は、特に行政においては不要であり、むしろ害がある。
- ・女性のための支援ではなく、支援も男女の差をつけずに行っていけると、より平等な社会になると思う。
- ・男女共同参画対策も、ほどほどに。男性と女性では、身体的能力ひとつを取っても差があるのはあたり前。平等などありえない事です。優劣ではなくて適性の違いを理解することが大事。ただし、男性と言うだけで優遇される、能力不足の人物は身の丈に合う評価に留めるべき。
- ・困難な問題を抱える男性のことを考えることも必要。
- ・すでに男女は平等であり、これ以上の活動は不用。むしろ、平等になることで社会経済のバランスが崩れており、そちらの方が問題である。
- ・私の身近なところでは、女性（独身や子供の有無など問わず）が活動の中心になっています。「共同参画」ということなら、男性の参加が必要。
- ・日本社会全体が変わらないと根深く、難しい問題だと思う。

#### (2) 出産・育児に関する意識について

- ・男女共同参画をすすめるほど少子化が進んでしまうと思う。女の人が子育て、介護、家事さらに仕事までとなると負担が大きくなる。男女平等というのは遺伝子レベルで違うので、難しいと思う。男女共同参画をすることで女性の負担だけが増えるように感じている。
- ・問 31 の中から3つ選ぶのが難しかったのでここに書きます。ひとり親家庭の自立支援…色々な事情の家庭があると思うので、ひとり親でも生活していける支援があると安心できるのかなと思います。
- ・男性には現実の仕事と家庭の両立が実感としてわからないと思うので、女性に対する支援に柱を置いていくべきだと考えます。
- ・出産、育児、介護等男女平等になれば必然的に社会参画も行政への参加、職員、管理職増加にもつながると思う。その為の女性意識の向上も同時に必要だと思う。
- ・男女とも労働時間が短縮できれば子どもにむきあえる時間が増えてありがたいが、収入が下がるのは困る。収入減は生活苦につながるので悩ましい。
- ・障がい児がいるため夫婦とも正社員でいられず、片方がパートとなった。
- ・女性が多い職業は賃金が低い（例、保育士等）、離職率が高いのも理由だと思う。少子化なのに保育園に入れたくても落ちるこの仕組を改善しないと、産後に仕事復帰したいけどできない女性が増え続ける。
- ・数年前に比べると男性の家事・育児比率が上がっているが、まだまだ女性（母親）がすべき割合が多い。女性は出産を機に自動的に母親になるが（母親として意識し育児をするが）、男性にももっと自分事父親としての自覚が持てる社会になるとよい。
- ・女の人が家にいて子育てして欲しいと思います。主婦はすばらしいです。子供をしっかりと育ててくれて、地域との交流もしっかりやってくれています。

#### (3) 女性の活躍推進に関する意識について

- ・女性の社会参加の増進＝男性の家庭参加であることを踏まえる必要がある。
- ・男女問わず働かないと暮らしていけない時代に生まれたので、共稼ぎはあたり前という価値観があります。男女共同参画では、女も男と同等の賃金やサービスを受けられる様な形にして頂きたいと思います。
- ・社会に出て正職で働くことを面倒くさがって働きをやらない、めんどうだから管理職にならない、「〇〇さん家のママも働いていないから働かない」というパターンが多い。家で寝ながらテレビを見ている事が多い。子供の送迎はやる。とにかく労働意欲が少ない女性が多い。

- ・出産・育児や介護などにより離職した女性に対する再就職支援…職を離れる際の1番の不安が再就職のことだと思うので、その支援があると選択肢が広がると思います。
- ・歴史的にも男性優位社会であった日本において、男女関わらず社会で活躍するスタートは、世界の中でも遅い。ラトビアやスウェーデン等、そうした社会から脱した国のケースを見て学ぶのが近道だと思う。
- ・子育てや労働時間に追われる事から解放された50代後半～60代70代80代の女性が、今までの経験を生かして有意義な意見が云えるのではないですか。
- ・仕事をしながら子育てをする女性を支援するだけでなく、専業主婦が主婦のまま社会の政策決定や仕組みに意見が反映されるような取り組みもあつたら良いのに、と思います。仕事の管理職になることだけが社会参画ではないと思います。
- ・能力のある女性を積極的に活かす。その活かし方がまだまだ足りないように思います。一方、女性の方も平等は闘って勝ち取るものであることを肝に銘じて欲しい。
- ・女性であることのマイナスは昔にくらべればなくなっており、逆に女性だからと過度な取り組みは女性優遇となり逆差別につながるのでは？
- ・男性だけで収入が十分に受けられる社会であれば、働かず、こうしたことができます。もちろん働きたい女性は、働くことのできる社会は、大切だと思いますが、その中で子供たちの家庭での教育（子供の適性を見つけて、先生はこう言うけどあなたはこれが合っている等言える人）をできるような仕組みが必要だと思うし、男性でもそれができるようにすることも必要です。
- ・中小企業ではむずかしいのではないか！？と思う。

#### (4) 性の多様性について

- ・LGBT等は、なくした方がいい、反対。
- ・レズビアン、ゲイ、バイセクシャルのマイノリティと表現するよりも、それにヘテロセクシャルを加えた四種の性的指向とするべきではないか、と常々思います。
- ・トランス差別と言われる事もありますが、トランス女性（元男性）は女性用トイレや更衣室、公衆浴場などを使わないよう各所にポスターなどで周知してほしい。変わるべきは女性ではなく、男性です。多様な性を受け入れるようになってほしいのは男性です。
- ・上記問いの「55才程度」にある自分が男女共同参画社会、LGBTという問題をどこかで「受け入れがたい」と少なからず思っています。世代交代をまつべきでは。
- ・今の風潮は「女性」だから、「LGBT」だからと行きすぎに思う。片寄りすぎるのはうまくいかなる（職場で経験上）。
- ・性的マイノリティ（LGBT）の宣伝講演は反対です。少子化の一端を担っていると思います。
- ・性的マイノリティに対して快く思わない人を認めるのも多様性だと思う。

#### (5) DV(ドメスティック・バイオレンス)に関する意識について

- ・ここでのアンケートは女性の被害が中心ですが、女性から男性に対して暴力もあると言う事も知ってほしいです。
- ・DVを受けているのは女性だけでなく、男性もいるはずです。男女問わず相談できる体制が必要。女性側も“弱い”とか“守られるべき存在”という意識を変えるべきだと思います。例えば、年金3号を廃止して、個々が支払った分の年金を受け取るようにすれば社会に残ろうとするのではないのでしょうか（国施策ですが…）。経済的・精神的自立は大切です。男性と女性は、体力も得意なことも違います。できることをできる方がやっていくことができるといいなと思います。

## (6) ハラスメントに関する意識について

- ・女性の権力を強めることは望ましいと思う一方で、いきすぎれば、冤罪などの男性不利な状況がうまれるという懸念も忘れてはならないと感じる。
- ・女だけの職場なので、かげ口がパワハラやモラハラという認識なく日常的に行われているので、保育の世界にも、もっと男性が参加して陰湿なかげ口が恥しいと思えるようになれば良いと思います。
- ・セクハラを職場の利用者からされましたが、職場の上司に当人同志で和解した事にされ、結局泣き寝入りさせられました。
- ・勤務先でセクハラを受けた女性が女性管理者に相談しても、セクハラをされる様なあなたがいけないと言われ、泣く泣く退職させられている子を見ると可哀想になります。「男と女」だけでなく「女と女」でも解決せねばならない問題があると思います。
- ・女性だけでなく、男性も女性からの性的被害に遭っているケースも多い。女性のみを擁護する法律も大事だが、男性被害者のことももっと大事に考えたほうが良いのではと思った。

## (7) 男女共同参画社会に関する行政への要望

- ・法律や機関等が出来ても社会に根ざしていなければ意味が無い。少しでも多くの人に役立つようにしてほしい。相談のしやすさ。利用のしやすさ等。
- ・まだまだ男性の育休取得が進んでいない。制度はあるが使えないのが現状。
- ・介護職、保育職の「手取り」がもっと増えるように見直してほしい。⇒夫が介護職ですが、仕事をかけ持ちし、ほぼ休みなしの状態で働かないと生活が成り立たないのが現状です。どうかかけて下さい。
- ・市役所内の男女の構成内容が、適格なのでしょうか？
- ・上記2、3に関して加害者に対する厳罰化。今は軽すぎると思うので法制化を行政で働きかけて下さい。
- ・女性に対してではなく、男女両方に対しての施策を実施するべきだと思います。
- ・若い人の意見を聞いて欲しい。
- ・「町内福祉村」を立ち上げて欲しい。
- ・男女共同参画を考える前に社会的弱者を助けてあげてほしい。
- ・制度はなくし、政治家の給料を減額して、社会保険料負担を減らしてほしい。
- ・スピーディに展開して欲しい。小田原評定でなく。神奈川県はどうにも、東部と横浜中心に政治に限らず文化や人が動いている感があります。もっと小田原もアグレッシブに活躍の道を開いてほしい。
- ・小田原の約20万都市としては“男女共同参画”を話す前に、まず街づくりの（特に駅前の開発）仕方、計画が先で人が喜んで移住出来る、そして皆が集う街づくり計画が基本だろうと思う。市長が代々替っても、街づくり計画の活気が何も生まれえない。「小田原」の名ばかりが先行して中味は空っぽ、人がだんだん減って行く。まず、人口が増えることを考えてほしい。これらの問題はそれからだと思う。

## (8) 男女共同参画社会に関する教育の推進

- ・施行されていた当初は市では、男女共同参画の講演会等開催されていたように思いますが、最近では以前に比べて、男女共同参画のポスターなど目にするのが少なくなったかなと思うのですが。男女問わず生きやすい社会になって欲しいなど、思う次第です。
- ・幼少期において両親の考え方や教育方針が大事かと思います。又学校教育においても柔軟な体制が必要かと思います。
- ・PR、啓発、講演会などは関心のある人しか参加しないので、無関心な人への意識づけをどうしたらよいか考えて下さい。（私にはわからないので…）
- ・学校、職場の理解浸透、意識改革が急務。
- ・すべて本人しだいなので、啓発活動・PR・講演会などは意味がないと思います。罰則等を強化した方が良いと思います。

## (9) アンケートについて

- ・20代～30代女性の方にアンケートをお願いしたらいいのではと思います。仕事、結婚、育児に悩んでいる方はたくさんいると思います。
- ・本アンケートは、女性が弱者である事が前提になっている質問があるように見える。これ自体が男女平等に反しているようにも見える。
- ・このアンケートに参加して、小田原市が細やかな対応をとっている事を知った。だが知られてない事が多い様にみられたので、もっと多くにひろめたら良いと思う。
- ・小田原市パートナーシップ登録制度は、このアンケートがあるまで知りませんでした。ステキだなと思いましたが、認知されていないのかなと思いました。
- ・18歳に未だない男女の意見も聞くべきと思う。
- ・自治会の様な古い組織を利用しないこと。このアンケートに「自治会長」の文言があること自体が問題。
- ・同上（知らないので意見もない）こんなアンケートで何を解決しようとしているのか、理解できない。
- ・今回のアンケートでより詳しく男女共同参画の事を知ることができました。こういうことがきっかけになることがあるので、まずは1人1人が知ることも大切なのではないかと思います。
- ・職業によってさまざまです。アンケートも自営業他の意見等参考にしたほうが…男・女等同じではない。

## (10) その他

- ・女性への支援のしすぎは良くない。男性側にも支援がないと不満が生まれる。加害者への罰則強化が良いと思う。
- ・男女共同参画という単語が堅く身近に感じないため、もっと身近な親近感のあるワードに変えたらいかがでしょうか。

## IV 調査票

### 男女共同参画市民意識調査

～「男女共同参画に関する市民アンケート調査」ご協力のお願い～

市民の皆様には日頃より市政に対しましてご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。  
ございます。

本市では、令和9年度に「第4次おだわら男女共同参画プラン（仮称）」の策定を予定しており、その基礎資料として、本調査を実施いたします。

本調査は、小田原市内にお住まいの18歳以上（令和6年10月1日現在のデータに基づいております）の男女3,000人を無作為抽出にてお選びし、そのお一人としてあなた様にアンケートのご協力をお願いするものです。

お忙しいところ大変申し訳ありませんが、このアンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、このアンケート調査結果は統計的に整理いたしますので、ご回答いただいた方が特定されたり、他の目的に使用することはありません。

調査結果につきましては、報告書にまとめ、小田原市役所などでご覧いただけるほか、小田原市のホームページでも公開する予定です

令和7年（2025年）1月

小田原市長 加藤 憲一

#### <記入方法について>

- ・この調査票は、あて名の方ご自身のお考えでご記入ください。あて名の方をご記入できない場合は、ご家族の方をご記入いただいても構いません。
- ・ご回答は、当てはまる番号に○をつけてください。「その他」に○をつけた場合は、（ ）内にその内容をご記入ください。
- ・一部の方だけにご回答いただく設問もあります。その場合は、指示文に従ってご回答ください。

#### <提出について>

ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れ、

**1月20日（月）**までにご返送をお願いいたします。

#### <お問い合わせ>

アンケート調査についてご不明な点がございましたら、恐れ入りますが下記の電話またはメールにてお問い合わせください。

小田原市 市民部 人権・男女共同参画課  
電話 0465-33-1725  
月曜日から金曜日（祝日を除く）8:30～17:15  
E-mail: jinken@city.odawara.kanagawa.jp

1 男女共同参画に関する基本的意識についてお聞きします。

問1 男女共同参画に関する次の言葉のなかで、あなたが知っている、または聞いたことがある言葉すべてに○をつけてください。

- 1 男女共同参画社会
- 2 ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）
- 3 ドメスティック・バイオレンス(DV)
- 4 ポジティブ・アクション（男女間の格差を解消するための積極的取り組み）
- 5 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
- 6 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）
- 7 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）
- 8 マタハラ・パタハラ（妊娠・出産・育児休業などを理由とする嫌がらせ）
- 9 アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込みや偏見）
- 10 ダブルケア（子育てと介護を同時期にすること）
- 11 DE & I（多様性(ダイバーシティ)・公平性(エクイティ)・包括性(インクルージョン))
- 12 SDGs（国連で採択された持続可能な開発目標）

問2 次の①から⑧の各分野において、男女の地位はどのようになっていると思いますか。あてはまる番号それぞれ1つずつ○をつけてください。

		男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇
	(記入例) ⇒	1	2	③	4	5
①	家庭生活	1	2	3	4	5
②	職場	1	2	3	4	5
③	学校教育	1	2	3	4	5
④	政治の場	1	2	3	4	5
⑤	法律や制度上	1	2	3	4	5
⑥	社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5
⑦	地域活動（自治会、PTA、ボランティアなど）	1	2	3	4	5
⑧	社会全体	1	2	3	4	5

問3 あなたは、次にあげるような役職に「女性がもっと増える方がよい」と思いますか。あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

		そう 思う	い ど ち ら か も い え な い	そ う は な い
①	職場の管理職	1	2	3
②	市の審議会等の委員	1	2	3
③	市議会議員	1	2	3
④	自治会長	1	2	3
⑤	地域の防災リーダー	1	2	3
⑥	PTA会長	1	2	3

問4 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性の参加が進み、女性のリーダーが増えることのような影響があると思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- |  |
|--|
| 1 多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される<br>2 人材・労働力の確保につながり、社会全体が活性化する<br>3 女性の声が反映されやすくなる<br>4 男女問わず意欲ある人材が活躍できるようになる<br>5 男女問わず仕事と家庭のバランスのとれた生活ができるようになる<br>6 労働時間の短縮など働き方の見直しが進む<br>7 男性の家事・育児・介護などへの参加が増える<br>8 今より仕事以外のことが優先され、業務に支障をきたすことが多くなる<br>9 男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる<br>10 保育・介護などのサービスの必要性が増大する<br>11 その他 ( ) |
|--|

問5 職場や地域活動等の場において、女性の管理職や役員は男性に比べて少ないのが現状です。このような政策決定の場に女性の参画が少ない理由について、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- |                     |                          |
|---------------------|--------------------------|
| 1 男性中心の組織運営になっているから | 2 家事・育児・介護などで忙しいから       |
| 3 男女の性別役割分担意識が強いから  | 4 家族の支援や協力が得られないから       |
| 5 女性側の積極性が十分でないから   | 6 女性はリーダー学習などの経験が十分でないから |
| 7 その他 ( )           |                          |

問6 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的性別役割分担意識についてどのように思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- |              |              |         |
|--------------|--------------|---------|
| 1 賛成         | 2 どちらかといえば賛成 |         |
| 3 どちらかといえば反対 | 4 反対         | 5 わからない |

問7 問6でそのように思った理由について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 自分の両親も役割分担をしていたから
- 2 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
- 3 妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
- 4 家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから
- 5 日本の伝統的な家族のあり方だと思うから
- 6 その他 ( )

問8 自分の性や身体のことを自分で選択し、守ることができる権利を「SRHR（リプロダクティブ・ヘルツ/ライツ（性と生殖に関する健康）」といいます。子どもを産む、産まない、産むとすれば、いつ何人産むかは女性の意思を尊重すべきであるという考えについてどのように思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 賛成
- 2 反対
- 3 どちらともいえない

問9 家庭の仕事の分担について、あてはまる番号に○をつけてください。

「現在」の欄は配偶者（事実婚を含む）のいる方のみお答えください。

「理想」の欄はすべての方がお答えください。

		現在					理想				
		夫婦半々	おもに妻	おもに夫	その他の人	該当しない	夫婦半々	おもに妻	おもに夫	その他の人	該当しない
①	家事	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
②	育児・子育て	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
③	地域活動	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
④	介護	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問10 2022年に育休・介護休業法が改正され、事業者に対して男性の育休等の取得促進が義務化されましたが、男性の育児休業や介護休業の取得率は、女性に比べて少ないのが現状です。この理由についてどのようにお考えですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 職場の理解を得られないから
- 2 職場の仲間に申し訳ないと思うから
- 3 昇進や昇給に影響する恐れがあるから
- 4 休業後の職場復帰に不安があるから
- 5 仕事の量、責任が重いから
- 6 休業中は収入がなくなり、家計を維持できないから
- 7 女性の方が育児や介護に向いているから
- 8 その他 ( )

問 11 男性が家事・育児・介護等に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事等に参加することに対する女性自身の抵抗感をなくすこと
- 3 家族間でコミュニケーションを図ること
- 4 男性が家事・育児等に参加することに対し、社会や職場の理解を深めること
- 5 仕事以外の時間を快くもてるような仕組みづくり
- 6 仲間づくりやネットワークづくり
- 7 その他 ( )

## 2 女性の活躍推進に関する意識についてお聞きします。

問 12 あなたは女性が職業を持つことについてどのようにお考えですか。  
あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 女性は職業を持たない方がよい
- 2 結婚するまでは職業を持つ方がよい
- 3 子どもができるまでは職業を持ち続ける方がよい
- 4 結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける方がよい
- 5 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
- 6 その他 ( )
- 7 わからない

問 13 女性は男性に比べ、就職しても途中で離職する割合が高いですが、女性が働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いもの3つに○をつけてください。

- 1 保育所や介護施設などの整備
- 2 家事・育児支援サービスの充実
- 3 育児休業・介護休業中の賃金や福利厚生などの充実
- 4 男女双方の長時間勤務の改善
- 5 フレックスタイム制や在宅勤務など多様な働き方の推進
- 6 女性が働き続けることに対する家族などの理解と協力
- 7 女性が働き続けることに対する職場の理解と協力
- 8 働き続けることへの女性自身の意識改革
- 9 男性が家事・育児・介護等に参加することへの理解・意識改革
- 10 その他 ( )

問 14 あなたは女性が管理職につくことについてどのようにお考えですか。  
あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 女性の管理職比率を増加させるべきである
- 2 能力があれば管理職につけるべきである
- 3 子育て・介護などの役割を女性に求めると管理職をつとめるのは難しい
- 4 管理職にはつかないほうがよい
- 5 特に何も思わない
- 6 その他 ( )
- 7 わからない

### 3 性の多様性についてお聞きします。

問 15 世界の人口に占める性的マイノリティ（LGBT等）の割合は、約8%といわれていますが、あなたは、性的マイノリティ（LGBT等）という言葉を知っていますか。  
あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 知っている
- 2 知らない

問 16 小田原市では、2019年4月1日より、日常生活において相互に協力しあい、継続的に共同生活を行うことを約束した、一方又は、双方が性的マイノリティであるお二人を対象に「小田原市パートナーシップ登録制度」を導入しました。あなたはこの制度を知っていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 知っている
- 2 聞いたことはあるが内容は知らない
- 3 知らない

問 17 あなたは、今までに自分の身体の性、心の性または性的指向（同性愛など）に悩んだり、または身近に悩んでいる人がいますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 自分が悩んでいる（自分が悩んでいた）
- 2 家族や知人が悩んでいる（家族や知人が悩んでいた）
- 3 悩んでいない（悩んでいる家族や知人はいない）

問 18 現在、性的マイノリティ（LGBT等）の方々にとって、偏見や差別などにより生活しづらい社会だと思いませんか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 思う ⇒問 19 へ
- 2 どちらかといえば思う ⇒問 19 へ
- 3 どちらかといえば思わない
- 4 思わない



問 22 問 21 で 1 と回答した方にお伺いします。

問 20 の①から⑨のような行為を受けたことをだれ（どこ）かに相談しましたか。

1 相談した ⇒問 23 へ	2 相談しなかった ⇒問 24 へ
----------------	-------------------

問 23 問 22 で 1 と回答した方にお伺いします。だれ（どこ）に相談しましたか。

1 家族・親戚	2 市や県の相談窓口
3 友人・知人・同僚	4 民間の相談窓口
5 同じような経験をした人	6 弁護士・警察・医師・カウンセラーなど
7 その他（	）

問 24 問 22 で 2 と回答した方にお伺いします。相談しなかった理由は何ですか。

1 だれ（どこ）に相談したらよいか分からなかったから	
2 相談するのが恥ずかしかったから	
3 世間体が悪いから	
4 相談しても無駄だと思ったから	
5 相談したことが分かると仕返しされと思ったから	
6 自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから	
7 他人に迷惑をかけたくなかったから	
8 自分にも悪いところがあると思ったから	
9 相談するほどのことではないと思ったから	
10 そのことについて思い出したくなかったから	
11 その他（	）

問 25 次の言葉のなかで、あなたが知っている、または聞いたことがある言葉はありますか。

あてはまる番号にそれぞれ 1 つずつ○をつけてください。

		知っている	聞いたことはある	わからない
①	悪質ホストクラブ被害（支払い能力を超える売掛金を負担させ、売春等の違法行為をさせる）	1	2	3
②	SNS性被害（SNSを通して児童買春や児童ポルノ等の被害にあうこと）	1	2	3
③	デートレイプドラッグ（薬により抵抗力を奪い、性暴力に及ぶ）	1	2	3
④	デートDV（交際相手からふるわれる暴力）	1	2	3
⑤	J Kビジネス（若年層の性を利用してお金を稼ぐビジネス）	1	2	3

問 26 DVの被害を防止するためにどのようなことが必要だと思いますか。  
あなたの考えに最も近いもの2つに○をつけてください。

- |                                     |                    |
|-------------------------------------|--------------------|
| 1 被害者のための保護施設の整備                    | 2 被害者のための相談機関の整備   |
| 3 加害者に対する教育                         | 4 加害者への罰則強化        |
| 5 暴力を防止するための教育や啓発の充実                | 6 男女間の経済的、社会的格差の解消 |
| 7 テレビ、雑誌、インターネット、マンガなどにおける暴力的な情報の規制 |                    |
| 8 その他 ( )                           |                    |
| 9 有効な手段はない                          |                    |

**5 ハラスメントに関する意識についてお聞きします。**

問 27 あなたは、次のようなことが行われた場合、セクシュアル・ハラスメントだと思いますか。  
あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

		セクハラにあたる	セクハラにあたる場合とそうでない場合もある	セクハラにあたらぬ	わからない
①	職場や公共の場での性的な冗談	1	2	3	4
②	職場や公共の場に水着やヌードのポスターを貼る	1	2	3	4
③	「女（男）のくせに」など差別的な言葉	1	2	3	4
④	不必要に身体をさわること	1	2	3	4
⑤	結婚、出産などプライベートなことをたびたび聞くこと	1	2	3	4
⑥	容姿について繰り返し言うこと	1	2	3	4

問 28 あなたは、直近5年以内に職場などで次のハラスメント（嫌がらせ）を受けたことはありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- |                                     |
|-------------------------------------|
| 1 セクハラ（性的な嫌がらせ）                     |
| 2 パワハラ（職権などを背景にした嫌がらせ）              |
| 3 モラハラ（言葉や態度により、精神的な苦痛を相手に与える嫌がらせ）  |
| 4 マタハラ・パタハラ（妊娠・出産・育児休業などを理由とする嫌がらせ） |
| 5 その他 ( )                           |
| 6 受けてない                             |

6 困難な問題を抱える女性への支援についてお聞きします。

問 29 2024 年4月に「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行され、国及び地方公共団体は、困難な問題を抱える女性への支援のために必要な施策が義務付けられました。あなた自身もしくは身近な女性で、女性であることで困難な問題（性被害、家庭問題、生活困窮等）を経験したり、聞いたことはありますか。  
あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 配偶者・パートナー・恋人等からの暴力・暴言
- 2 1以外の家族（子・兄弟・祖父母等）からの暴力
- 3 家族関係が良好ではない
- 4 性的な被害や問題（性暴力や望まない妊娠等）
- 5 仕事が不安定
- 6 孤立・孤独を抱えている
- 7 経済的困窮（光熱費、食費、医療費の支払いに困っている等）
- 8 その他（）
- 9 聞いたことはない

問 30 あなたは、困難な状況にあるときに次の相談機関を利用できることを知っていますか。  
あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 市の女性相談
- 2 県の女性相談
- 3 かながわ女性の不安、困りごと相談室
- 4 かながわ犯罪被害者サポートセンター
- 5 かながわ性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター「かならいん」
- 6 妊娠SOSかながわ
- 7 知らない



問 35 あなたのご職業について教えてください。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- |                               |            |      |
|-------------------------------|------------|------|
| 1 自営業                         | 2 正社員・正規職員 |      |
| 3 パート、アルバイト、派遣社員等の非正規社員・非正規職員 |            |      |
| 4 専業主婦・専業主夫                   | 5 学生       | 6 無職 |
| 7 その他 ( )                     |            |      |

問 36 あなたは結婚していますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- |                      |         |
|----------------------|---------|
| 1 している（事実婚・パートナーを含む） | ⇒問 37 へ |
| 2 していない（離別・死別を含む）    | ⇒問 38 へ |

問 37 問 36 で1と回答した方にお伺いします。

配偶者・パートナーの方のご職業について教えてください。  
あてはまる番号1つに○をつけてください。

- |                               |            |      |
|-------------------------------|------------|------|
| 1 自営業                         | 2 正社員・正規職員 |      |
| 3 パート、アルバイト、派遣社員等の非正規社員・非正規職員 |            |      |
| 4 専業主婦・専業主夫                   | 5 学生       | 6 無職 |
| 7 その他 ( )                     |            |      |

問 38 全ての方にお伺いします。

あなたの家族構成について教えてください。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- |                       |  |         |
|-----------------------|--|---------|
| 1 単身                  |  |         |
| 2 夫婦のみ（事実婚・パートナーを含む）  |  | ⇒問 40 へ |
| 3 2世代世帯（親と子ども、夫婦と親 等） |  | ⇒問 39 へ |
| 4 3世代世帯（祖父母と親と子 等）    |  | ⇒問 39 へ |
| 5 その他 ( )             |  | ⇒問 39 へ |

問 39 中学生以下のお子さんは何人いらっしゃいますか。

あてはまる番号1つに○をつけてください。

- |      |      |        |       |
|------|------|--------|-------|
| 1 一人 | 2 二人 | 3 三人以上 | 4 いない |
|------|------|--------|-------|

問 40 あなたのご家族に介護が必要な方はいらっしゃいますか。

あてはまる番号1つに○をつけてください。

- |      |       |
|------|-------|
| 1 いる | 2 いない |
|------|-------|

～ ご協力ありがとうございました ～

小田原市男女共同参画市民意識調査  
報告書

令和7年3月

小田原市 市民部 人権・男女共同参画課  
〒250-8555 小田原市荻窪 300 番地  
TEL: 0465-33-1725 (直通)